北区埋蔵文化財調査年報

－令和３年度－

２０２３

東京都北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査年報

－令和３年度－

２０２３

東京都北区教育委員会

例　言

1．本書は、令和３年度に実施した、北区内における埋蔵文化財発掘調査等の結果を報告するものである。

2．本書は、文化財保護法第 99 条に基づき北区教育委員会が調査主体者となり実施した、埋蔵文化財本発掘調査、試掘調査、確認調査の結果報告を主とする。

3．本書の編集は、北区教育委員会（担当：牛山英昭・髙坂勇佑）によるものである。

4．各報告文の執筆・作成は、北区教育委員会の監修・指導のもと、発掘調査等の作業に従事した株式会社東京航業研究所の調査員（岩崎岳彦・遠藤知成・小森暁生・坂下貴則・宅間清公・遠竹陽一郎）がこれにあたった。

5．本書に掲載された発掘調査等の出土遺物や記録類については、北区教育委員会が保管している。

6．本書に収録される調査および本書の作成にあたり、以下の諸氏、諸機関よりご指導、ご協力を賜った。（敬称略）

吉岡環境開発株式会社
株式会社東京航業研究所
東京都教育庁地域教育支援部管理課

令和３年度　届出・通知件数　照会・立会実施等件数

届出・通知	法第 92 条：	2 件	照　　会：	2,631 件
	法第 93 条：	114 件	立会実施：	77 件
	法第 94 条：	6 件	慎重工事：	6 件

令和３年度　北区埋蔵文化財発掘調査一覧

公共事業（東京都埋蔵文化財センターによる本発掘調査を除く）

遺跡No.	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
51	栄町貝塚	栄町 5		確認調査	116.2	03.06.14-03.06.30	集合住宅	（民間調査組織による本発掘調査を実施）				
9	赤羽上ノ台遺跡	赤羽台 1-1-13	35° 46′ 49″ 139° 43′ 05″	本発掘調査	4,000.0	04.03.08-	学校跡地利活用計画	（令和５年度報告書刊行予定）				令和４年度に調査継続

民間事業（法第 92 条および法第 99 条による調査）

遺跡No.	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
9	赤羽上ノ台遺跡	赤羽台 1-1-28(地番)	35° 46′ 45″ 139° 43′ 02″	本発掘調査	7,824.0	02.02.03-02.08.26	学校建設	株式会社武蔵文化財研究所 2021『東京都北区 赤羽上ノ台遺跡－東洋大学赤羽台キャンパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』参照				令和元年度より継続
40	中里峡上遺跡	中里 3-16-30	35° 44′ 33″ 139° 45′ 08″	本発掘調査	145.3	02.07.06-02.08.28	解体工事	株式会社東京航業研究所 2021『東京都北区 中里峡上遺跡－中里 3-16-30 地点－発掘調査報告』参照				令和２年度より継続
27	西ヶ原遺跡群	西ケ原 2-3-15	35° 44′ 51″ 139° 44′ 40″	本発掘調査	167.2	02.12.23-03.02.02	排水処理設備更新	トキオ文化財株式会社 2021『東京都北区 御殿前遺跡－国立印刷局東京工場６号排水処理設備更新に伴う発掘調査－』参照				令和２年度より継続
27	西ヶ原遺跡群	西ケ原 3-12-23	35° 44′ 35″ 139° 45′ 34″	本発掘調査	33.2	03.07.26-03.08.05	分譲住宅	（報告書抄録を参照）				本書収録
4	袋低地遺跡	赤羽北 1-12	35° 47′ 09″ 139° 42′ 41″	試掘調査	11.7	03.08.19	集合住宅	（確認調査を実施）				

補助金事業（本書収録）

遺跡No.	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
19	十条台遺跡群	王子本町 2-8-16	35° 45′ 25″ 139° 43′ 53″	試掘調査	3.6	03.04.06	個人住宅			なし	なし	
19	十条台遺跡群	中十条 3-17	35° 45′ 55″ 139° 43′ 29″	試掘調査	9.0	03.04.08	個人住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	中里 3-23-9	35° 44′ 30″ 139° 45′ 17″	試掘調査	18.0	03.04.13	個人住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 3-24-7	35° 44′ 41″ 139° 44′ 25″	試掘調査	12.5	03.04.19	個人住宅			なし	なし	
30	中里遺跡	上中里 2-8-17・18	35° 44′ 43″ 139° 45′ 11″	確認調査	18.0	03.04.23	個人住宅	貝塚	縄文時代	貝層	なし	
40	中里峡上遺跡	中里 3-23-9	35° 44′ 30″ 139° 45′ 17″	本発掘調査	90.3	03.05.11-03.05.28	個人住宅	集落	古墳時代後期	竪穴建物跡３軒、ピット９基、性格不明遺構１基	弥生土器、須恵器、土師器	

遺跡№	遺跡名	所在地	北緯 東経	調査種類	調査面積 (㎡)	調査期間	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	備考
27	西ヶ原遺跡群	上中里 1-25	35° 44′ 37″ 139° 44′ 54″	試掘調査	2.2	03.05.12	分譲住宅			なし	なし	
18	清水坂遺跡	中十条 4-12	35° 46′ 05″ 139° 43′ 22″	試掘調査	5.4	03.05.18	個人住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 1-25	35° 44′ 36″ 139° 44′ 49″	試掘調査	19.8	03.06.08	集合住宅			なし	なし	
35	志茂遺跡	志茂 3-39-12	35° 46′ 47″ 139° 44′ 04″	試掘調査	3.9	03.06.28	分譲住宅			なし	なし	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 3-12-23	35° 44′ 35″ 139° 45′ 34″	試掘調査	16.6	03.07.08	分譲住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
19	十条台遺跡群	中十条 2-6-12	35° 45′ 42″ 139° 43′ 30″	試掘調査	19.2	03.07.28	個人兼 集合住宅			なし	なし	
31	田端町遺跡	田端 3-23-9	35° 44′ 14″ 139° 45′ 17″	試掘調査	17.0	03.09.03	事務所			なし	なし	
34	熊野神社遺跡	志茂 4-20	35° 47′ 01″ 139° 43′ 58″	試掘調査	6.7	03.09.09	個人住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
34	熊野神社遺跡	志茂 4-20	35° 47′ 01″ 139° 43′ 58″	本発掘調査	32.8	03.09.10-03.09.24	個人住宅		弥生時代 古墳時代 近世	溝状遺構 2 条、 井戸跡 2 基、 ピット 3 基	弥生土器、土師器、近世陶磁器・土器	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 3-33	35° 44′ 43″ 139° 44′ 20″	試掘調査	2.8	03.09.28	個人住宅		不明	溝跡 1 条、 ピット 3 基	なし	
40	中里峡上遺跡	田端 6-10-6	35° 44′ 28″ 139° 45′ 17″	試掘調査	6.5	03.10.14	個人住宅	（確認調査を実施）				
40	中里峡上遺跡	田端 6-10-6	35° 44′ 28″ 139° 45′ 17″	確認調査	29.9	03.10.15-03.10.22	個人住宅	集落	古墳時代 後期	竪穴建物跡 3 軒、 性格不明遺構 3 基	縄文土器、 土師器	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 2-14-1	35° 44′ 52″ 139° 44′ 27″	試掘調査	14.7	03.10.18	個人住宅	（法第 99 条による本発掘調査を実施）				
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 2-14-1	35° 44′ 52″ 139° 44′ 27″	本発掘調査	32.1	03.10.20-03.11.02	個人住宅	集落	縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代	竪穴建物跡 2 軒、 溝跡 1 条、土坑 2 基、 ピット 4 基	縄文土器、 弥生土器、石器	
19	十条台遺跡群	王子本町 1-21-4・6	35° 45′ 16″ 139° 43′ 59″	試掘調査	21.5	03.10.20	個人兼 集合住宅・ 店舗			なし	なし	
5	赤羽台遺跡	赤羽台 4-19-4	35° 47′ 04″ 139° 42′ 35″	試掘調査	5.8	03.10.26	分譲住宅			なし	なし	
32	田端不動坂遺跡	田端 1-19	35° 44′ 12″ 139° 45′ 36″	試掘調査	4.4	03.11.09	個人住宅			なし	なし	
4	袋低地遺跡	赤羽北 1-12-7	35° 47′ 09″ 139° 42′ 41″	確認調査	44.9	03.11.24-03.11.30	集合住宅	貝塚	縄文時代	貝層	縄文土器、獣骨	
35	志茂遺跡	志茂 3-39	35° 46′ 46″ 139° 44′ 06″	試掘調査	11.1	03.12.02	個人住宅		不明	性格不明遺構 1 基	なし	
27	西ヶ原遺跡群	西ヶ原 1-29	35° 44′ 39″ 139° 44′ 42″	試掘調査	24.4	03.12.13	集合住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	西ヶ原 1-16-16	35° 44′ 31″ 139° 44′ 57″	試掘調査	9.6	04.01.05	個人住宅			なし	なし	
40	中里峡上遺跡	西ヶ原 1-16	35° 44′ 31″ 139° 44′ 57″	試掘調査	9.4	04.02.01	個人住宅			なし	なし	
30	中里遺跡	上中里 2-8	35° 44′ 42″ 139° 45′ 11″	確認調査	15.7	04.02.09	道路	貝塚	縄文時代	貝層	なし	
40	中里峡上遺跡	西ヶ原 1-21-9	35° 44′ 34″ 139° 44′ 55″	試掘調査	33.0	04.02.28	個人兼 集合住宅	集落	不明	竪穴建物跡 4 軒、 性格不明遺構 2 基	土師器	令和 4 年度に本発掘調査予定

令和３年度区内遺跡
国庫補助事業調査概要報告

＜はじめに＞

令和３年度に実施された、国庫補助金対象事業である区内遺跡の埋蔵文化財発掘調査および試掘調査、確認調査の概要を報告する。当該年度は本発掘調査３件、試掘調査・確認調査が 27 件、計 30 件の調査を実施した（第 60 図）。いずれも、周知の「埋蔵文化財包蔵地」に該当するものであり、文化財保護法（以下、法）第 93 条第１項に基づく届出を経て、法第 99 条に基づき調査を実施したものである。

＜本発掘調査＞

１.中里峡上遺跡（地点：中里 3-23-9　第１～ 10・61 － 3 図　図版 1・2）

〔調査期間〕令和３年５月 11 日～ 28 日

〔調査面積〕90.3 ㎡

〔調査概要〕調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居跡３軒、ピット９基、性格不明遺構１基が検出された。第１号住居跡のカマドからほぼ完形の土師器の坏が出土したほかは、遺物はいずれも破片である。第２号住居跡からは比企型の坏が出土した。第１号性格不明遺構からは、須恵器の甕の破片が複数出土した。

〔遺構・遺物〕

【SI01】

遺構（第２・３図　図版 1）

重複関係：SI02 を切る。**平面形：**方形を呈すると推測される。住居南側は調査区外に広がっていたため、部分的な検出である。**規模：**主軸長 0.63 m以上、主軸直交長 3.14 m以上、確認面からの深さ 0.10 mを測る。**主軸方位：**N － 54°－ W。**覆土：**にぶい黄褐色土を主体に４層に分層される。**床：**貼り床はほぼ見られない。**壁溝：**調査範囲では検出されていない。**カマド：**北壁のほぼ中央部とみられる位置で検出した。カマドの袖は灰褐色の粘土で構築されており、袖の間に燃焼面を確認した。長さ 0.88 m以上、残存幅 0.82 m以上である。

遺物（第 10 図　図版 2）

出土状況：カマドの燃焼面付近から土師器の坏・甕が出土している。**土器：**1 はほぼ完形の土師器の坏で、口縁部下端に稜を持つ。2 は土師器の長胴甕である。

時期　出土遺物や切り合いから６世紀後半 (古墳時代後期) と推測される。

【SI02】

遺構（第４・５図　図版 1）

重複関係：SI01 に切られる。**平面形：**方形を呈する。北東、北西、南西の隅と一部床面、カマドの掘り込み以外は攪乱により壊されていた。**規模：**主軸長 6.47 m、主軸直交長 6.32 m、確認面からの深さ 0.22 mを測る。**主軸方位：**N － 49°－ W。**覆土：**黒褐色土を主体に９層に分層される。**床：**一部貼り床が確認できるが、大半は攪乱により壊されている。**壁溝：**幅 0.12 ～ 0.27 m、床面からの深さ 0.03 ～ 0.12 mである。**カマド：**北壁のほぼ中央部に掘り込みの残骸を確認した。長さ 0.64 m、残存幅 0.64 mである。

遺物（第 10 図　図版 2）

出土状況：カマド付近や遺構内から散漫に出土している。**土器：**3 は須恵器の蓋である。4・5 は土師器の坏で、4 は内外面に赤彩がある。5 はいわゆる比企型坏である。内面および口縁部外面に赤彩がある。

時期　出土遺物や切り合い関係から６世紀中頃 (古墳時代後期) と推測される。

【SI03】

遺構（第 6 図　図版 1）

重複関係：なし。**平面形：**方形を呈すると思われる。一部床面、カマドの掘り込み、北壁掘方の掘り込み以外は攪乱により壊されていた。**規模：**主軸長 3.0 m以上、主軸直交長 2.52 m以上、確認面からの深さ 0.16 mを測る。**主軸方位：**N － 49° － W。**覆土：**暗褐色土とにぶい黄褐色土を主体に 5 層に分層される。**床:**一部貼り床が確認できるが､大半は攪乱により壊されている。**壁溝:**北壁に沿って検出された。幅 0.20 ～ 0.24 m、確認面からの深さ 0.05 mである。**カマド：**西壁のほぼ中央部とみられる位置に掘り込みを確認した。長さ 0.84 m、残存幅 0.54 mである。

遺物（第 10 図　図版 2）

出土状況：覆土中からの出土は僅かである。**土器：**7 は土師器の坏である。8 は土師器の甕である。

時期　出土遺物と遺構から古墳時代後期と推測される。

【SX01】

遺構（第 7 図　図版 1）

重複関係：なし。**平面形：**楕円形を呈すると思われる。北東方向は調査区外に伸びており、南西壁の一部を検出したのみである。**規模:**長軸 5.42 m以上、短軸 2.39 m以上、確認面からの深さ 0.44 mを測る。**主軸方位：**不明。**覆土：**暗褐色土と黒褐色土を主体に 7 層に分層される。

遺物（第 10 図　図版 2）

出土状況：散漫に出土している。**土器：**9・10 は土師器の椀である。11 ～ 16 は須恵器の甕である。11 は内面に同心円状の押さえ痕を持つ。16 は内外面および割れ口に平滑面を持ち、砥石として転用されたものと考えられる。

時期　出土遺物から 8 ～ 9 世紀 (奈良・平安時代) と推測される。

【ピット】

遺構（第 8・9 図）

9 基のピットを検出した。遺物はほとんど出土せず、形・規模もまちまちで、有意の組み合せを見いだせない事から、それぞれ単独の遺構として記録した。

遺物（第 10 図　図版 2）

出土状況：P8 から須恵器の長頸壷が出土している。**土器：**17 は須恵器の長頸壷である。

時期　P8 は平安時代と推測される。

2.熊野神社遺跡（地点：志茂 4-20　第 11 ～ 16・62 － 13 図　図版 3 ～ 5）

〔調査期間〕令和 3 年 9 月 10 日～ 24 日

〔調査面積〕32.8 ㎡

〔調査概要〕調査の結果、弥生時代後期末から古墳時代前期の溝状遺構 2 条、近世の井戸跡 2 基、ピット 3 基を検出した。出土遺物はいずれも破片で、全体を知り得るものは出土していない。弥生時代後期末から古墳時代前期の壺と甕の破片が出土しており、近隣の調査から鑑みても、SX01・SX02 については、弥生時代後期末から古墳時代前期の周溝状遺構の一部と推測される。

〔遺構・遺物〕

【SX01】

遺構（第 12 図　図版 3）

重複関係：SX02 に切られる。**平面形：**溝状を呈し、北東－南西方向に調査区外まで伸びている。**規模:**検出範囲で主軸長 3.58 m、幅 0.77 ～ 0.88 m、確認面からの深さ 0.41 ～ 0.56 mを測る。**主軸方位:** N － 28°－ E。**覆土：**黒褐色土を主体に 10 層に分層される。

遺物（第 16 図　図版 5）

出土状況：壺・甕の小破片が覆土中より出土している。**土器：**1 ～ 3 は壺形土器で 4 は甕形土器である。

時期　出土遺物や切り合い関係から弥生時代後期末から古墳時代前期と推測される。

【SX02】

遺構（第 13 図　図版 3）

重複関係：SX01 を切る。**平面形：**溝状を呈し、北西－南東方向に調査区外まで伸びている。**規模：**検出範囲で主軸長 7.26 m、幅 0.59 ～ 0.77 m、確認面からの深さ 0.38 ～ 0.54 m を測る。**主軸方位：**N － 69°－ W。**覆土：**黒褐色土を主体に 5 層に分層される。

遺物

出土状況：図示するような遺物は出土していないが、土師器片が出土している。

時期　出土遺物や遺構の切り合いから古墳時代前期と推測される。

【SE01】

遺構（第 14 図　図版 3）

重複関係：なし。**平面形：**不整円形。**規模：**長軸 2.50 m、短軸 2.36 m、確認面より深さ 0.49 mまで掘削した。**覆土：**灰黄褐色土を主体に 1 層に分層される。ロームで人為的に埋められている。

遺物（第 16 図　図版 5）

出土状況：近世の遺物（磁器、陶器、土器）が出土している。**陶磁器：**５～７は瀬戸・美濃系の近世の陶器である。５は腰錆碗で、６は仏飯器で、７は擂鉢である。

時期　出土遺物から 18 世紀後半以降と推測される。

【SE02】

遺構（第 14 図　図版 4）

重複関係：なし。**平面形：**不整円形。**規模：**長軸 0.89 m、短軸 0.81 m、確認面より深さ 0.49 mまで掘削した。**覆土：**灰黄褐色砂質土を主体に 1 層に分層される。人為的に埋められている。

遺物（第 16 図　図版 5）

出土状況：近世の遺物（磁器、陶器、土器）が出土している。**土器：**８は江戸在地系の施釉土器の灯明受皿である。近世の所産と考えられる。

時期　出土遺物から 19 世紀以降と推測される。

【ピット】

遺構（第 15 図　図版 4）

３基のピットを検出した。遺構の性格や時期は不明である。

3.西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 2-14-1　第 17 ～ 25・62 － 16 図　図版 6 ～ 9）
〔調査期間〕令和 3 年 10 月 20 日～ 11 月 2 日
〔調査面積〕32.1 ㎡
〔調査概要〕調査の結果、縄文時代中期の住居跡を 1 軒、弥生時代後期の住居跡を 1 軒、8 世紀後半以降の溝跡を 1 条、縄文時代前期の土坑を 2 基検出した。土坑に関しては遺物が出土したのは 1 基であるが、覆土から同じ黒浜式期の土坑であると推測した。加曽利 E 式期の住居跡と弥生時代後期の住居跡を溝跡が切っており、溝跡からは流れ込みと思われる、縄文時代前・中期、弥生時代後期の遺物しか出土していない。しかし、隣接する西ヶ原 2-14-2 地点、西ヶ原 2-14-30・31 地点の溝跡と繋がっており、古代豊島郡衙正倉院西方官衙を区画する溝であると考えられる。

〔遺構・遺物〕
【SI01】
遺構（第 18・19 図　図版 6）
重複関係：SD01 に切られる。**平面形：**隅丸方形を呈すると思われる。住居南側は SD01 に切られ、住居西側は調査区外に広がっていたため、部分的な検出であった。**規模：**検出範囲で長軸 3.88 m、短軸 3.04 m、確認面からの深さ 0.66 mを測る。**主軸方位：**N － 7° － W。**覆土：**黒褐色土を主体に 15 層に分層される。**床:**掘方の見られない直床であり著しく硬化している。**壁溝:**検出されなかった。**炉:**検出されなかった。**ピット**：6 基検出した。このうち P5 と P6 は柱穴で P1 は入口梯子穴で P2 は貯蔵穴であると考えられる。
遺物（第 24 図　図版 8・9）
出土状況：覆土上層と床直上から遺物が出土した。**土器：**1・2・5 は弥生土器の壷、3・4 は甕である。
時期　出土遺物や切り合い関係から弥生時代後期と推測される。

【SI02】
遺構（第 20 図　図版 6・7）
重複関係：SD01 に切られる。**平面形：**隅丸方形を呈すると思われる。住居南側と東側は調査区外に広がっており、南側では隣地の調査で SX01 と報告されていた遺構と同一であると推測される。**規模：**長軸 5.29 m、短軸 4.72 mと推測される。確認面からの深さ 0.31 mを測る。**主軸方位：**N － 28° － W。**覆土:**黒褐色土を主体に 7 層に分層される。**床:**溝跡南側で検出された範囲では堅緻な貼り床が見られる。**壁溝：**溝跡北側で一部検出した。幅 0.43m、深さ 0.15m を測る。**炉：**住居跡中央に位置する。平面形は不整円形で、長軸 0.81m、短軸 0.59m、深さ 0.05m を測る。焼土を検出した範囲の北側に、土器を据えたと思われるピットを検出した。また攪乱されているが、被熱を受けたローム範囲を検出した。炉を作り替えた可能性が考えられる。**ピット：**検出されなかった。
遺物（第 24 図　図版 9）
出土状況：縄文時代中期の土器片と石錘が出土している。**土器：**6 ～ 8 は縄文中期の深鉢である。9 は石錘と考えられる。
時期　出土遺物や遺構の切り合いから縄文時代中期 (加曽利 E 式期) と推測される。

【SD01】
遺構（第 21 図　図版 7）
重複関係：SI01、SI02 を切る。**平面形：**溝状を呈し東西方向に調査区外まで伸びている。**規模：**主軸長 3.73 m、幅 2.24 ～ 2.32 m、確認面からの深さ 1.02 ～ 1.08 mを測る。**走行方位:**N － 87° － W。

覆土：黒褐色土を主体に 10 層に分層される。
遺物（第 25 図　図版 9）
　出土状況:流れ込みである縄文土器、弥生土器がほとんどで、時期を示すような遺物は出土しなかった。
土器：10 は黒浜式の深鉢、11 は加曽利 E 式の深鉢である。12 は土師器の高坏である。13 は鉄製品の一部と考えられる。
時期　遺構の切り合いや近隣の調査から、古代豊島郡衙正倉院西方官衙を区画する溝である可能性が高く、8 世紀後半以降の所産であると考えられる。

【SK01】
遺構（第 22 図　図版 7）
　重複関係:P3 に切られる。**平面形:**不整形。**規模:**長軸 0.83 m、短軸 0.72 m、深さ 0.55 mを測る。**覆土:**暗褐色土を主体に 5 層に分層される。
遺物（第 25 図　図版 9）
　出土状況：黒浜式期の土器片が出土している。**土器：**14・15 は黒浜式の深鉢である。
時期　縄文時代前期 (黒浜式期)。

【SK02】
遺構（第 22 図　図版 7）
　重複関係：なし。**平面形：**不整形。**規模：**長軸 0.79 m、短軸 0.69 m、深さ 0.61 mを測る。**覆土：**暗褐色土を主体に 6 層に分層される。
遺物
　出土状況：遺物は出土していない。
時期　覆土の様相から SK01 と同じ縄文時代前期 (黒浜式期) の土坑であると思われる。

【ピット】
遺構（第 22 図　図版 7）
　4 基のピットを検出した。P3 は SK1 を切っている事から、縄文前期以降であると言えるが、他の 3 基は時期不明である。出土遺物もなく 4 基とも性格不明である。

＜試掘・確認調査＞
1 . 十条台遺跡群（地点：王子本町 2-8-16　第 26・61 － 1 図　図版 10）
〔調査期間〕　令和 3 年 4 月 6 日
〔調査面積〕　3.6 ㎡
〔調査概要〕　機材搬入後、北西から南東方向の試掘坑（1.0 × 3.6m）を設定して現地表下 0.80 mまで重機により表土掘削を行った。
　試掘坑では、耕作土を南東部及び北東部の一部から検出し、その他の部分は攪乱を受けていた。遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機による埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。
　現地表面から 0.80 mまで攪乱及び耕作土であった。

2 . 十条台遺跡群（地点：中十条 3-17　第 27・61 － 2 図　図版 11）
〔調査期間〕　令和 3 年 4 月 8 日
〔調査面積〕　9.0 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に東西方向の試掘坑（1.0 × 9.0 m）を設定して重機により表土掘削を行った。

現地表下 0.30 ～ 0.50 mで地山のローム層を検出した。大半の箇所で大きく攪乱を受けていた。遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 0.30 ～ 0.50m までが 攪乱及び耕作土であった。東側から西側へと傾斜しており、地山はソフトローム層 (立川ローム第Ⅲ層) であった。

3．中里峡上遺跡（地点：中里 3-23-9　第 28・61 －３図　図版 12）

〔調査期間〕　令和３年４月 13 日

〔調査面積〕　18.0 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後､東西方向の試掘坑を２本設定し､北から試掘坑 1（1.0 × 9.0 m）と試掘坑 2（1.0 × 9.0 m）として、重機により表土掘削を行った。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

試掘坑 1 は、現地表下 0.30 ～ 0.85 mまで掘り下げた。西側から 3 mほどの範囲では現地表下 0.30 ～ 0.65 m程の深さで遺構覆土と地山であるソフトローム層 (立川ローム第Ⅲ層) を確認した。遺構の性格は不明である。そこから東側は現地表下 0.85 m以上の深さで攪乱を受けており、深い場所ではハードロームまで達していた。東隅で一部遺構覆土を検出した。遺構の性格は不明である。

試掘坑 2 は、現地表下 0.40 ～ 0.95 mまで掘り下げた。西側から 3 mほどの範囲では現地表下 0.40 ～ 0.60 m程の深さで遺構覆土と地山であるソフトローム層 (立川ローム第Ⅲ層) を確認した。遺構の性格は不明である。そこから東側は現地表下 0.85 m以上の深さで攪乱を受けており、深い場所ではハードロームまで達していた。東隅で一部遺構覆土及び竪穴住居床面と考えられる硬化面を検出した。

敷地西側では現地表下 0.30 ～ 0.40 mほどまで攪乱で、地山はソフトローム層（立川ローム第Ⅲ層）である。敷地東側は現地表下 0.80 m以上攪乱で、ハードロームまで達している。

試掘の結果をうけて、本発掘調査を実施した。

検出遺構　竪穴住居跡、性格不明遺構。

4．西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 3-24-7　第 29・61 －４図　図版 13）

〔調査期間〕　令和３年４月 19 日

〔調査面積〕　12.5 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に東西方向の試掘坑 1（0.7 × 4.3 m）、南北方向に試掘坑を２本設定し、東から試掘坑２（0.6 × 7.9 m）、試掘坑３（0.6 × 7.9 m）として重機により表土掘削を行った。試掘坑１は現地表下0.20～0.60ｍまで､試掘坑２は現地表下0.30～0.50mまで､試掘坑３は現地表下0.10～ 0.30m までで地山を検出した。精査した結果、遺構は確認できなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

いずれの試掘坑の地山もハードローム層まで達しており、部分的にソフトローム層を検出したに過ぎない。このことから大きく削平された可能性が高い。

5．中里遺跡（地点：上中里 2-8-17・18　第 30・61 －５図　図版 14）

〔調査期間〕　令和３年４月 23 日

〔調査面積〕　18.0 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に東西方向に試掘坑を２本設定し、南から試掘坑 1（1.5 × 6.0 m）、試掘坑２（1.5 × 6.0 m）として重機により表土掘削を行った。試掘坑 1、試掘坑２ともに現地表下

1.10 mまで掘削を実施した。精査した結果、一部攪乱を受けていたが、貝層および貝層の上部に堆積する泥炭層を確認した。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 1.10m で泥炭層である黒色粘土質シルト層及び貝層の上面を確認した。黒色粘土質シルト層は一部、グライ化により青灰色に変質していた。また一部攪乱されていた。泥炭層よりも 0.20 ～ 0.30 m程下に貝層があると考えられる。

検出遺構　貝層および貝層上部の泥炭層。

6．西ヶ原遺跡群（地点：上中里 1-25　第 31・61 － 6 図　図版 15）

〔調査期間〕　令和 3 年 5 月 12 日

〔調査面積〕　2.2 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内の建物布基礎部分を対象に試掘を行った。場所は建物西端部分で、北東－南西方位の試掘坑（0.7 × 3.1 m）を設定して重機により表土掘削を行った。建物設計深度まで掘り下げた結果、一部にハードローム層が見られたが多くは近世以降の耕作土と思われる黒色土が認められ遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 0.90m まで、攪乱層、近世以降の耕作土であった。深さ 0.70 ～ 0.90 m程で部分的にハードローム層を検出した。

7．清水坂遺跡（地点：中十条 4-12　第 32・61 － 7 図　図版 16）

〔調査期間〕　令和 3 年 5 月 18 日

〔調査面積〕　5.4 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内の中央部分に北東－南西方位の試掘坑（1.0 × 5.4 m）を設定して重機により表土掘削を行った。地表下 0.60 m程で一部攪乱されていたが、ソフトローム層を検出した。遺構は検出できなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 0.60 mまで、攪乱層で、以下ソフトローム層（立川ローム第Ⅲ層）を検出した。

8．西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 1-25　第 33・61 － 8 図　図版 17）

〔調査期間〕　令和 3 年6月 8 日

〔調査面積〕　19.8 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に南北方位の試掘坑（1.0 × 19.8 m）を設定して重機により表土掘削を行った。既存の建物部分では攪乱が激しく、地表下 0.90 ～ 1.10 m程で部分的にローム層を検出した。建物の無かった北端部分では 0.70 m程でソフトローム層を検出したが、遺構は検出できなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

南側から中央付近では現地表下 0.90 ～ 1.10 mまで攪乱層で､以下ハードローム(立川ローム第Ⅳ･Ⅴ層)を検出した。北端部では 0.70 m程でソフトローム（立川ローム第Ⅲ層）を検出した。

9．志茂遺跡（地点：志茂 3-39-12　第 34・62 － 9 図　図版 18）

〔調査期間〕　令和 3 年 6 月 28 日

〔調査面積〕　3.9 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に東西方向の試掘坑（1.0 × 3.9 m）を設定し、重機による掘削を行った。駐車場建設に伴って埋蔵文化財に影響が及ぶ掘削可能深度では、表土層内に収まり、自然堆積層を確認するに至らなかった。したがって、遺構の有無を判断できなかったものの、駐車場敷設に伴う埋蔵

文化財の破壊が発生する可能性はないことを確認した。

試掘結果を記録して、重機による埋め戻しを行い、機材を撤収して調査を終了した。

現地表下 0.30 ～ 0.50 mまで表土層であり、自然堆積層を確認できなかった。

10. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 3-12-23　第 35・62 － 10 図　図版 19）

〔調査期間〕　令和 3 年 7 月 8 日

〔調査面積〕　16.6 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に北東―南西方位の試掘坑を 2 本設定した。西側を試掘坑 1 （1.0 × 8.5 m）、東側を試掘坑 2 （1.0 × 8.1 m）とし、重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 は、北東側では地表下 0.40 ～ 0.50 m程でハードローム層の地山を、谷部に向かい徐々に傾斜し、南西端では地表下 0.70 mで同じくハードローム層の地山を検出した。遺構は検出できなかった。

試掘坑 2 の北東側は試掘坑 1 と同様に地表下 0.40 m前後でハードローム層の地山を検出した。試掘坑中央から南西にかけては地表下 0.50 ～ 0.60 mで混貝土層を検出した。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

地表下 0.40 ～ 0.70 m程まで攪乱されている。地山はハードローム層（立川ローム第Ⅳ層）、試掘坑 1 の北東側で部分的に黒色帯（立川ローム第Ⅴ層）が認められた。

混貝土層は、暗褐色土を主体し、ハマグリ・ヤマトシジミ等を含んでいる。混貝土層の中で貝の分布に粗密が認められた。試掘の結果をうけて、本発掘調査を実施した。

検出遺構　混貝土層一ヶ所。

出土遺物　縄文土器　加曽利 B 式を主体とする。

11. 十条台遺跡群（地点：中十条 2-6-12　第 36・62 － 11 図　図版 20）

〔調査期間〕　令和 3 年 7 月 28 日

〔調査面積〕　19.2 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に南北方位の試掘坑（1.0 × 19.2 m）を設定して重機により表土掘削を行った。地表下 0.60 ～ 1.00 m程でハードローム層の地山を確認した。北端部分では深く大きな攪乱が認められた。

現地表下約 0.60 ～ 1.00 mまで攪乱であった。地山はハードローム層（立川ローム第Ⅳ層）である。

12. 田端町遺跡（地点：田端 3-23-9　第 37・62 － 12 図　図版 21）

〔調査期間〕　令和 3 年 9 月 3 日

〔調査面積〕　17.0 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内の中央部、基礎付設位置に北西－南東方位の試掘坑（1.0 × 8.5 m）を 2 本設定して重機により表土掘削を行った。結果、地表下 0.50 m程で部分的にハードローム層を検出したため、これを遺構確認面とした。遺構確認面の大半は攪乱され、遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 0.50 mまで、攪乱層で、以下ハードローム層（立川ローム第Ⅳ層）を検出した。

13. 熊野神社遺跡（地点：志茂 4-20　第 38・62 － 13 図　図版 22）

〔調査期間〕　令和 3 年 9 月 9 日

〔調査面積〕　6.7 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に北東―南西方位の試掘坑（1.0 × 6.7 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。

南西側では地表下 0.90 ～ 1.00 m程で地山を検出し、北西側では地表下 1.20 m程で地山を検出した。

試掘坑の南西壁と北東側に溝跡を２条検出した。また中央部にピット、土坑と思われる遺構を３基検出した。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

地表下 0.30 m程まで攪乱されて、その下 0.90 m程まではシルトが堆積している。地山は黄褐色シルトである。試掘の結果をうけて、本発掘調査を実施した。

検出遺構　溝跡２条、土坑２基、ピット１基。

14. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 3-33　第 39・62 － 14 図　図版 23）

〔調査期間〕　令和３年９月 28 日

〔調査面積〕　2.8 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に西から東方向に試掘坑１（0.6 × 2.4 m）、北から南方向に試掘坑２（東西 0.24 ～ 1.20 ×南北 1.78 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。試掘坑１は現地表下 0.30 ～ 0.80 mまで、試掘坑２は現地表下 0.40 ～ 1.40 mまで、掘削を実施した。精査した結果、溝跡１条、ピット３基を確認した。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

試掘坑１の北側は 0.30 ～ 0.40 m幅で攪乱されていた。南側は現地表下 0.10 ～ 0.40 mほどでローム層の地山を確認した。一部はソフトローム層が残っていたが大半はハードローム層であった。遺構は確認できなかった。

試掘坑２は現地表下 0.20 ～ 1.40 m程で、漸移層からソフトローム層を確認した。遺構は溝跡１条、ピット３基を確認した。溝跡は南北に伸びていた。遺物は検出されなかった。

現地表下 0.30 ～ 1.40 mで地山を確認した。ソフトローム層を基本とし、一部北側でハードローム層、南側で漸移層が検出された。現況盛土されている部分の下では、対象敷地北側の道路面よりも高い位置でローム層を検出した。道路から南へ盛土されているが、原地形としても北から南に緩やかに上っていく地形であったことが想像される。

検出遺構　溝跡１条、ピット３基。

15. 中里峡上遺跡（地点：田端 6-10-6　第 40・62 － 15 図　図版 24）

〔調査期間〕　令和３年 10 月 14 日

〔調査面積〕　6.5 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、東西方向に試掘坑（1.0 × 6.5 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。

現地表下 0.50 ～ 0.70 mまで掘り下げ、遺構覆土および地山であるソフトローム層を検出した。試掘坑東側に遺構を検出。東側の遺構は住居跡と考えられる。西側は攪乱されている。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

敷地西側では 0.50 ～ 0.70 m程まで攪乱で、地山はソフトローム層（立川ローム第Ⅲ層）である。

検出遺構　住居跡１軒。

出土遺物　土師器。

16. 中里峡上遺跡（地点：田端 6-10-6　第 41 ～ 46・62 － 15 図　図版 25 ～ 27）

〔調査期間〕　令和３年 10 月 15 日～ 22 日

〔調査面積〕　29.9 ㎡

〔調査概要〕　本調査は建築工事の都合上、調査可能深度に制限があったため確認調査に留めている。機材搬入後、重機により表土掘削を行った。地表下約 0.50 ～ 0.70 mでローム層と遺構覆土を確認し、これ

を遺構検出面とした。調査は残土処理の都合により調査区を南北に 2 分して行った。

遺構は住居跡 3 軒、性格不明遺構 3 基を検出した。SI03 については隣地調査で検出されている竪穴住居と同一の遺構であると推測される。遺物は SI01 より土師器坏 (有段口縁坏)、土師器甕が出土し、SI03 より土師器坏 (比企型坏) が出土しており、いずれも古墳時代後期の所産と考えられる。また遺構外より同時期の土師器坏 (有段口縁坏) が出土したのでこれも図示している。

〔遺構・遺物〕

【SI01】

遺構（第 42 図　図版 26）

重複関係：SX01 を切る。**平面形：**平面形は方形を呈すると思われる。住居南側は調査区外に広がっていた。また、掘削深度が表土より 0.70m までの調査であり、住宅梁部分のみ 0.90 mまでトレンチ状に掘削を行ったため、部分的な検出であった。**規模：**検出範囲で主軸長 3.53 m、主軸直交長 1.76 m、確認面からの深さ 0.19 mを測る。**主軸方位：**不明。**覆土：**暗褐色土を主体に 3 層に分層される。**床：**トレンチ内で貼り床を検出した。**カマド：**検出されなかった。

遺物（第 46 図　図版 27）

出土状況：トレンチ内より土師器坏、土師器甕が出土している。**土器：** 1 は土師器甕である。 2 は土師器坏である。いわゆる有段口縁坏で、口縁部の内外面に黒彩が施されている。

時期　出土遺物や遺構の切り合いから 6 世紀後半 (古墳時代後期) と推測される。

【SI02】

遺構（第 43 図　図版 26）

重複関係：なし。**平面形：**調査区南壁沿いにカマドの煙道を検出した。南側は調査区外へ伸びていると考えられる。**規模：**検出範囲で主軸長 0.45 m、主軸直交長 0.58 m、確認面からの深さ 0.31 mを測る。**主軸方位：**N － 43° － E。**覆土：**灰黄褐色土を主体に 7 層に分層される。**カマド：**調査区南壁沿いに、粘土と掘り込みを検出した。カマドの煙道部と考えられ､調査区南側へと住居は続いていると考えられる。検出した部分は長さ 0.45 m、残存幅 0.58 mである。

遺物

出土状況：遺物は出土しなかった。

時期　不明。

【SI03】

遺構（第 44 図　図版 26）

重複関係：SX02、SX03 に切られる。**規模：**検出範囲で主軸長 2.30 m、主軸直交長 1.55 m、確認面からの深さ 0.12 mを測る。**覆土：**一部覆土と思われる暗褐色土を検出した。**床：**一部貼り床と思われる硬化面が確認できるが、大半は攪乱される。**カマド：**検出されなかった。

遺物（第 46 図　図版 27）

出土状況：床面直上より土師器坏が出土している。**土器：** 3 は土師器坏である。いわゆる比企型坏で内面及び口縁部外面が赤彩されている。

時期　出土遺物や遺構の切り合いから 7 世紀前半 (古墳時代後期) と推測される。

【SX01】

遺構（第 45 図）

重複関係：SI01、SX02 に切られる。**平面形：**明確に判別しえなかった。遺構南側は調査区外に広がっていた。また、掘削深度が表土より 0.70m までの調査であり、住宅梁部分のみ 0.90 m までトレンチ上に掘削を行ったため、部分的な検出しか行えなかった。**規模：**検出した部分は長さ 3.03 m、残存幅 1.49 m、確認面からの深さ 0.50m を測る。**主軸方位：**不明。**覆土：**暗褐色土を主体に 6 層に分層される。

遺物（第 46 図　図版 27）

出土状況：縄文土器が出土している。**土器：** 4 は加曽利 B 式の深鉢である。

時期　出土遺物や遺構の切り合い関係から縄文時代後期と推測される。

【SX02】

遺構（第 45 図）

重複関係：SI03、SX01 を切る。**平面形：**溝状遺構。掘削深度 0.70 m までては遺構の上端を確認できるのみであった。検出した部分は長さ 4.95 m、残存幅 1.27 mである。

遺物

出土状況：遺物は出土しなかった。

時期　不明。

【SX03】

遺構（第 45 図）

重複関係：SI03 を切り、SX02 に切られる。**平面形：**不整円形を呈する。規模は 0.94 × 1.02m を測る。掘削深度 0.70 mまでては、遺構の上端を確認できるのみであった。

遺物

出土状況：遺物は出土しなかった。

時期　不明。

17. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 2-14-1　第 47・62 － 16 図　図版 28）

〔調査期間〕　令和 3 年 10 月 18 日

〔調査面積〕　14.7 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に北西―南東方位の試掘坑を 2 本設定し、北側を試掘坑 1（1.0 × 7.4 m）、南側を試掘坑 2（1.0 × 7.3 m）と呼称した。いずれも重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1 では、地表下 0.30 ～ 0.40 m程で立川ローム第Ⅱ層から第Ⅲ層相当の地山を、南東側で溝跡を検出した。試掘抗 2 では地表下 0.30 ～ 0.40 m程で遺構覆土が検出され、確認した範囲全面が遺構覆土であった。3 基の遺構が重複する。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表面から遺構検出面までは盛土ないしは攪乱層である。試掘抗 1 で現地表下 0.30 ～ 0.40m で立川ローム層第Ⅱ層から第Ⅲ層相当の地山が確認された。試掘の結果をうけて、本発掘調査を実施した。

検出遺構　溝跡 1 条、竪穴状遺構 2 基。

出土遺物　土師器。

18. 十条台遺跡群（地点：王子本町 1-21-4・6　第 48・63 － 17 図　図版 29）

〔調査期間〕　令和 3 年 10 月 20 日

〔調査面積〕　21.5 ㎡

〔調査概要〕　重機・機材の搬入後、対象敷地内に北東－南西方向の試掘坑を 2 箇所設定した。西側を試掘坑 1（1.0 × 11.5 m）、東側を試掘坑 2（1.0 × 10.0 m）と呼称した。試掘坑 1 の西側から重機による掘削を開始した。現況地表面から 1.30m 程で、黒褐色土を検出した。一部断ち割ってみたが、約 2.10m までやや黒味を増すが、同様の土層が続いていた。この黒褐色土に遺物は含まれていない。黒褐色土を確認面として、精査したが、遺構・遺物は検出されなかった。試掘坑 2 においても、1.30m 程で黒褐色土を検出した。黒褐色土を確認面として、精査したが、遺構・遺物は検出されなかった。試掘坑 1 ・ 2 の記録を作成し、重機による埋め戻しを行った。重機・機材を搬出し、調査を終了した。

現況地表面から 1.30m まで攪乱層、それより下は、自然堆積とみられる黒褐色土層（締まりやや弱い、粘性やや強い）である。黒褐色土層は、現況地表面下 1.70m 付近から下層は黒味を増す。

19. 赤羽台遺跡（地点：赤羽台 4-19-4　第 49・63 － 18 図　図版 30）

〔調査期間〕　令和 3 年 10 月 26 日

〔調査面積〕　5.8 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、開発対象敷地の南側に北―南方位の試掘坑を 2 本設定し、東側を試掘坑 1 （1.0 × 2.5 m）、西側を試掘坑 2 （1.0 × 3.3 m）と呼称した。いずれも重機により表土掘削を行った。なお、対象敷地の北側については、既存の工事によるハードローム層までの削平が確認されたため、調査対象から除外した。試掘坑の掘削は重機により行い、人力による遺構検出面の精査を実施した。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表面から遺構検出面までは攪乱層である。試掘抗 1 で現地表下 0.14 ～ 0.28m で、試掘坑 2 で現地表下 0.05 ～ 0.27m で立川ローム層第Ⅳ層相当のハードロームの地山が確認された。

20. 田端不動坂遺跡（地点：田端 1-19　第 50・63 － 19 図　図版 31）

〔調査期間〕　令和 3 年 11 月 9 日

〔調査面積〕　4.4 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、建設予定地内の掘削深度が最も深い箇所に東西方向に試掘坑（2.8m × 0.6 m）を設定して重機により表土掘削を行った。建築設計深度 0.70 ｍまで掘削を行うが、耕作土途中で遺構確認面を検出できなかった。遺構確認面の深さを確認するために、試掘坑の東側 1.0 × 0.6 ｍを人力にて掘削した。1.10 ｍ程掘り下げ地山(ソフトローム)を確認した。遺構は検出されなかった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 1.10m までが 攪乱及び耕作土で、地山はソフトローム層 (立川ローム層第Ⅲ層) である。

21. 袋低地遺跡（地点：赤羽北 1-12-7　第 51 ～ 53・63 － 20 図　図版 32 ～ 34　表 1 ）

〔調査期間〕　令和 3 年 11 月 24 日～ 30 日

〔調査面積〕　44.9 ㎡

〔調査概要〕　本調査は事前に実施した事業主負担による試掘調査の結果により、遺構確認面が深いことが確認されたため、工事によって遺構が保全できない部分のみの調査とした。その結果、調査面積が約 45 ㎡となり、調査における安全性確保の都合上、調査深度も制限せざるをえなかったため、確認調査に留めた。機材搬入後、対象敷地内の南側に南北 8.0 m、東西 6.0 ｍの調査区を設定した。重機により表土を掘削し、地表下 1.00 ｍ程で純貝層及び混土貝層を確認した。貝層はハマグリ・カキを主体とするが、

ブロック状にヤマトシジミ・ハマグリ・破砕したカキが認められた。また、調査区の北端部分は破砕貝層を主体としているようである。ヤマトシジミを主体とする層はおそらくハマグリ・カキを主体とする層の上面に堆積したと思われる。また混土貝層を精査したところ、縄文後期末の土器及び獣骨が出土した。土器はいずれも安行Ⅰ～Ⅱ式土器の粗製土器であろう。

貝層の堆積状況を確認するため、調査区東側を 5.6 × 2.5 mの範囲でさらに深掘りを行った。建物設計深度の地表下 2.00 mまで掘り下げた結果、地表下 1.30 ～ 1.50 mで部分的にシルト層を挟み、ハマグリ・カキを主体とする貝層が認められた。

断面図作成及び写真撮影後、北端部と南端部をさらに深掘りした結果、貝層の下端及びその下に黒色粘土層の堆積を確認した。貝層の堆積厚は最大で 1.50 mであった。貝層下端は若干であるが、南側から北側に向かい傾斜している。黒褐色粘土層はピンポールを刺して確認した結果、さらに 1.00 m以上の堆積が認められた。

貝層中にサンプルを取ったのち、重機で埋め戻しを行い調査を終了した。

検出遺構　貝層。

出土遺物　土器、獣骨。

22. 志茂遺跡（地点：志茂 3-39　第 54・63 － 21 図　図版 35）

〔調査期間〕　令和 3 年 12 月 2 日

〔調査面積〕　11.1 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、建設予定地内の掘削深度が最も深い梁部分に試掘坑を 6 本設定して重機により表土掘削を行った。

試掘坑 1（0.5 × 3.5 m）は現地表下 0.70m まで掘削を行うが攪乱されており、地山および遺構は確認されなかった。 試掘坑 2(0.5 × 3.5 m) は現地表下 0.50m まで掘削を行うが攪乱されており、地山および遺構は確認されなかった。試掘坑 3(0.5 × 4.5 m) は現地表下 0.30m で地山（シルト）を検出し、遺構は検出されなかった。試掘坑 4（0.5 × 2.5 m）は現地表下 0.30 ～ 0.40m で地山（シルト）を検出し、遺構は検出されなかった。試掘坑 5（0.5 × 4.1 m）は現地表下 0.30m で地山（シルト）を検出し、遺構は検出されなかった。試掘坑 6（0.5 × 4.1 m）は現地表下 0.30m で地山 (シルト) を検出し、性格不明遺構を 1 基検出したが、調査区外の道路方向に広がっていた。遺構は検出されなかった。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

建築範囲①は現地表下 0.70m まで掘り下げても攪乱されており、地山は検出できなかった。建築範囲②及び④は現地表下 0.30 ～ 0.40m までが 攪乱及び耕作土で、地山はシルトであった。

検出遺構　性格不明遺構 1 基。

23. 西ヶ原遺跡群（地点：西ヶ原 1-29　第 55・63 － 22 図　図版 36）

〔調査期間〕　令和 3 年 12 月 13 日

〔調査面積〕　24.4 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、建設予定地内に北東から南西方向に試掘坑 1（1.0 × 13.6 m）、試掘坑 2（1.0 × 10.8 m）を設定して重機により表土掘削を行った。 試掘坑 1 の南西端部では掘削深度 0.30 mで耕作土を検出、掘削深度 0.70 mでソフトロームの地山が確認された。また、北東端部ではハードローム層の地山を検出した。その他の範囲では掘削深度 1.00 mまで掘削をしたが、既存建物等による攪乱を受け、地山は検出できなかった。残存した地山からは遺構は検出されなかった。 試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 1.10m までが 攪乱及び耕作土であった。地山は試掘坑 1 の南西側でソフトローム (立川ローム層第Ⅲ層)、北東側でハードローム（立川ローム層第Ⅳ層）であった。

24. 中里峡上遺跡（地点：西ヶ原 1-16-16　第 56・63 － 23 図　図版 37）

〔調査期間〕　令和 4 年 1 月 5 日

〔調査面積〕　9.6 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、西方向に試掘抗（1.0 × 9.6 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。

現地表下 0.60 ～ 0.70 m程まで掘り下げ、地山であるソフトロームを検出した。試掘坑から遺構、遺物は検出されず、根痕と思われる攪乱が散見されるのみであった。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表下 0.60 ～ 0.70 m程まで攪乱層で、地山はソフトローム層（立川ローム層第Ⅲ層）である。

25. 中里峡上遺跡（地点：西ヶ原 1-16　第 57・63 － 24 図　図版 38）

〔調査期間〕　令和 4 年 2 月 1 日

〔調査面積〕　9.4 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、南北方向に試掘抗（1.0 × 9.4 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。現地表下 0.70 ～ 0.80 m程まで掘り下げ、ソフトローム層の地山を検出した。試掘坑内では遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。

試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表から確認面までが攪乱層で、地山はソフトローム層（立川ローム 第Ⅲ層）である。

26. 中里遺跡（地点：上中里 2-8　第 58・61 － 25 図　図版 39）

〔調査期間〕　令和 4 年 2 月 9 日

〔調査面積〕　15.7 ㎡

〔調査概要〕　機材搬入後、東西方向に試掘抗（1.0 × 15.7 m）を設定し、重機により表土掘削を行った。

現地表面下 0.60 ～ 0.90 m程まで掘り下げ、貝層面を検出した。試掘坑内で遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。

試掘坑の記録後、汚水管付設に伴い最も深く掘削される道路側に深掘区を設けて、貝層の堆積状況を確認した。深掘区を記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

現地表面から貝層面までが攪乱層である。深掘区で貝層の堆積を確認したところ、灰褐色混土貝層が堆積しており、貝の包含状況が上層に多く、下層に少ないことが観察されたことから、上下に分層した。

27. 中里峡上遺跡（地点：西ヶ原 1-21-9　第 59・63 － 26 図　図版 40）

〔調査期間〕　令和 4 年 2 月 28 日

〔調査面積〕　33.0 ㎡

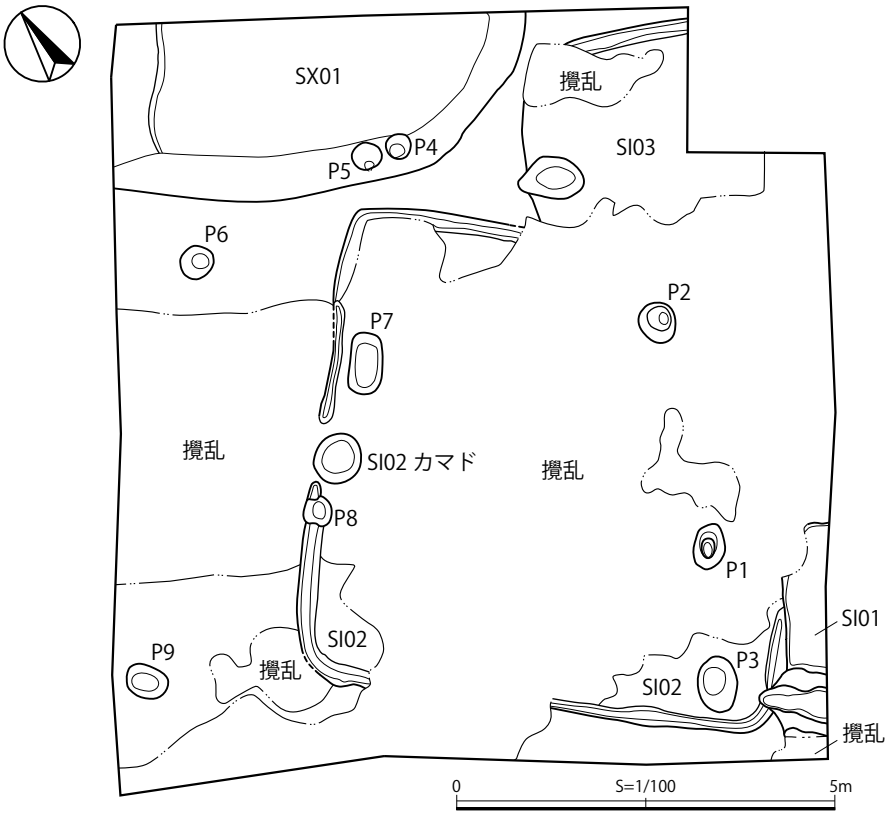
〔調査概要〕　機材搬入後、対象敷地内に北―南方位の試掘坑を 2 本設定し、東側を試掘坑 1（1.0 × 16.7 m）、西側を試掘坑 2（1.0 × 16.3 m）と呼称した。いずれも重機により表土掘削を行った。

地表下 0.40 m程で立川ローム層第Ⅲ層相当の地山を確認し、精査の結果、竪穴住居跡 4 軒を含む 6 基の遺構を検出した。各遺構は試掘坑全体に分布していた。試掘坑の記録後、重機により埋め戻しを行い、機材を撤収し調査を終了した。

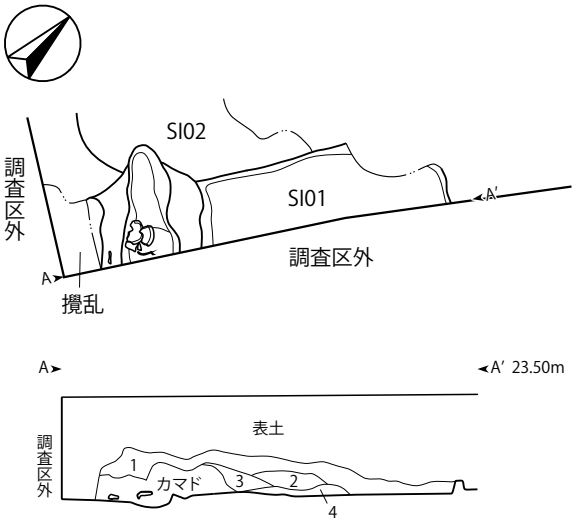
現地表面から遺構検出面までは盛土ないしは攪乱層で、以下、ソフトローム層（立川ローム第Ⅲ層）を検出した。試掘調査の結果をうけて、令和 4 年度に本発掘調査を実施する予定である。

検出遺構　竪穴住居跡 4 軒、性格不明遺構 2 基。

出土遺物　土師器。



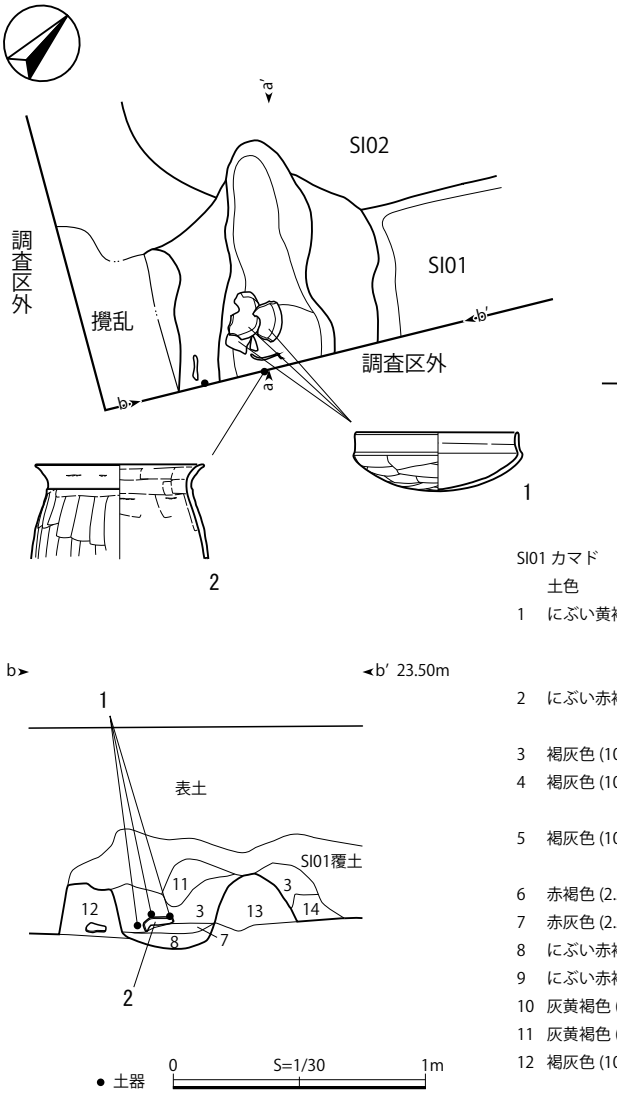
第 1 図　中里 3-23-9 地点　調査区全体図



SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～10 ㎜）・粘土（φ 1～10 ㎜）を中量，ローム（φ 1～10 ㎜）を少量含む。
2	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～5 ㎜）を微量，ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
3	灰黄褐色 (10YR4/2)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～20 ㎜）を中量含む。
4	黒褐色 (10YR3/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。

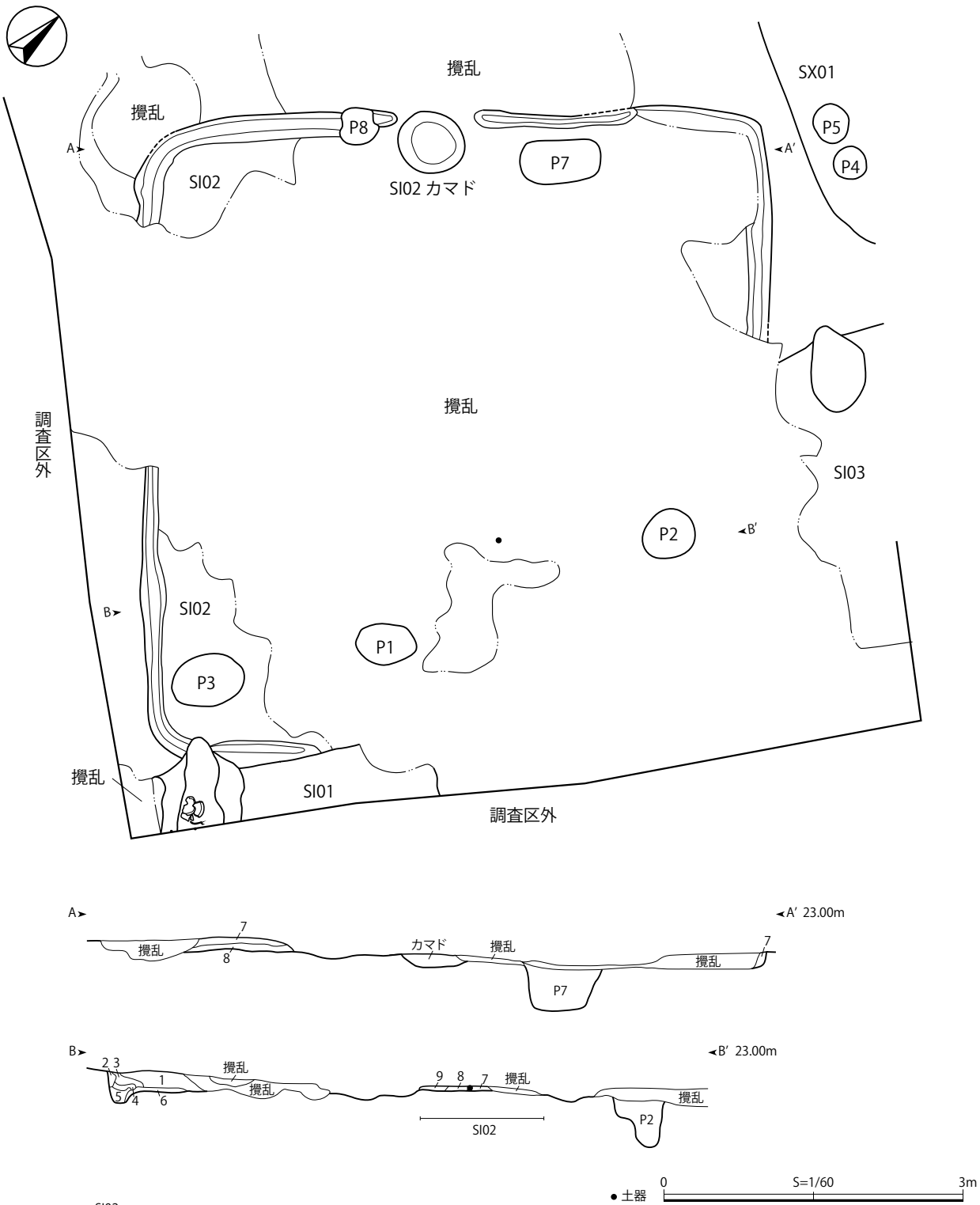
第２図　中里 3-23-9 地点　SI01 平断面図



SI01 カマド

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～10 ㎜）・粘土（φ 1～10 ㎜）を中量，ローム（φ 1～10 ㎜）を少量含む。
2	にぶい赤褐色 (2.5YR4/4)	強い	弱い	焼土（φ 1～10 ㎜）を多量，粘土（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
3	褐灰色 (10YR5/1)	非常に強い	弱い	粘土（φ 1～10 ㎜）を極多量含む。
4	褐灰色 (10YR4/1)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～10 ㎜）を多量，焼土（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
5	褐灰色 (10YR4/1)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～15 ㎜）・焼土（φ 1～5 ㎜）を多量含む。
6	赤褐色 (2.5YR4/6)	やや弱い	弱い	焼土（φ 1～5 ㎜）を極多量含む。
7	赤灰色 (2.5YR6/1)	やや弱い	弱い	焼土（φ 1～3 ㎜）を多量含む。
8	にぶい赤褐色 (2.5YR4/3)	強い	弱い	焼土（φ 1～10 ㎜）を極多量含む。
9	にぶい赤褐色 (2.5YR5/3)	やや強い	弱い	焼土（φ 1～10 ㎜）を多量含む。
10	灰黄褐色 (10YR5/2)	非常に強い	弱い	粘土（φ 1～10 ㎜）を極多量含む。
11	灰黄褐色 (10YR4/2)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～10 ㎜）を中量含む。
12	褐灰色 (10YR5/1)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～10 ㎜）・焼土（φ 1～10 ㎜）を多量含む。
13	褐灰色 (10YR6/1)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～10 ㎜）を極多量含む。
14	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	粘土（φ 1～5 ㎜）を微量含む。

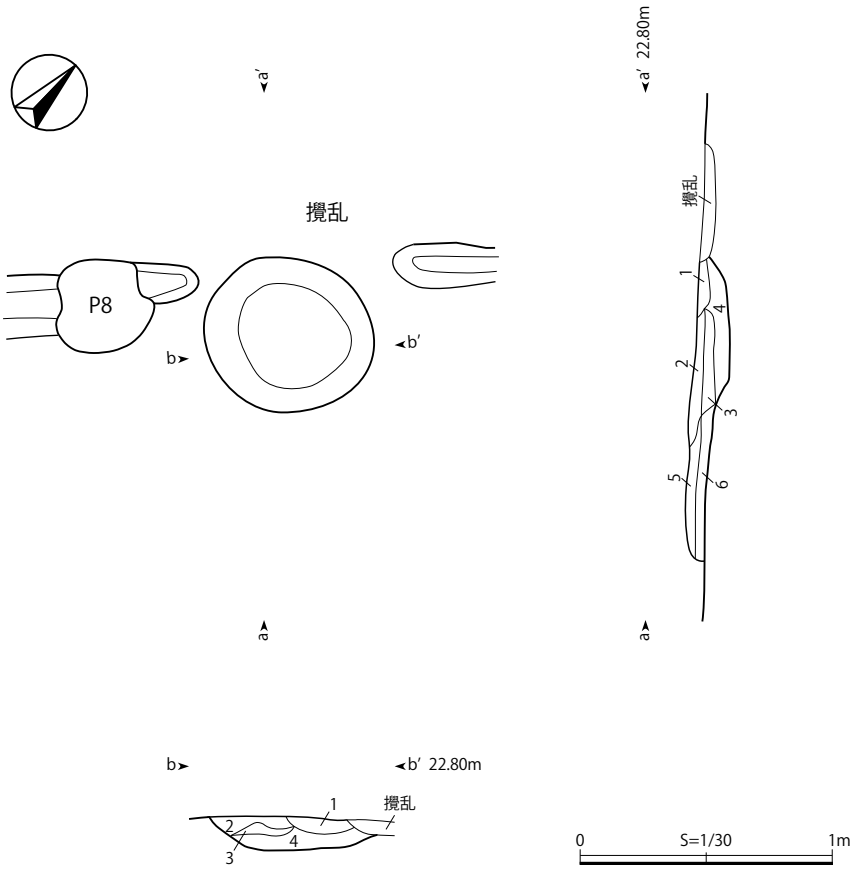
第３図　中里 3-23-9 地点　SI01 カマド平断面図・遺物出土図



SI02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色 (10YR3/1)	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を極多量含む。
3	黒褐色 (10YR2/3)	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）・焼土（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
4	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～3 ㎜）を中量，ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
5	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を少量，焼土（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
6	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。
7	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～10 ㎜）を多量含む。
8	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～5 ㎜）を少量，ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
9	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～3 ㎜）・ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。

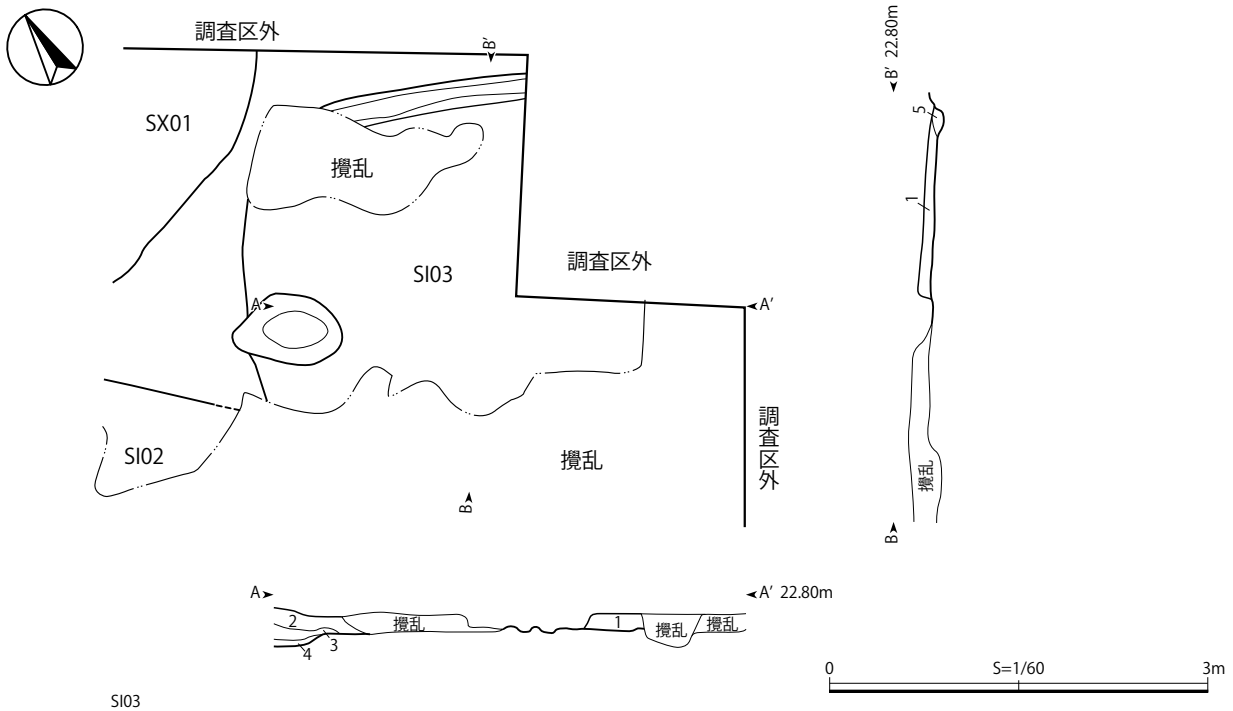
第４図　中里 3-23-9 地点　SI02 平断面図・遺物出土図



SI02 カマド

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	非常に強い	やや弱い	粘土（φ 1 ～ 10 ㎜）を中量含む。
2	褐灰色 (10YR5/1)	非常に強い	やや弱い	粘土（φ 1 ～ 5 ㎜）を多量含む。
3	暗赤褐色 (2.5YR3/6)	強い	やや弱い	焼土（φ 1 ～ 10 ㎜）を極多量，粘土（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
4	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	粘土（φ 1 ～ 10 ㎜）を中量含む。
5	暗褐色 (10YR3/3)	非常に強い	やや弱い	粘土（φ 1 ～ 10 ㎜）を少量含む。
6	灰黄褐色 (10YR4/2)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を極多量含む。

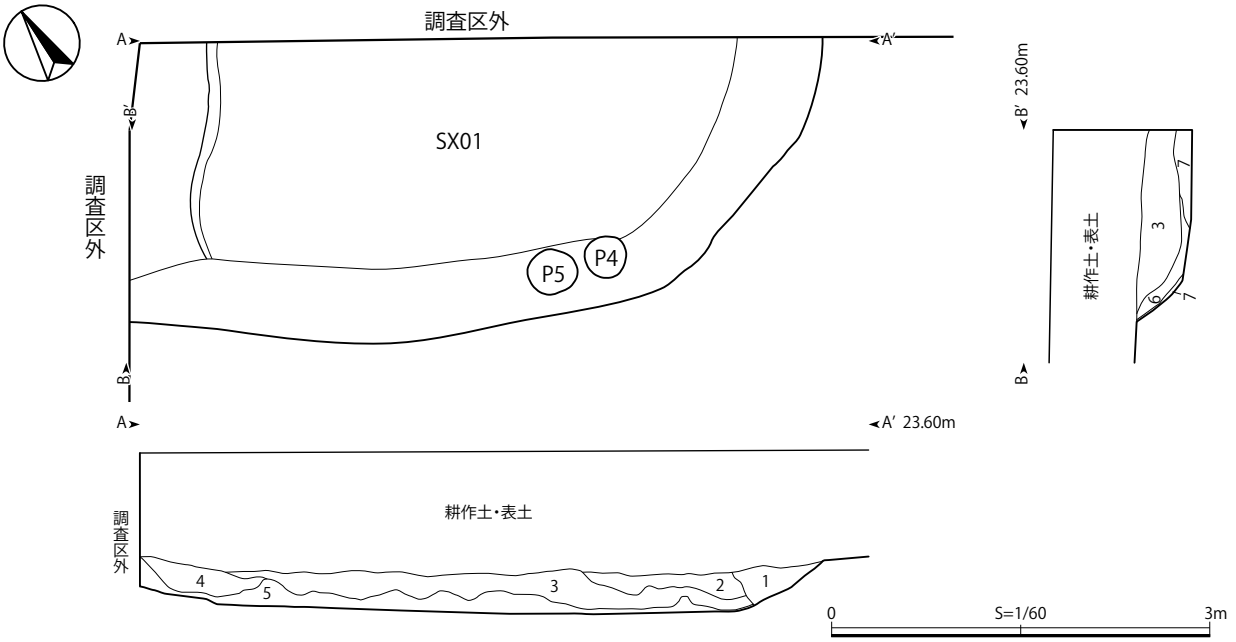
第 5 図　中里 3-23-9 地点　SI02 カマド平断面図



SI03

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を少量含む。
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	非常に強い	弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を多量，粘土（φ 1～3 ㎜）・焼土（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
3	褐灰色 (10YR6/1)	非常に強い	弱い	粘土（φ 1～10 ㎜）を極多量，焼土（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
4	黒褐色 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を少量含む。
5	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。

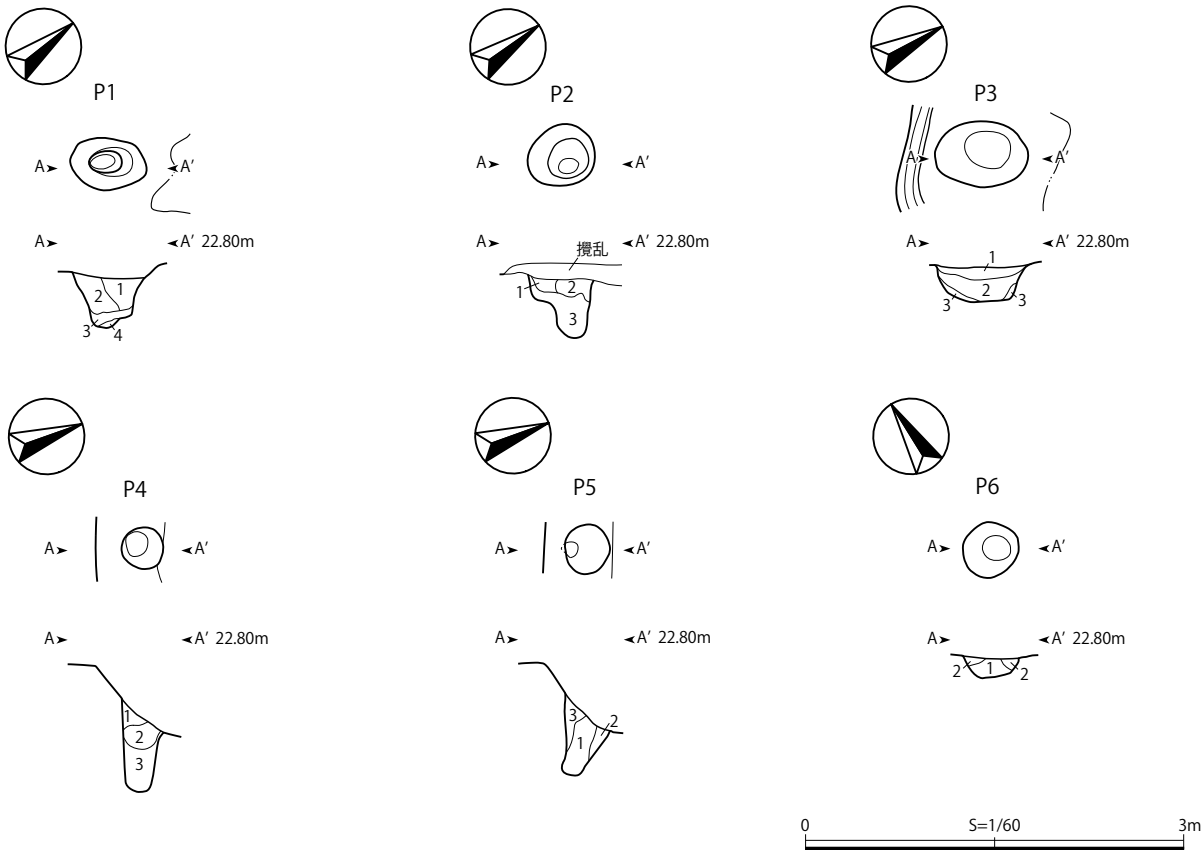
第 6 図　中里 3-23-9 地点　SI03 平断面図



SX01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 5～30 ㎜）を多量含む。
2	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～20 ㎜）を中量含む。
3	黒褐色 (10YR3/2)	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
4	暗褐色 (10YR3/3)	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を少量含む。
5	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 3～15 ㎜）を多量含む。
6	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を少量含む。
7	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。

第 7 図　中里 3-23-9 地点　SX01 平断面図



P1

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
2	黒褐色 (10YR3/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を微量含む。
3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 5 ㎜）を中量含む。
4	褐色 (10YR4/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を極多量含む。

P2

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 5 ㎜）を少量，焼土（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
2	暗赤褐色 (2.5YR3/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1 ～ 5 ㎜）を中量，ローム（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
3	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 30 ㎜）を中量含む。

P3

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色 (10YR3/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 3 ㎜）を微量含む。
2	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を少量含む。

P4

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色 (10YR3/4)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を少量含む。
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 20 ㎜）を中量含む。
3	暗褐色 (10YR3/4)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 15 ㎜）を中量含む。

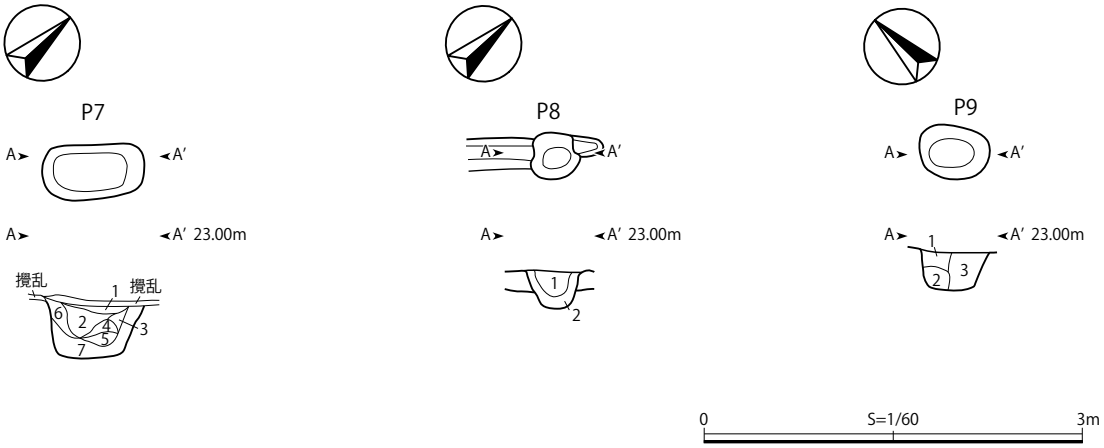
P5

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を微量含む。
2	暗褐色 (10YR3/4)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 15 ㎜）を少量含む。
3	暗褐色 (10YR3/4)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を少量含む。

P6

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
2	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 5 ㎜）を少量含む。

第 8 図　中里 3-23-9 地点　P1 ～ P6 平断面図



P7

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を中量含む。
2	黒褐色 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を微量含む。
3	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を少量含む。
4	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～5㎜）を少量，ローム（φ 1～5㎜）を微量含む。
5	暗褐色 (10YR3/3)	強い	やや弱い	焼土（φ 1～5㎜）を中量，ローム（φ 1～5㎜）を微量含む。
6	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を少量，焼土（φ 1～5㎜）を微量含む。
7	灰黄褐色 (10YR4/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を中量，焼土（φ 1～3㎜）を微量含む。

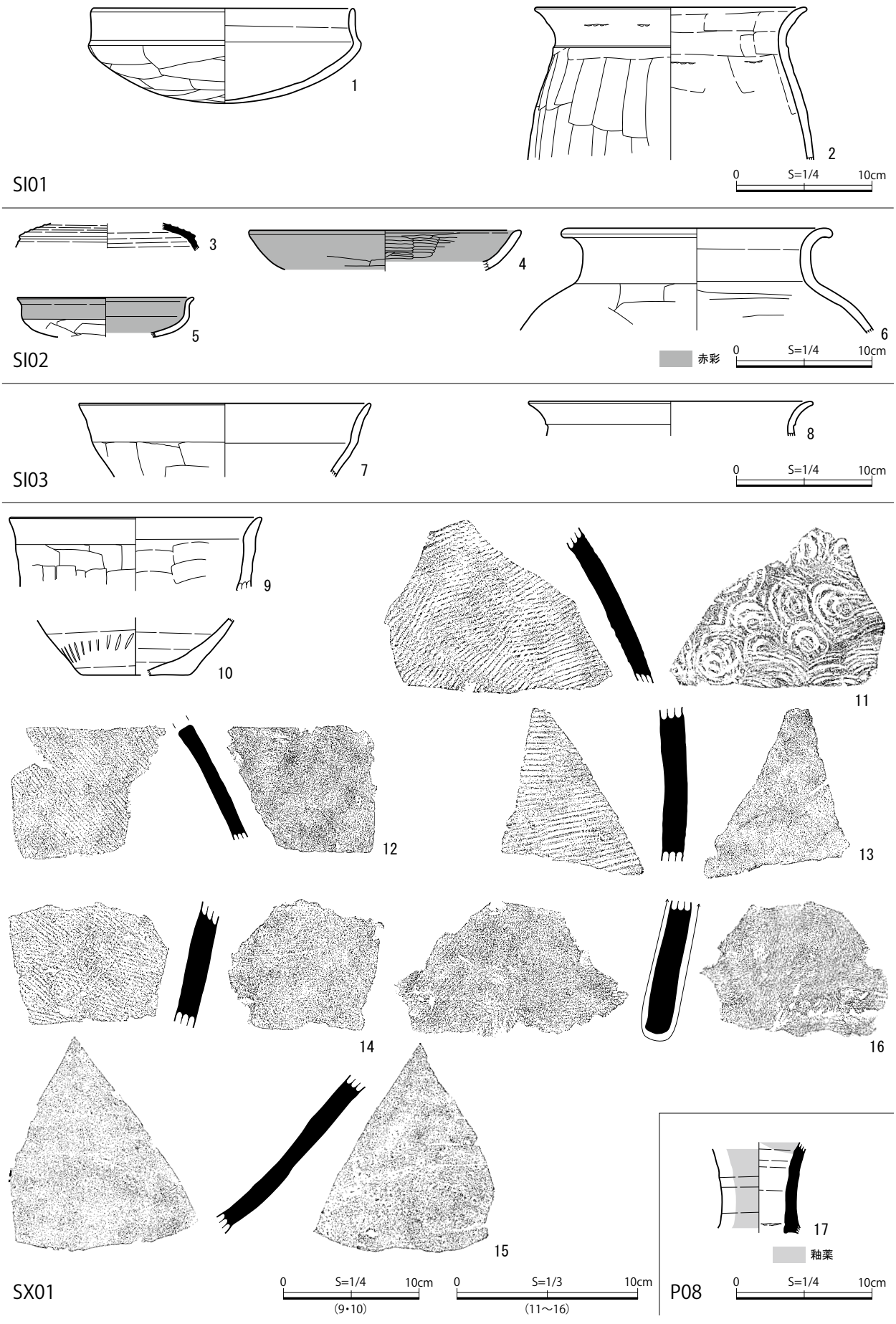
P8

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を微量含む。
2	暗褐色 (10YR3/4)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～20㎜）を少量含む。

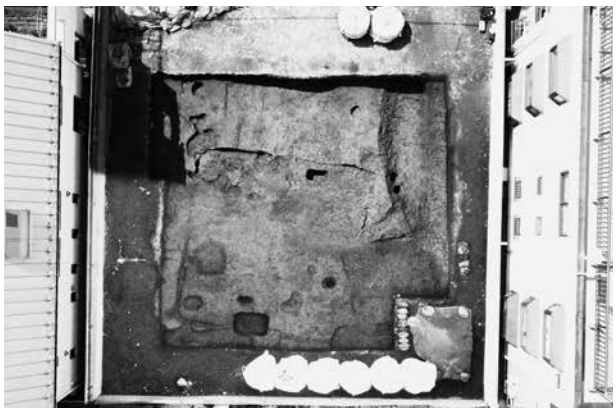
P9

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色 (10YR3/3)	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～3㎜）を微量含む。
2	暗褐色 (10YR3/4)	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を少量含む。
3	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を中量含む。

第９図　中里 3-23-9 地点　P7 ～ P9 平断面図



第 10 図　中里 3-23-9 地点　出土遺物実測図



調査区全景（南から）

SI01 完掘（南から）

SI01 カマド完掘（南から）

SI01 カマド 遺物出土状況

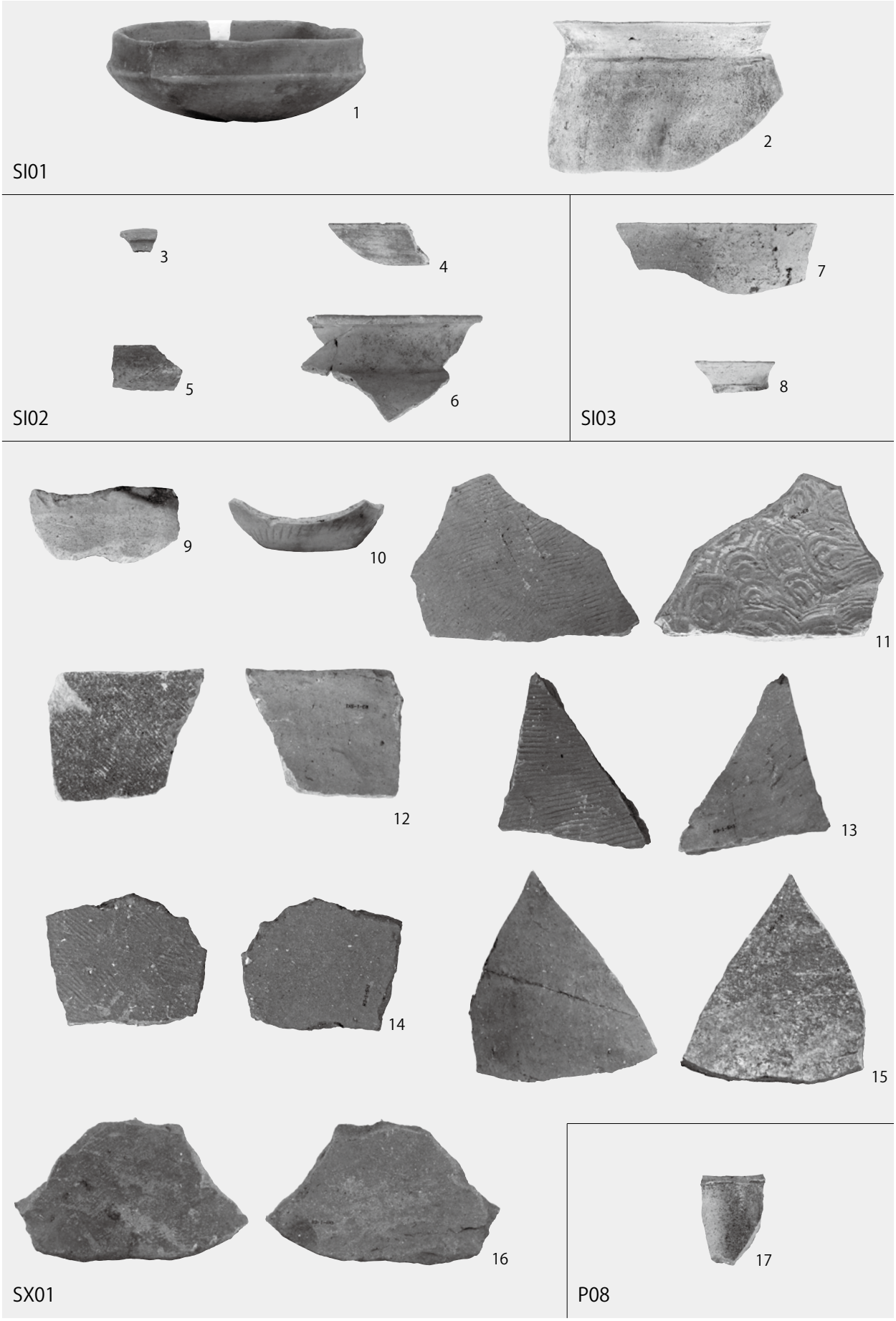
SI02 完掘（南部・南から）

SI02 完掘（北部・南から）

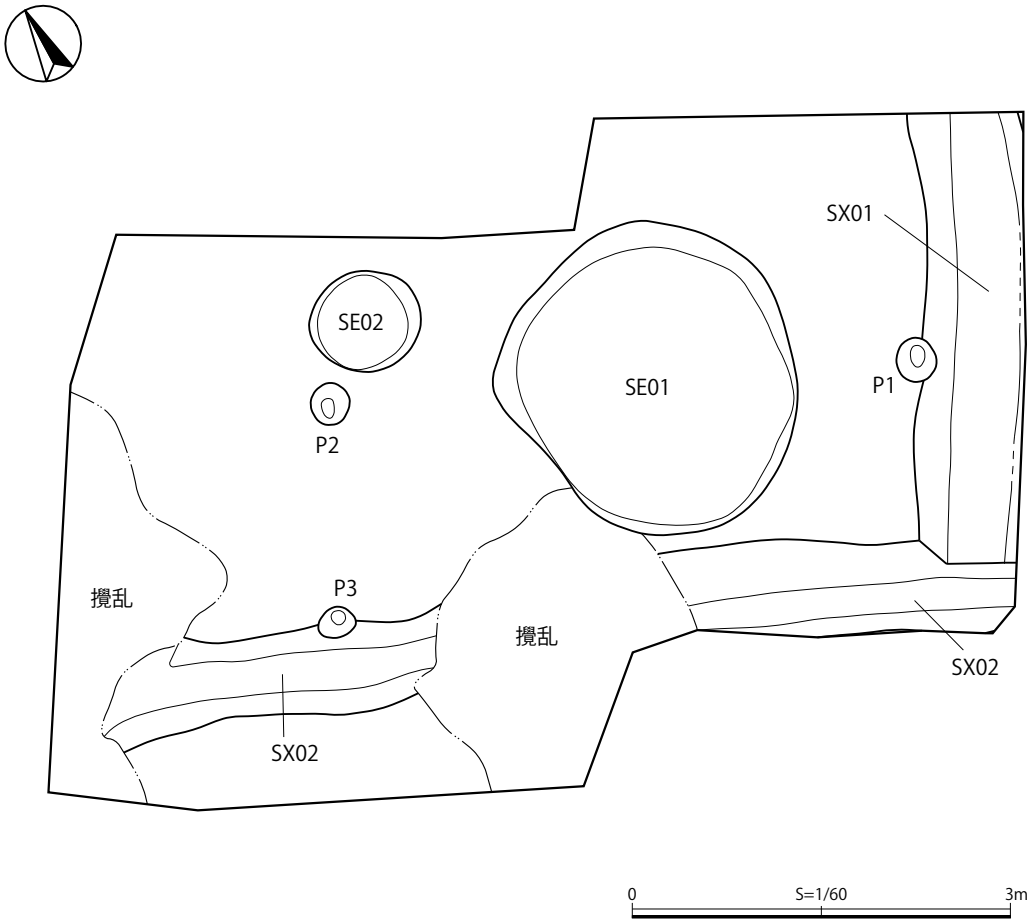
SI03 完掘（南から）

SX01 完掘（北から）

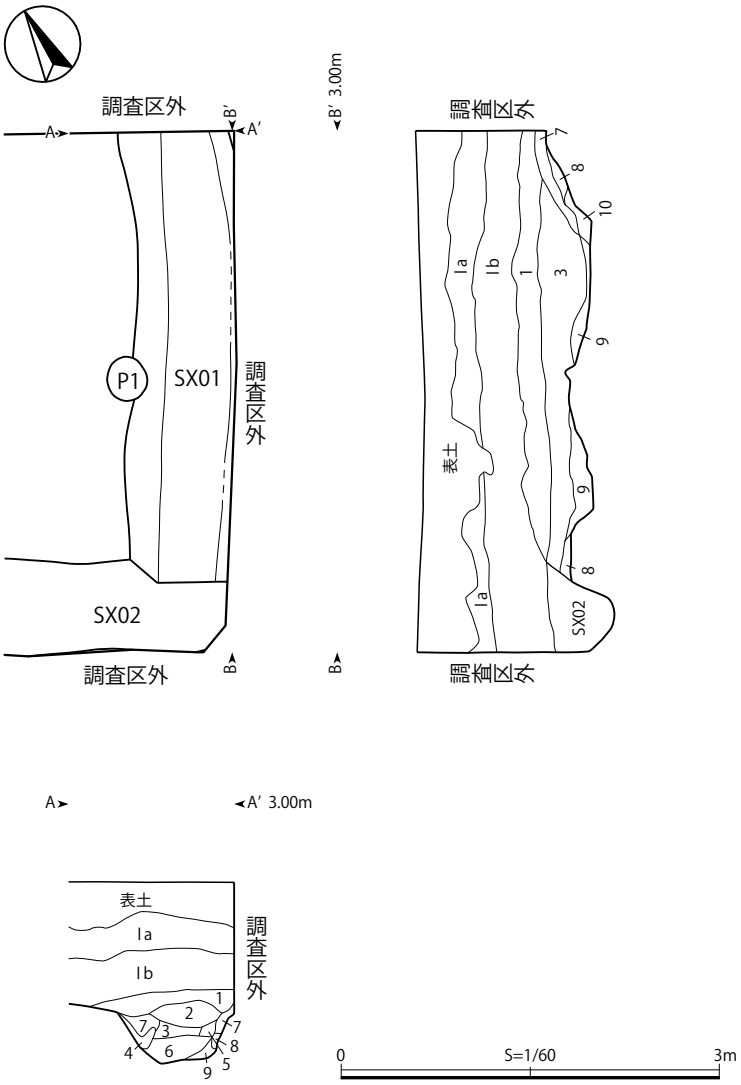
図版 1　中里 3-23-9 地点



図版 2　中里 3-23-9 地点　出土遺物



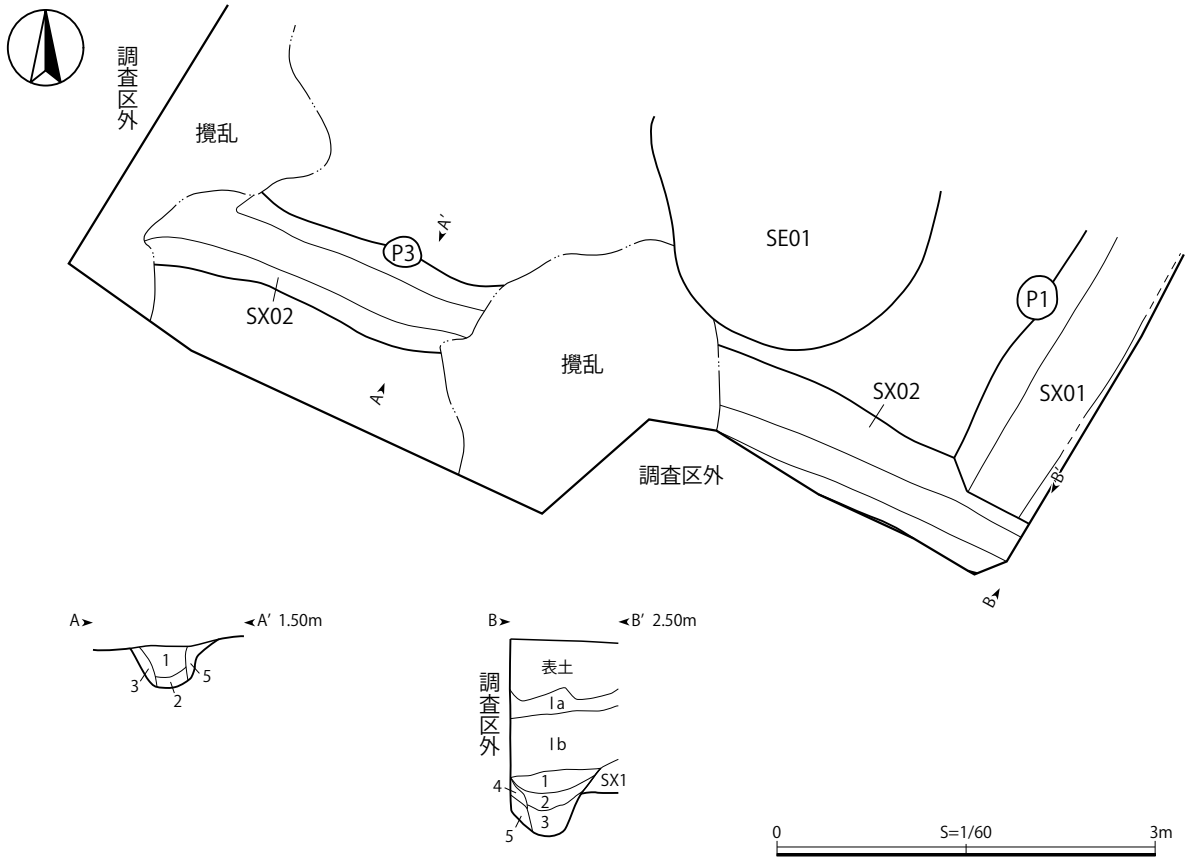
第 11 図　志茂 4-20 地点　調査区全体図



SX01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
Ia	褐灰色土 (10YR4/1)	非常に強い	やや弱い	炭化物（φ 5 ～ 10 ㎜）を微量含む。
Ib	灰黄褐色土 (10YR5/2)	非常に強い	やや弱い	炭化物（φ 5 ～ 10 ㎜）を微量含む。
1	黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや弱い	シルト（φ 5 ～ 10 ㎜）を少量含む。
2	黒褐色土 (10YR3/1)	強い	やや弱い	シルト（φ 5 ～ 10 ㎜）を微量含む。
3	黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや弱い	シルト（φ 5 ～ 10 ㎜）を微量、ローム（φ 1 ～ 3 ㎜）を微量含む。
4	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を極多量含む。
5	灰黄褐色土 (10YR4/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を微量、シルト（φ 5 ～ 10 ㎜）を少量含む。
6	黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 5 ～ 10 ㎜）を少量、シルト（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
7	灰黄褐色土 (10YR4/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を少量、シルト（φ 5 ～ 10 ㎜）を中量含む。
8	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1 ～ 10 ㎜）を極多量含む。
9	黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 5 ～ 10 ㎜）を少量、シルト（φ 1 ～ 5 ㎜）を微量含む。
10	灰黄褐色土 (10YR4/2)	強い	やや弱い	ローム（φ10 ～ 20 ㎜）を多量、シルト（φ 1 ～ 5 ㎜）を少量含む。

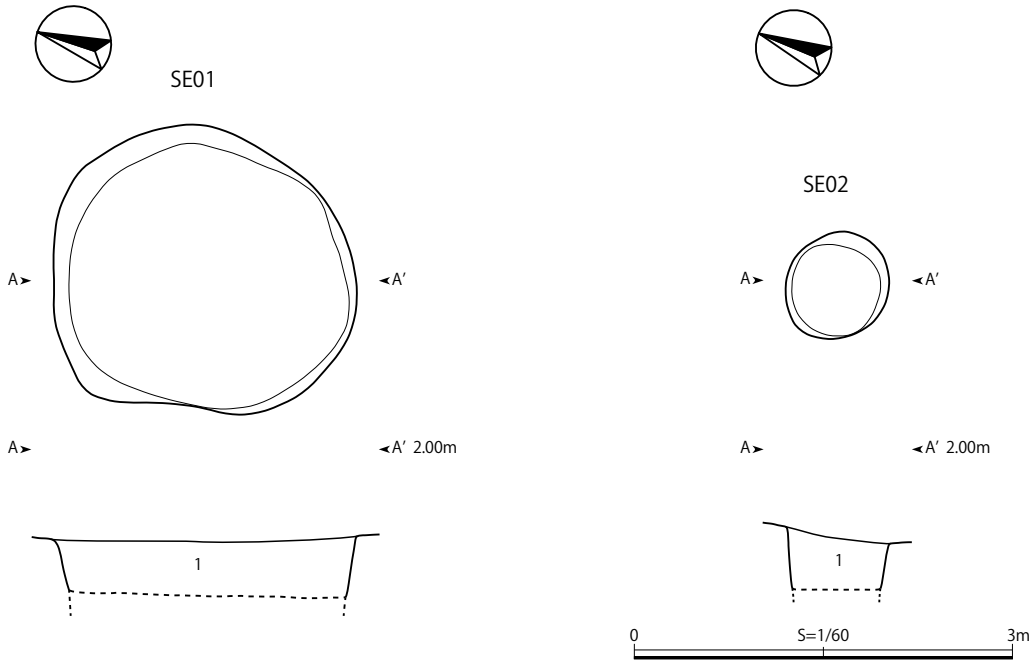
第 12 図　志茂 4-20 地点　SX01 平断面図



SX02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
Ia	褐灰色土 (10YR4/1)	非常に強い	やや弱い	炭化物（φ 5～ 10 ㎜）を微量含む。
Ib	灰黄褐色土 (10YR5/2)	非常に強い	やや弱い	炭化物（φ 5～ 10 ㎜）を微量含む。
1	黒褐色土 (10YR2/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～ 5 ㎜）を微量、シルト（φ 1～ 10 ㎜）を微量含む。
2	黒褐色土 (10YR2/3)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～ 10 ㎜）を少量、シルト（φ 1～ 10 ㎜）を少量含む。
3	灰黄褐色土 (10YR5/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～ 10 ㎜）を中量、シルト（φ 1～ 10 ㎜）を少量含む。
4	褐色土 (10YR4/6)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～ 10 ㎜）を中量、シルト（φ 1～ 10 ㎜）を少量含む。
5	灰黄褐色土 (10YR6/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～ 10 ㎜）を中量、シルト（φ 1～ 10 ㎜）を多量含む。

第 13 図　志茂 4-20 地点　SX02 平断面図



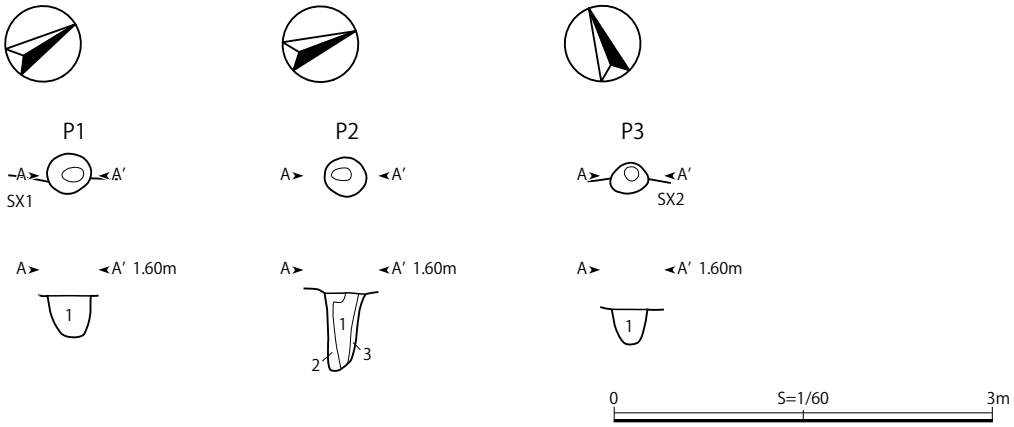
SE01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	灰黄褐色土 (10YR4/2)	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 3～5㎜）を極多量含む。

SE02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	灰黄褐色土 (10YR5/2)	やや強い	弱い	砂（φ 1㎜）を極多量、炭化物（φ 1～5㎜）を微量含む。

第 14 図　志茂 4-20 地点　SE01・SE02 平断面図



P1

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土 (10YR3/2)	非常に強い	やや弱い	シルト（φ 5～10㎜）を少量含む。

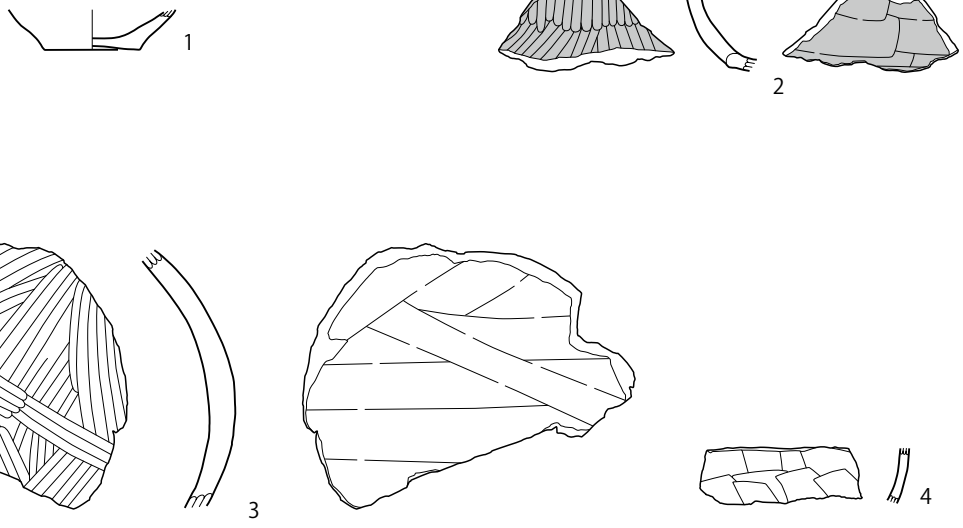
P2

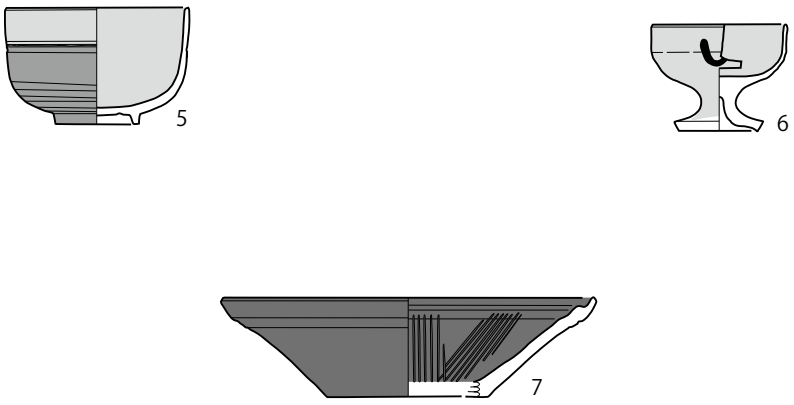
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土 (10YR3/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を少量含む。
2	灰黄褐色土 (10YR5/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を中量、シルト（φ 1～10㎜）を少量含む。
3	灰黄褐色土 (10YR6/2)	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を中量、シルト（φ 1～10㎜）を中量含む。

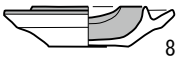
P3

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土 (10YR3/2)	非常に強い	やや弱い	シルト（φ 5～10㎜）を少量含む。

第 15 図　志茂 4-20 地点　P1 ～ P3 平断面図







第 16 図　志茂 4-20 地点　出土遺物実測図

調査区全景（南から）

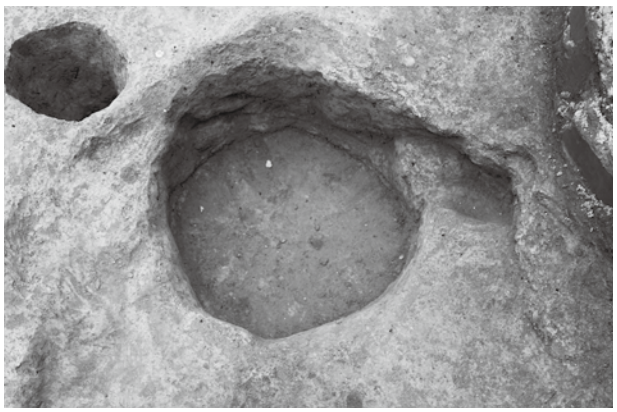
SX01 完掘（西から）

SX01 土層堆積状況（南から）

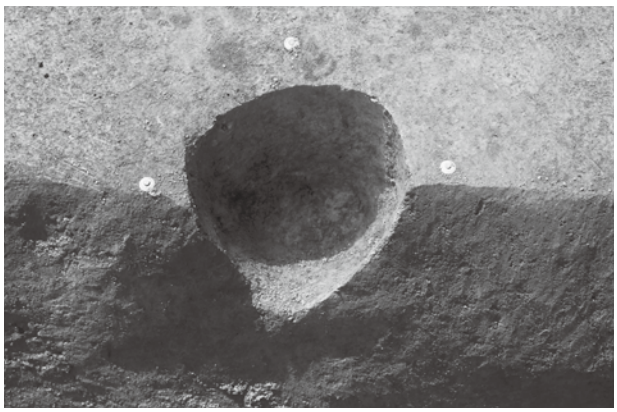
SX02 完掘（北から）

SE01 完掘（南から）

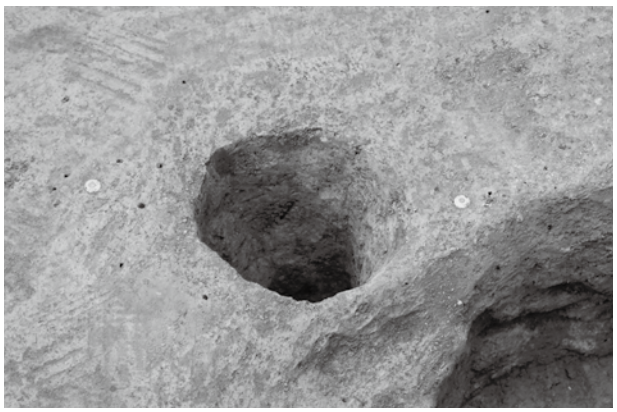
図版 3　志茂 4-20 地点（1）



SE02 完掘（北から）



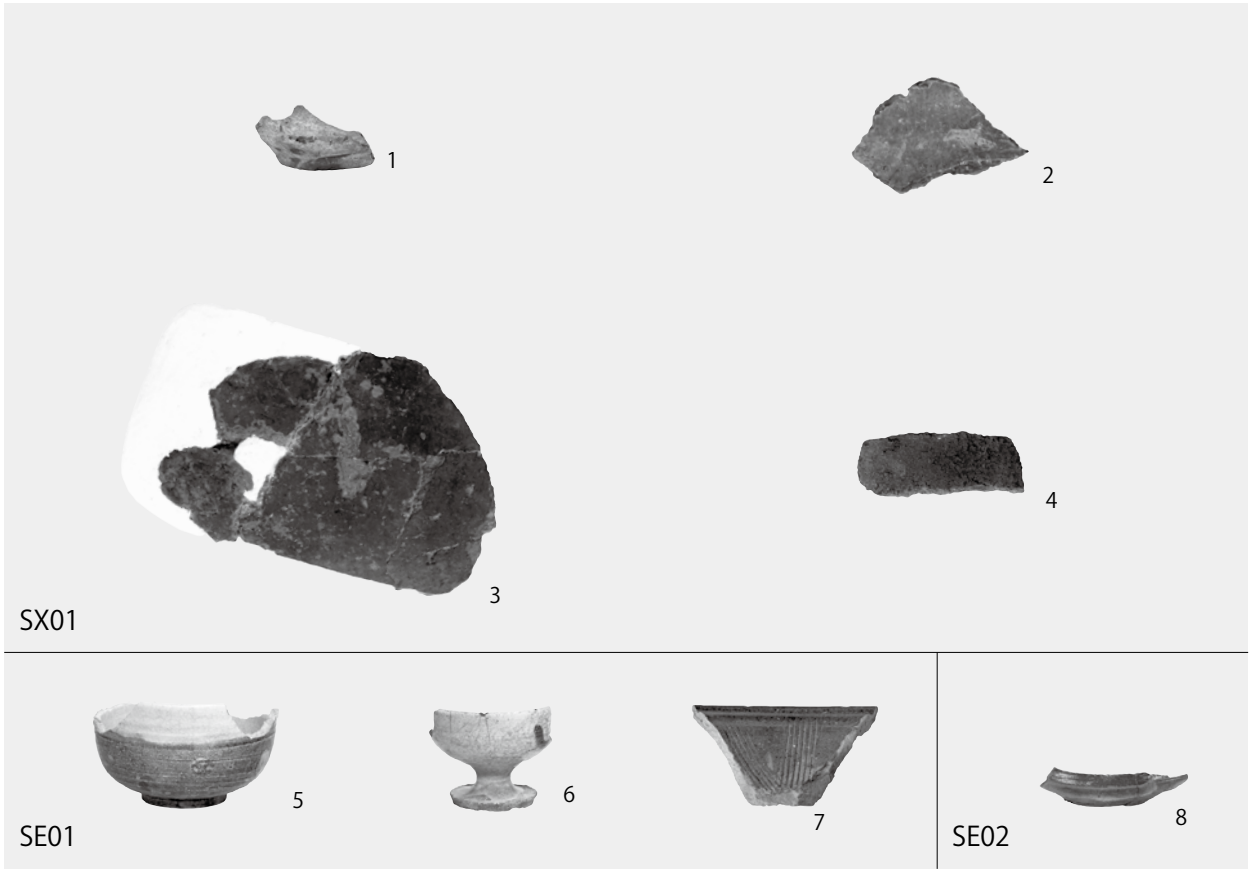
P1 完掘（北から）



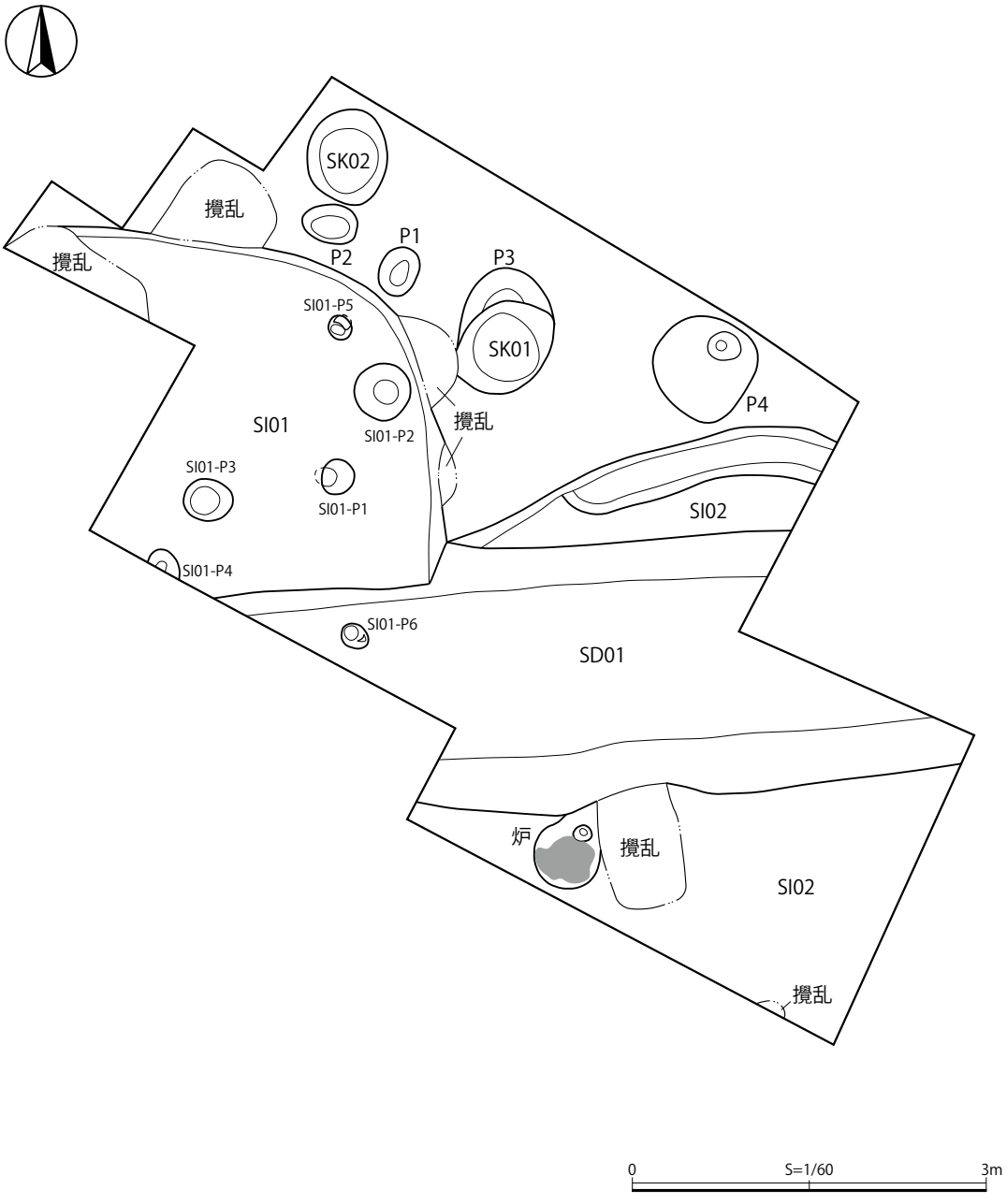
P2 完掘（北から）

P3 完掘（東から）

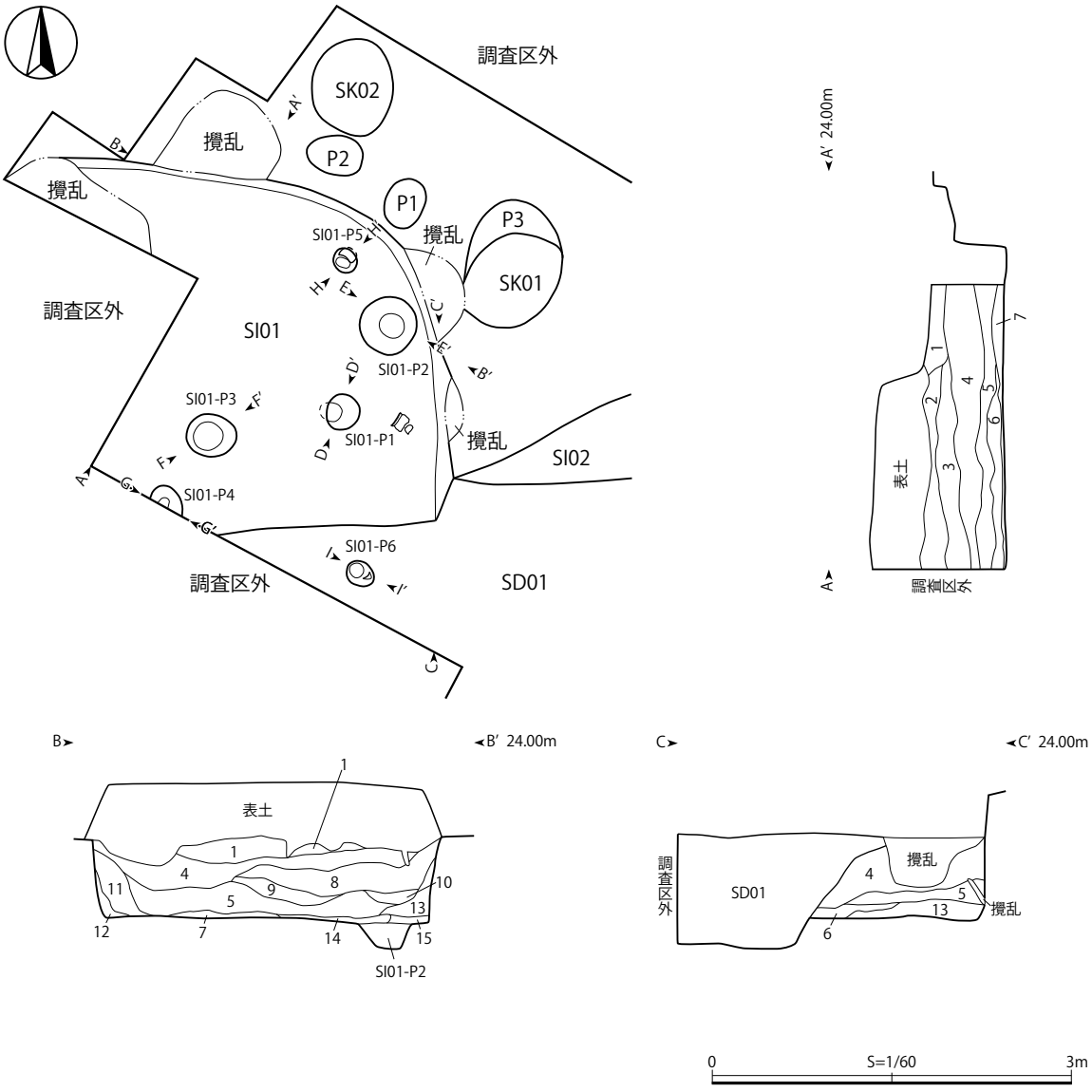
図版 4　志茂 4-20 地点（２）



図版 5　志茂 4-20 地点　出土遺物



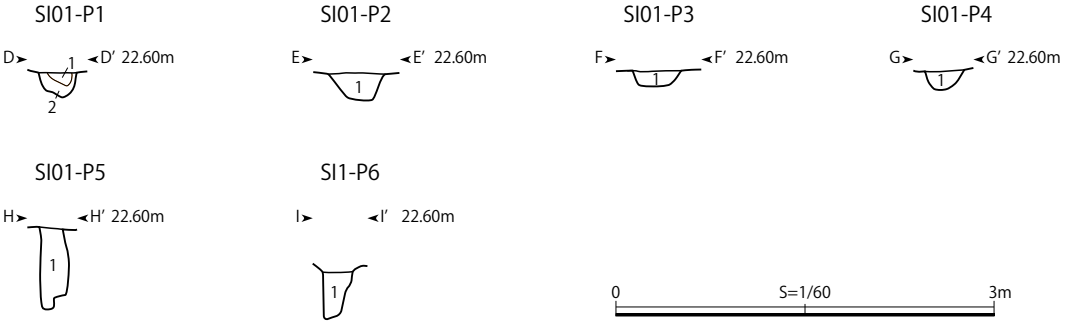
第 17 図　西ヶ原 2-14-1 地点　調査区全体図



SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒色土（10YR2/1）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
2	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を微量含む。
3	黒褐色土（10YR3/2）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を少量含む。
4	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を微量含む。
5	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。
6	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を多量含む。
7	黒褐色土（10YR2/2）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を微量含む。
8	黒褐色土（10YR3/2）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を少量含む。
9	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
10	黒褐色土（10YR3/2）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。
11	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を微量含む。
12	暗褐色土（10YR3/4）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。
13	黒褐色土（10YR3/2）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
14	暗褐色土（10YR3/4）	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。
15	暗褐色土（10YR3/3）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。

第 18 図　西ヶ原 2-14-1 地点　SI01 平断面図



SI01-P1

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR2/2）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～3㎜）を微量含む。
2	にぶい黄褐色土（10YR4/3）強い		やや弱い	ローム（φ 1～3㎜）を中量含む。

SI1-P2

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/4）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を少量含む。

SI1-P3

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を少量含む。

SI1-P4

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を微量含む。

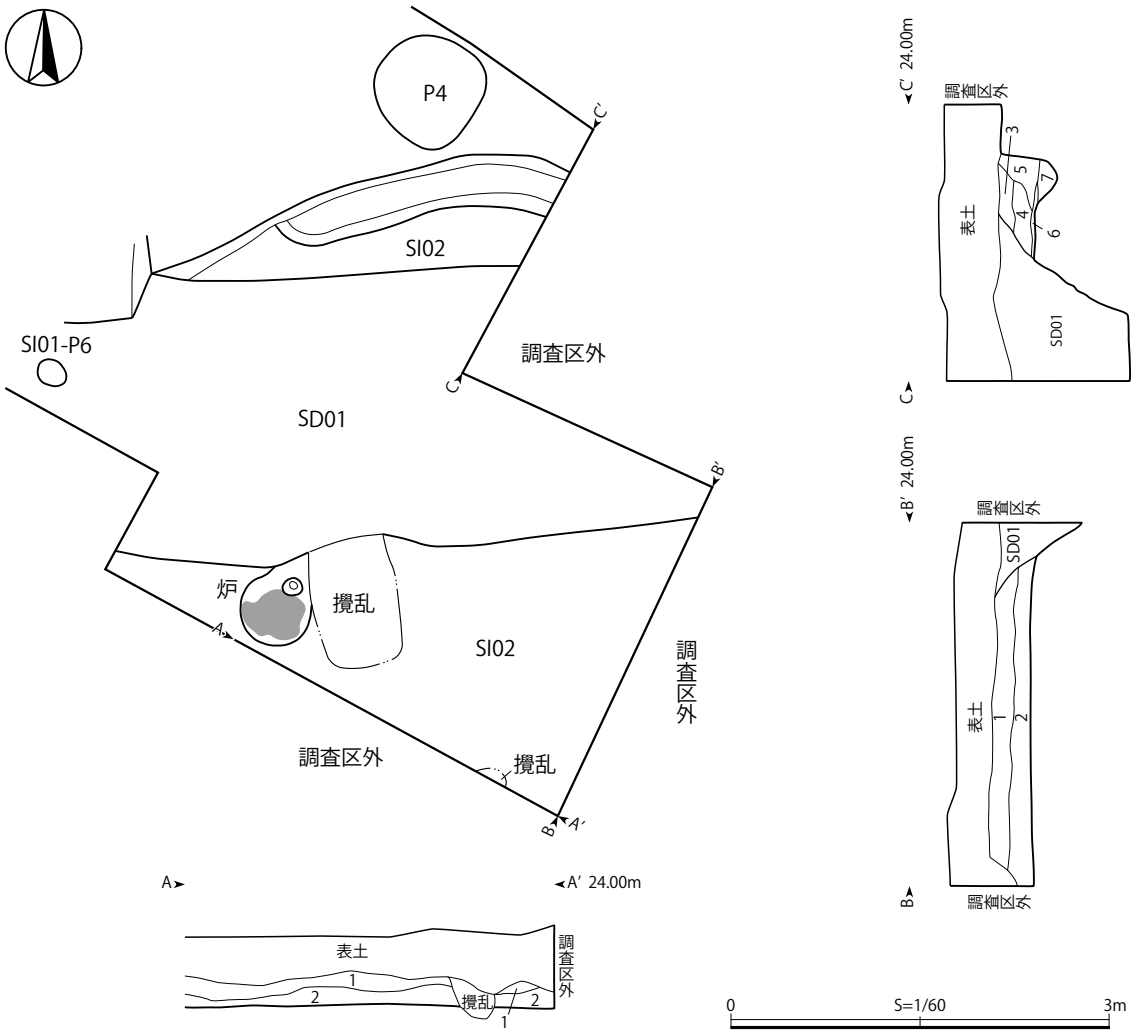
SI1-P5

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/4）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を少量含む。

SI1-P6

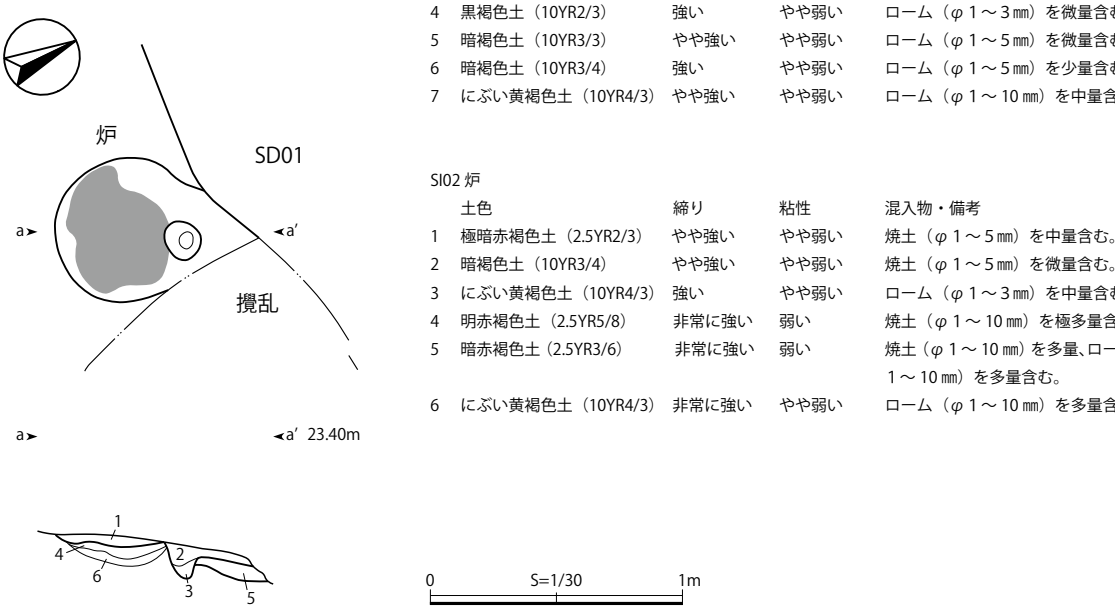
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/4）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を中量含む。

第 19 図　西ヶ原 2-14-1 地点　SI01 ピット断面図



SI02

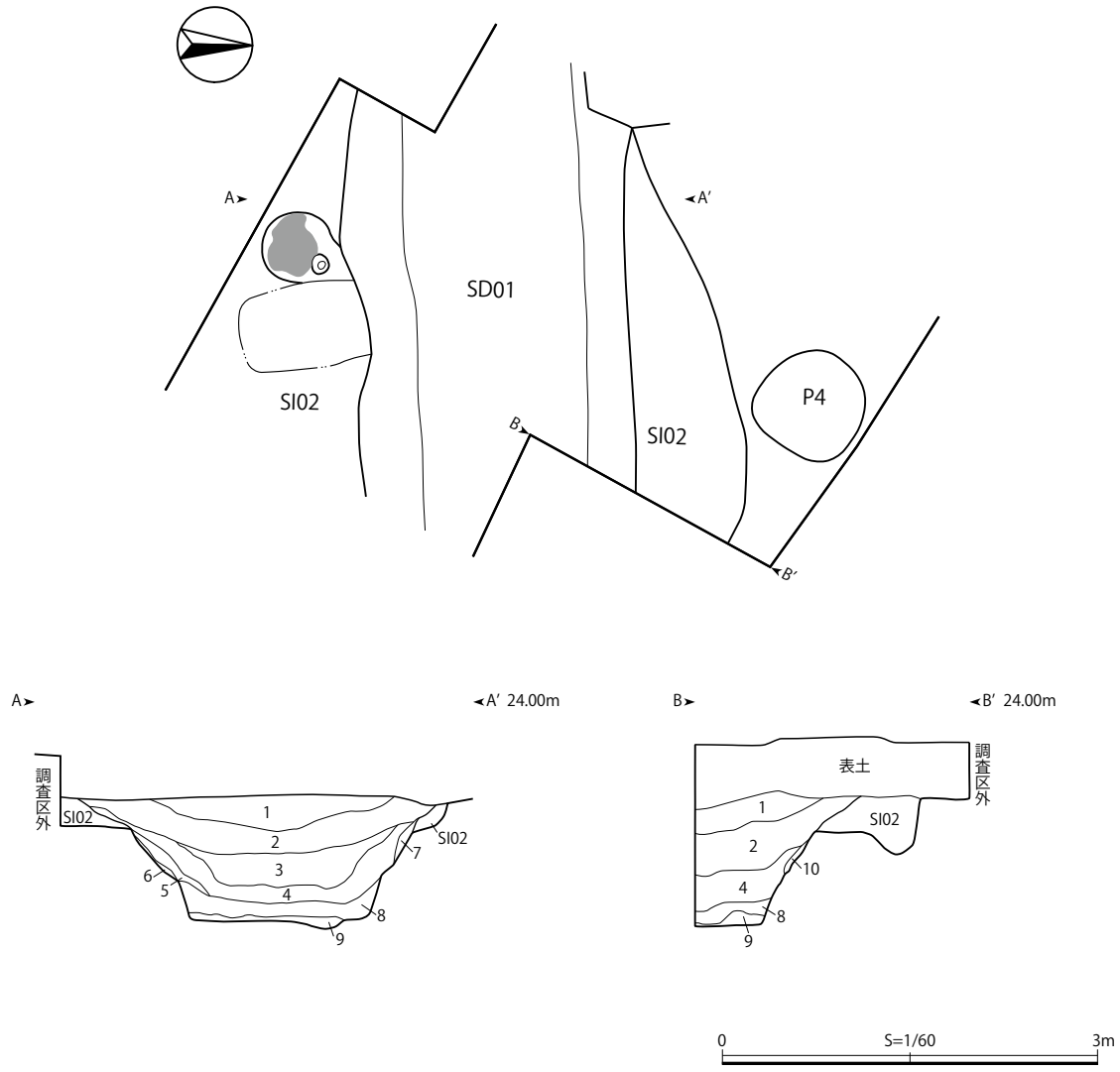
	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3㎜）を微量含む。
2	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～15㎜）を中量、焼土（φ 1～3㎜）を微量含む。
3	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3㎜）を微量含む。
4	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3㎜）を微量含む。
5	暗褐色土（10YR3/3）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を微量含む。
6	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5㎜）を少量含む。
7	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を中量含む。



SI02 炉

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	極暗赤褐色土（2.5YR2/3）	やや強い	やや弱い	焼土（φ 1～5㎜）を中量含む。
2	暗褐色土（10YR3/4）	やや強い	やや弱い	焼土（φ 1～5㎜）を微量含む。
3	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3㎜）を中量含む。
4	明赤褐色土（2.5YR5/8）	非常に強い	弱い	焼土（φ 1～10㎜）を極多量含む。
5	暗赤褐色土（2.5YR3/6）	非常に強い	弱い	焼土（φ 1～10㎜）を多量、ローム（φ 1～10㎜）を多量含む。
6	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	非常に強い	やや弱い	ローム（φ 1～10㎜）を多量含む。

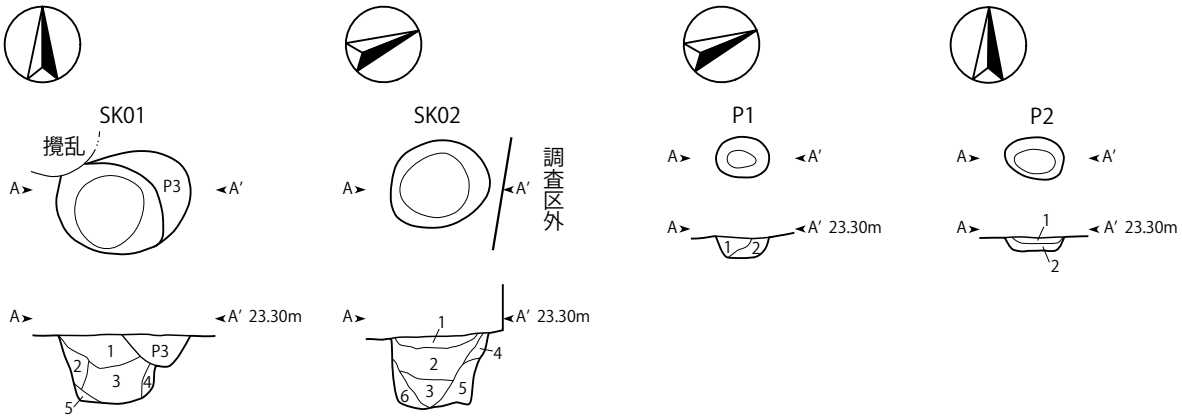
第 20 図　西ヶ原 2-14-1 地点　SI02 平断面図

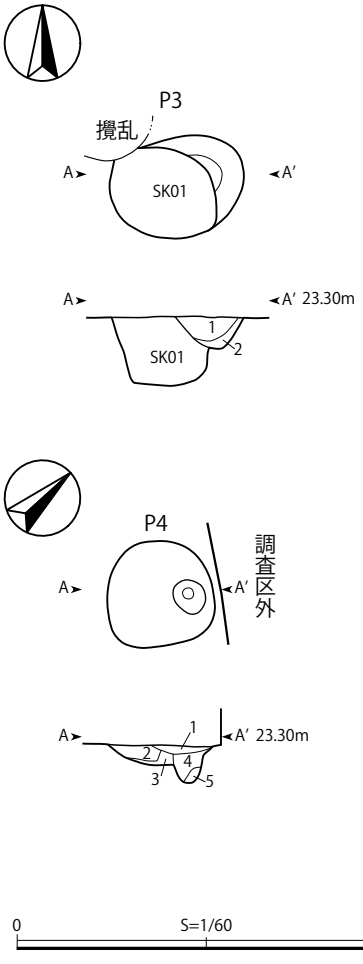


SD01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒色土（10YR2/1）	やや強い	やや弱い	ローム（φ1～5㎜）を微量、焼土（φ1～3㎜）を微量含む。
2	黒褐色土（10YR2/2）	強い	やや弱い	ローム（φ1～3㎜）を微量含む。
3	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ1～5㎜）を少量含む。
4	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ1～3㎜）を少量、焼土（φ1～3㎜）を微量含む。
5	黒褐色土（10YR3/2）	強い	やや弱い	ローム（φ1～5㎜）を中量含む。
6	褐色土（10YR4/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～10㎜）を多量含む。
7	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～3㎜）を中量含む。
8	黒褐色土（10YR2/3）	非常に強い	やや弱い	ローム（φ1～5㎜）を多量含む。
9	褐色土（10YR4/6）	非常に強い	弱い	ローム（φ1～20㎜）を極多量含む。
10	黒褐色土（10YR3/2）	強い	やや弱い	ローム（φ1～5㎜）を少量含む。

第 21 図　西ヶ原 2-14-1 地点　SD01 平断面図





SK01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を少量含む。
2	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を中量含む。
3	暗褐色土（10YR3/3）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
4	褐色土（10YR4/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を多量含む。
5	暗褐色土（10YR3/4）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。

SK02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
2	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を少量含む。
3	暗褐色土（10YR3/3）	やや強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
4	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を中量含む。
5	褐色土（10YR4/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を多量含む。
6	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を少量含む。

P1

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を少量含む。
2	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を中量含む。

P2

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
2	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を少量含む。

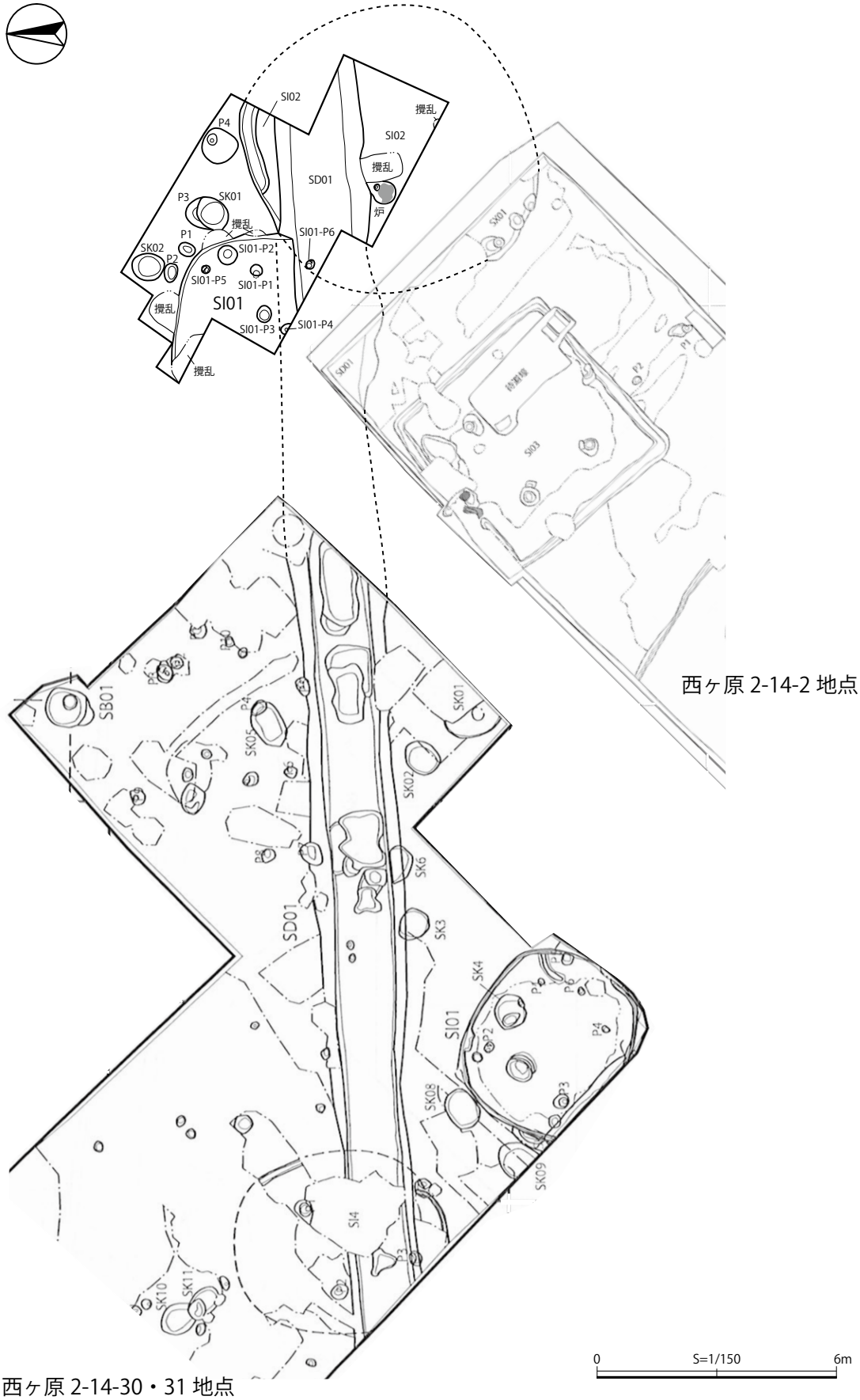
P3

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	黒褐色土（10YR2/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を微量含む。
2	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を少量含む。

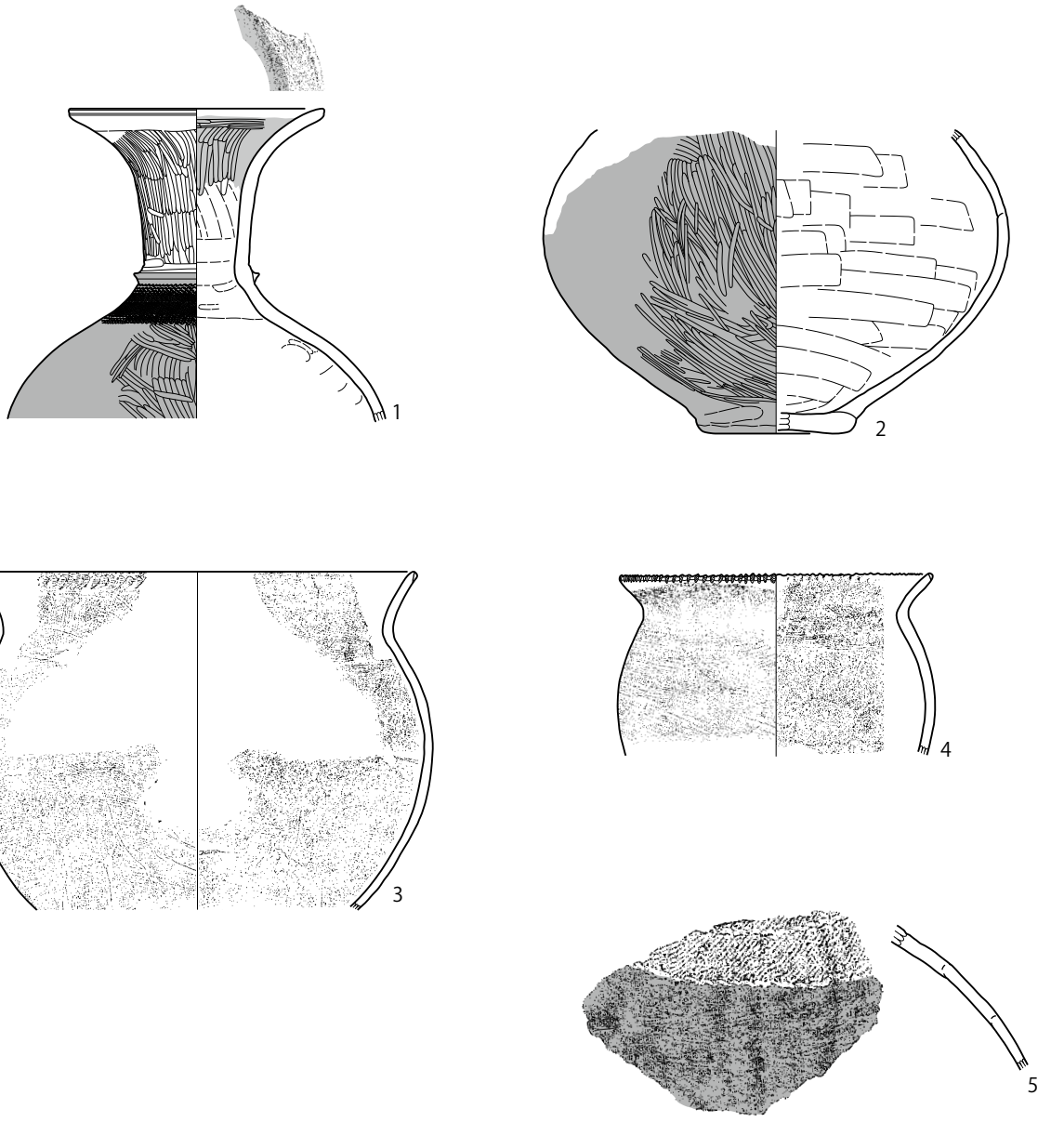
P4

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
2	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～5 ㎜）を中量含む。
3	褐色土（10YR4/4）	非常に強い	弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を極多量含む。
4	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～3 ㎜）を微量含む。
5	褐色土（10YR4/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10 ㎜）を多量含む。

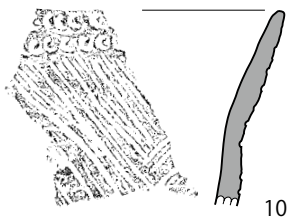
第 22 図　西ヶ原 2-14-1 地点　土坑・ピット平断面図

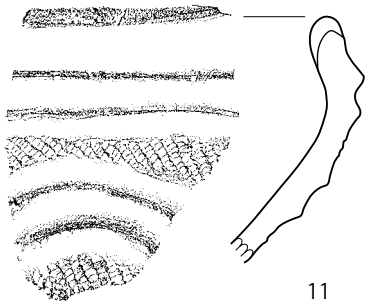


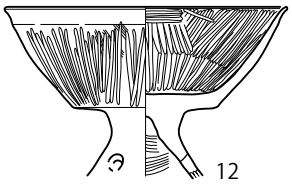
第 23 図　調査区隣地遺構合成図

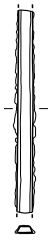


第 24 図　西ヶ原 2-14-1 地点　出土遺物実測図（1）



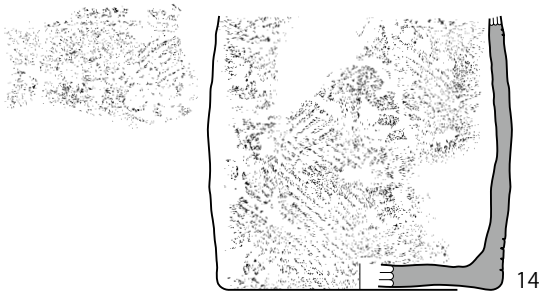






SD01

繊維 0 S=1/4 10cm (12)　0 S=1/3 10cm (10・11・13)



SK01

繊維 0 S=1/4 10cm (14)　0 S=1/3 10cm (15)

第 25 図　西ヶ原 2-14-1 地点　出土遺物実測図（2）

調査区全景（北東から）

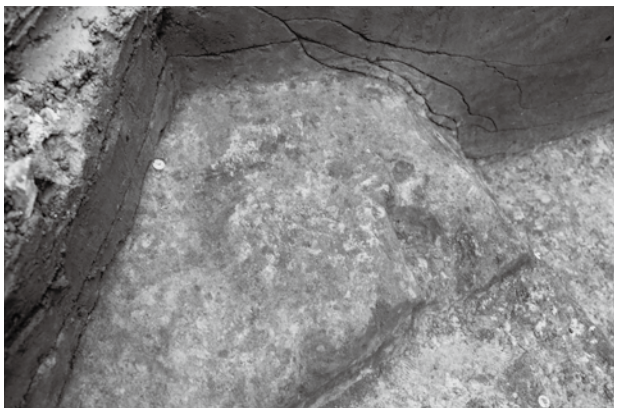
SI01 完掘（東から）

SI01 遺物出土状況（南西から）

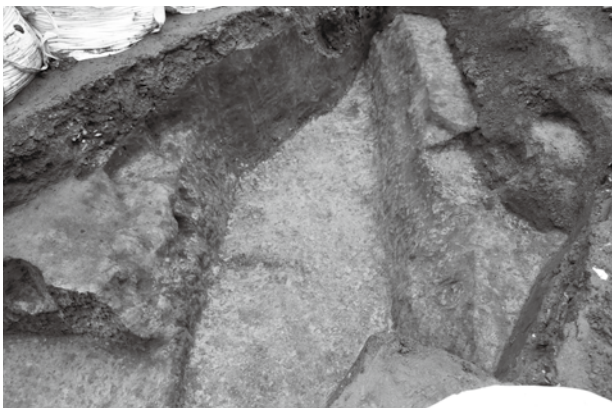
SI02 完掘 1 （東から）

SI02 完掘 2 （東から）

図版 6　西ヶ原 2-14-1 地点（1）



SI02 炉（東から）

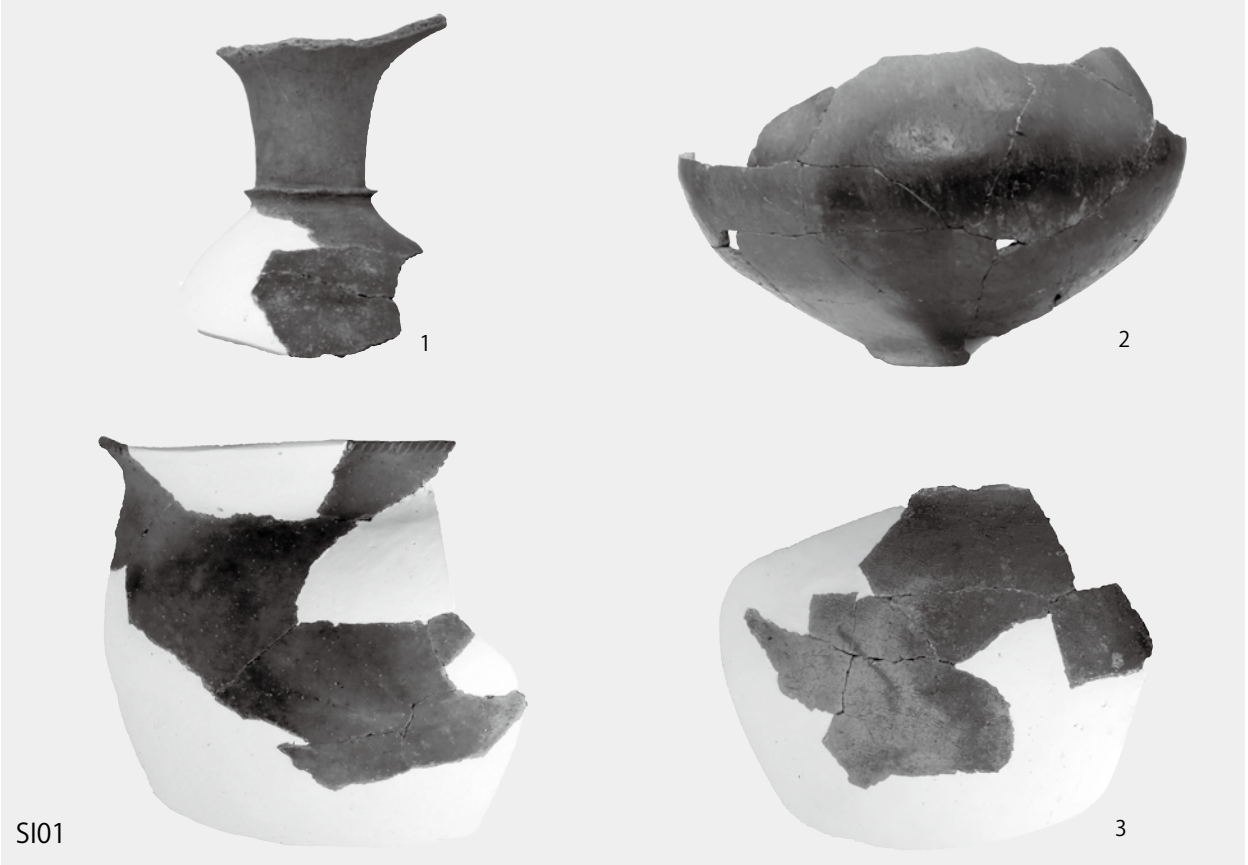


SD01 完掘（西から）

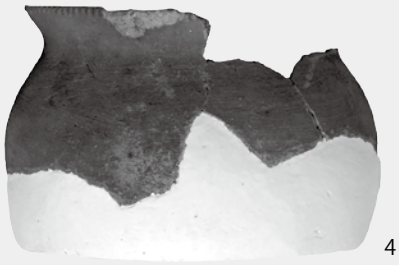
SK01・P3 完掘（東から）

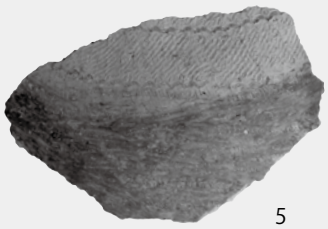
SK02・P02 完掘（東から）

図版 7　西ヶ原 2-14-1 地点（2）



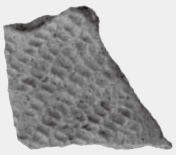
図版 8　西ヶ原 2-14-1 地点　出土遺物（1）


4


5

SI01

6

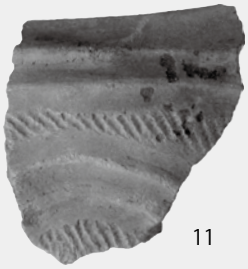

7

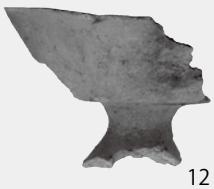
8

9

SI02

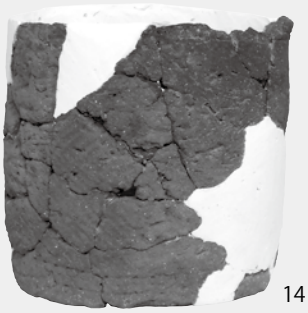
10

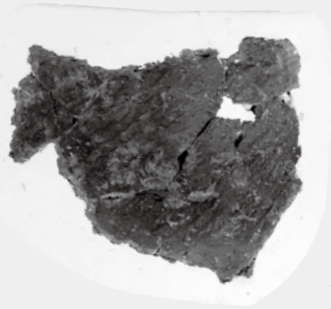

11


12

13

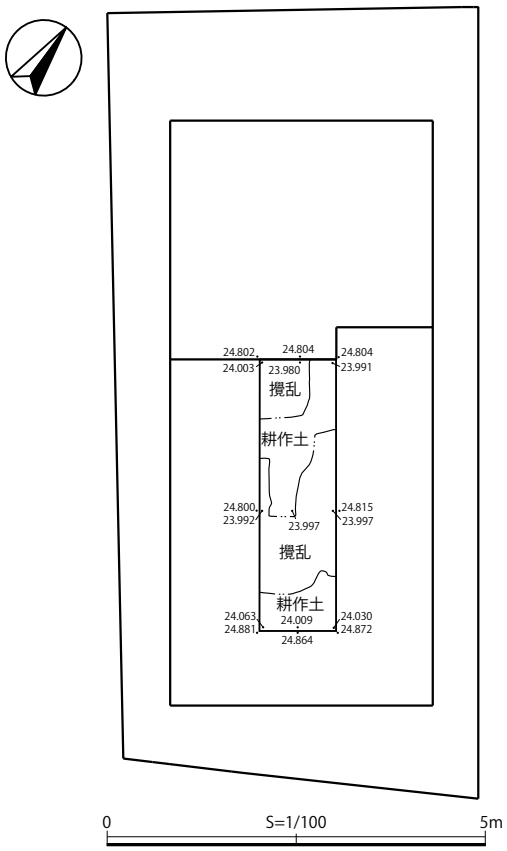
SD01


14


15

SK01

図版 9　西ヶ原 2-14-1 地点　出土遺物（2）



第 26 図　王子本町 2-8-16 地点　調査平面図

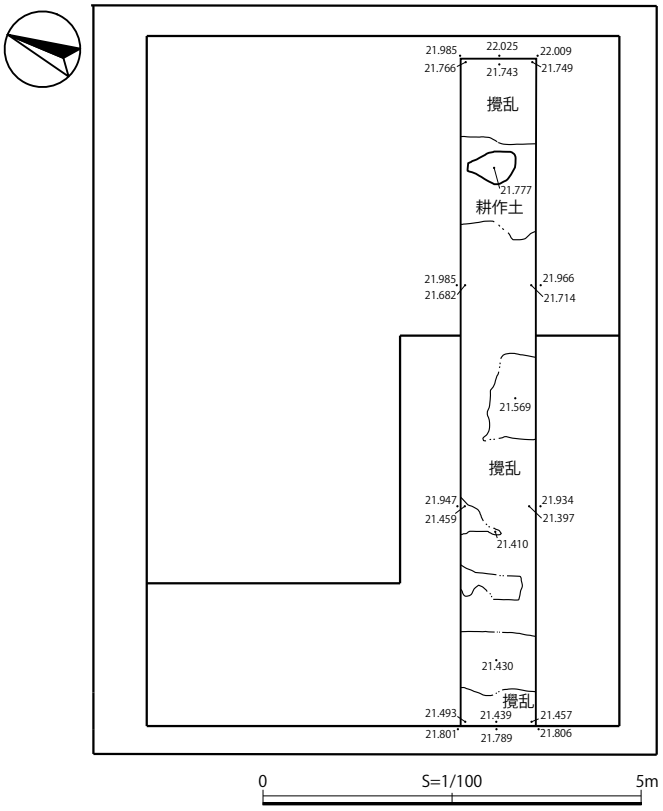
試掘坑全景 1（北西から）

試掘坑全景 2（北西から）

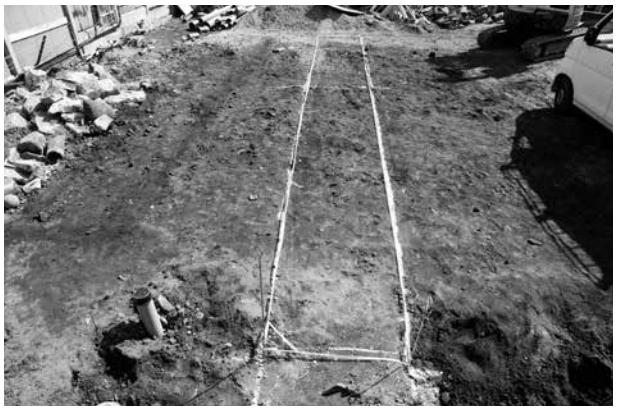
試掘坑土層堆積状況 1（北東から）

試掘坑土層堆積状況 2（南西から）

図版 10　王子本町 2-8-16 地点

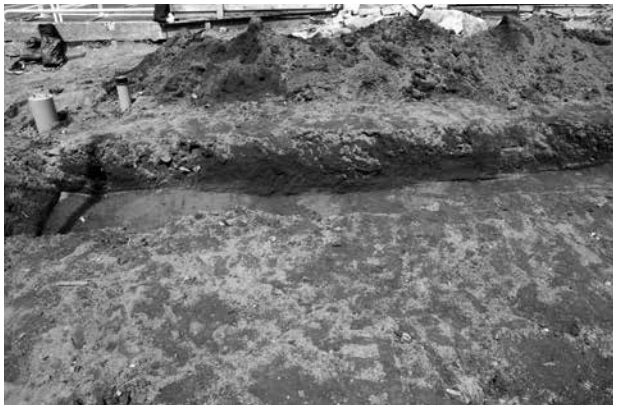


第 27 図　中十条 3-17 地点　調査平面図



試掘坑設定状況（西から）

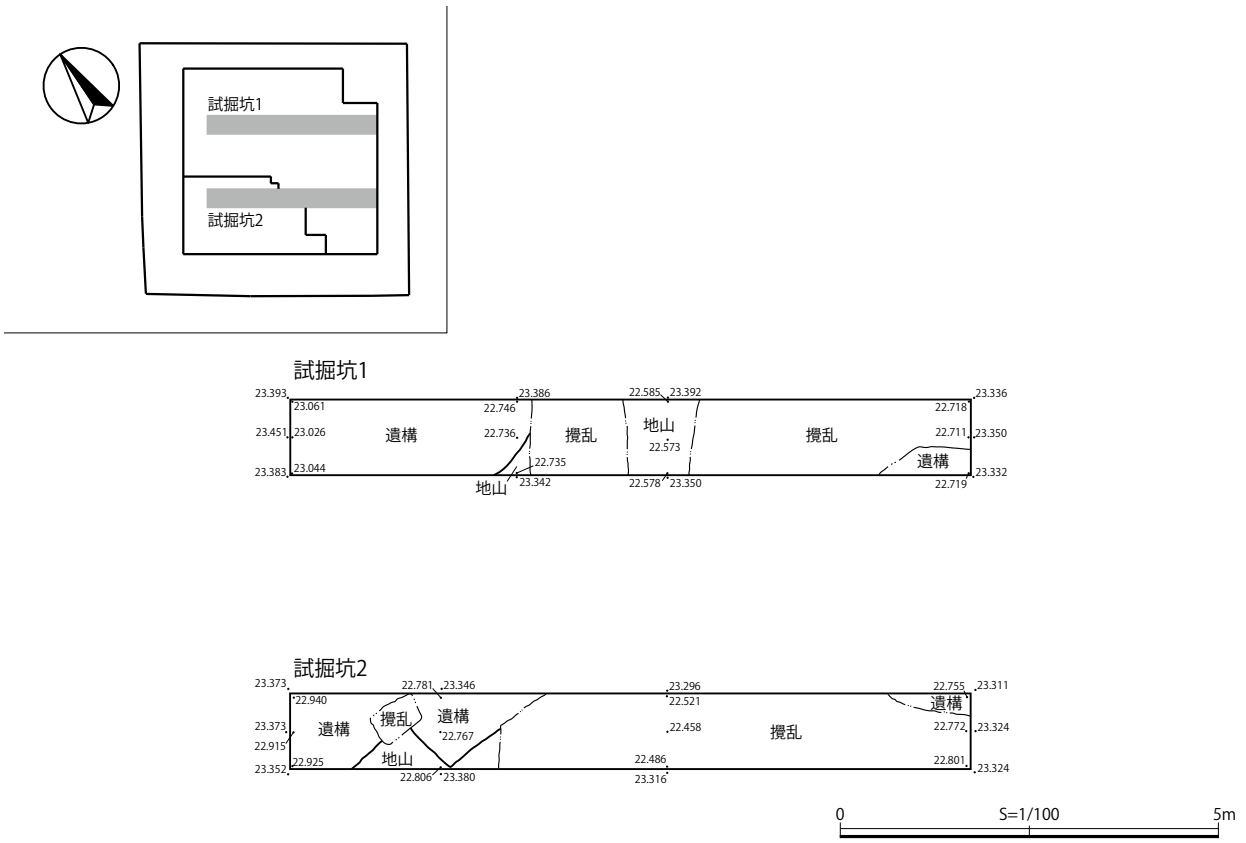
試掘坑全景（西から）



試掘坑西部土層堆積状況（南から）

試掘坑東部土層堆積状況（南から）

図版 11　中十条 3-17 地点

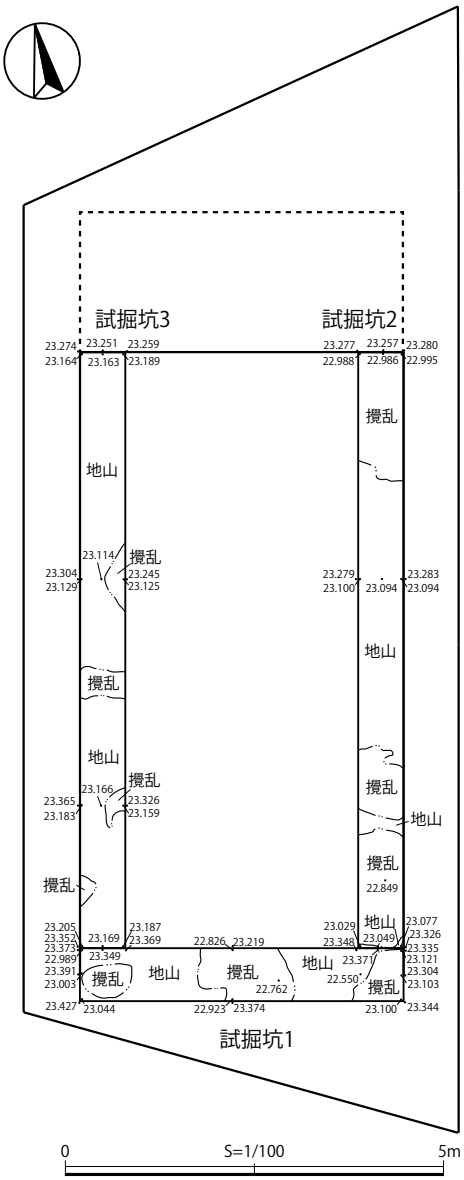


第 28 図　中里 3-23-9 地点　調査平面図

試掘坑 1 全景（西から）

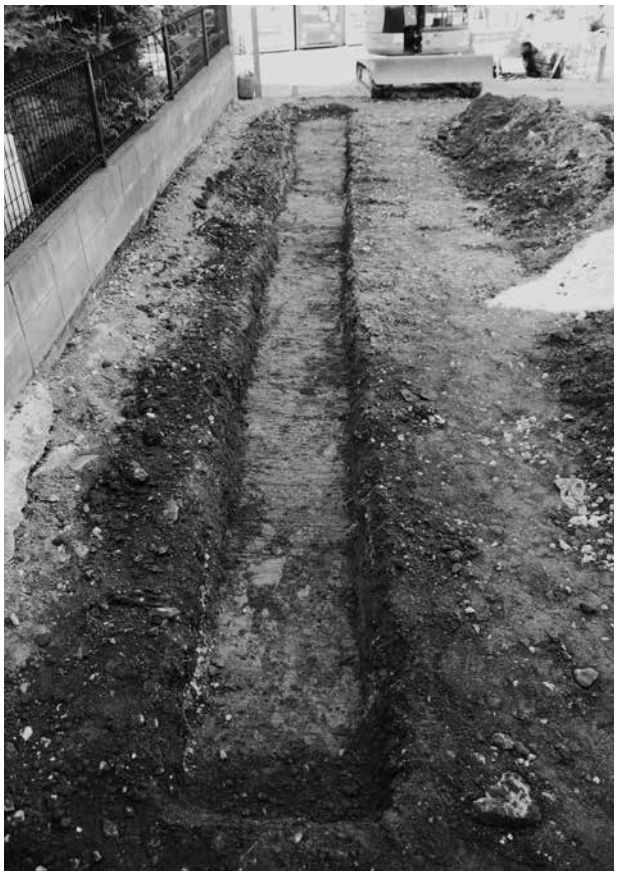
試掘坑 2 全景（西から）

図版 12　中里 3-23-9 地点



第 29 図　西ヶ原 3-24-7 地点　調査平面図

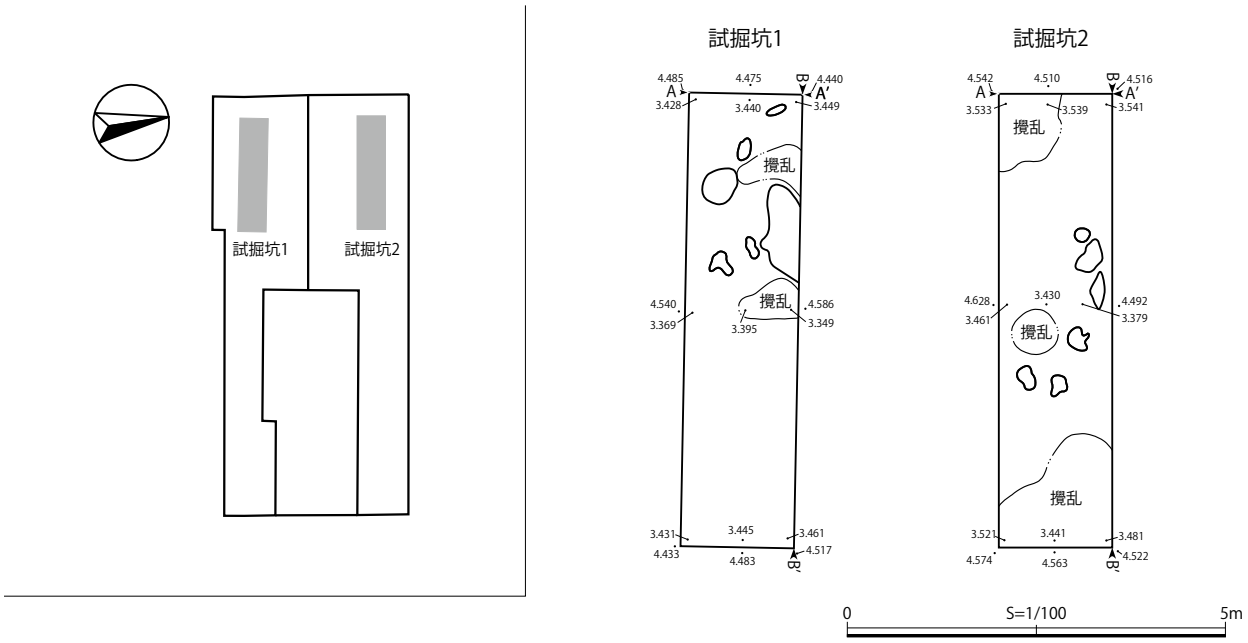
試掘坑２全景（南から）

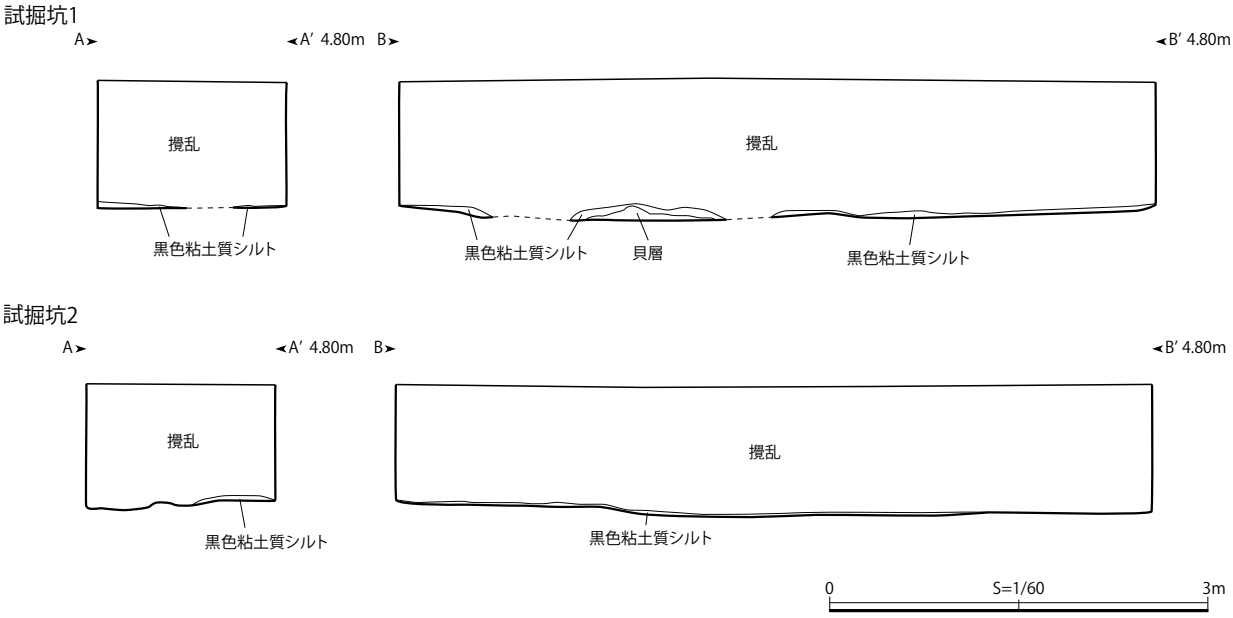


試掘坑３全景（南から）

試掘坑１全景（東から）

図版 13　西ヶ原 3-24-7 地点



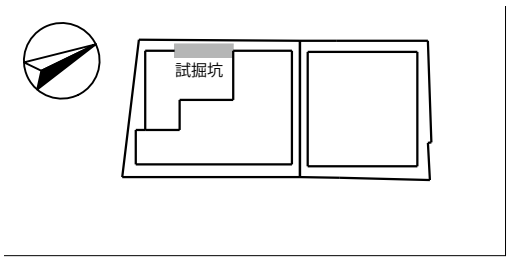


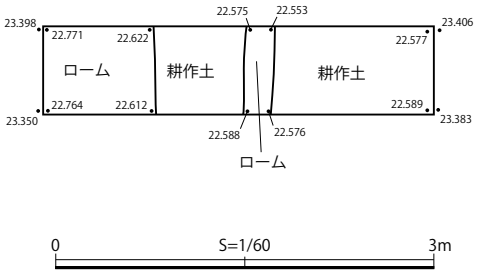
第 30 図　上中里 2-8-17・18 地点　調査平断面図

試掘坑 1 全景（東から）

試掘坑 2 全景（東から）

図版 14　上中里 2-8-17・18 地点





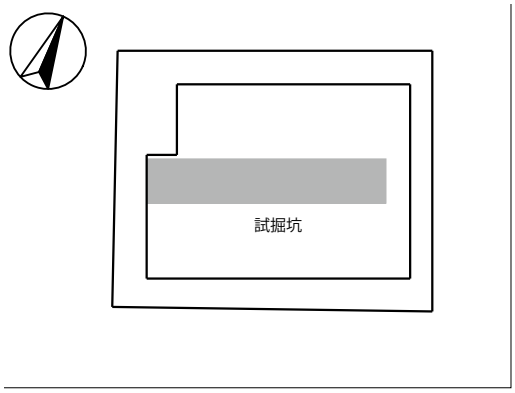
第 31 図　上中里 1-25 地点　調査平面図

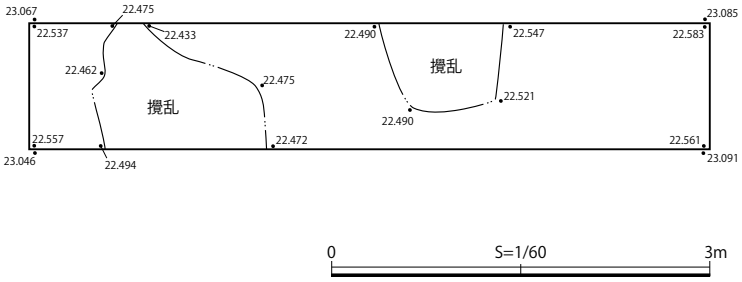
試掘坑設定状況（南西から）

試掘坑土層堆積状況（東から）

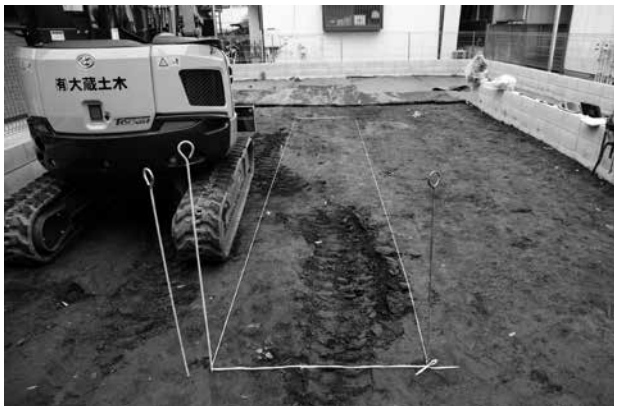
試掘坑全景（北東から）

図版 15　上中里 1-25 地点





第 32 図　中十条 4-12 地点　調査平面図

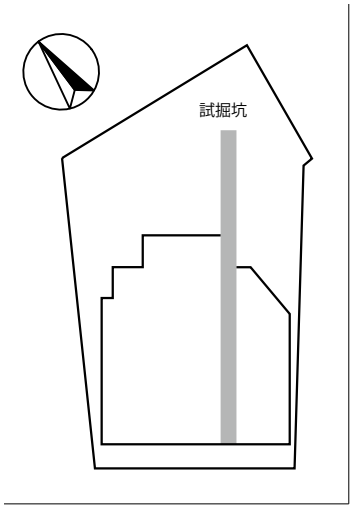


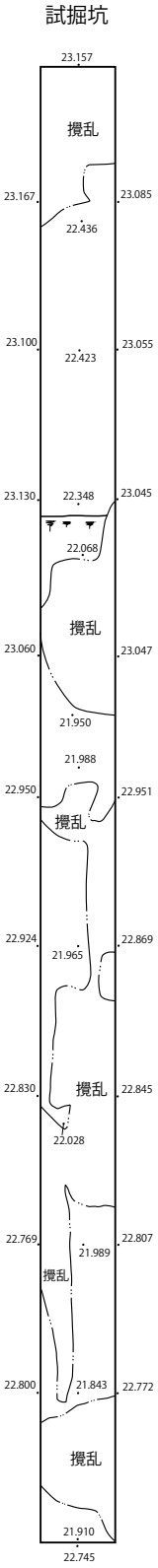
試掘坑設定状況（南西から）

試掘坑土層堆積状況（南東から）

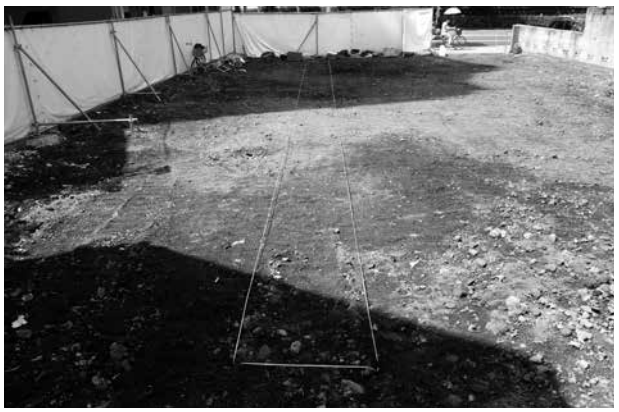
試掘坑全景（南西から）

図版 16　中十条 4-12 地点





第 33 図　西ヶ原 1-25 地点　調査平面図

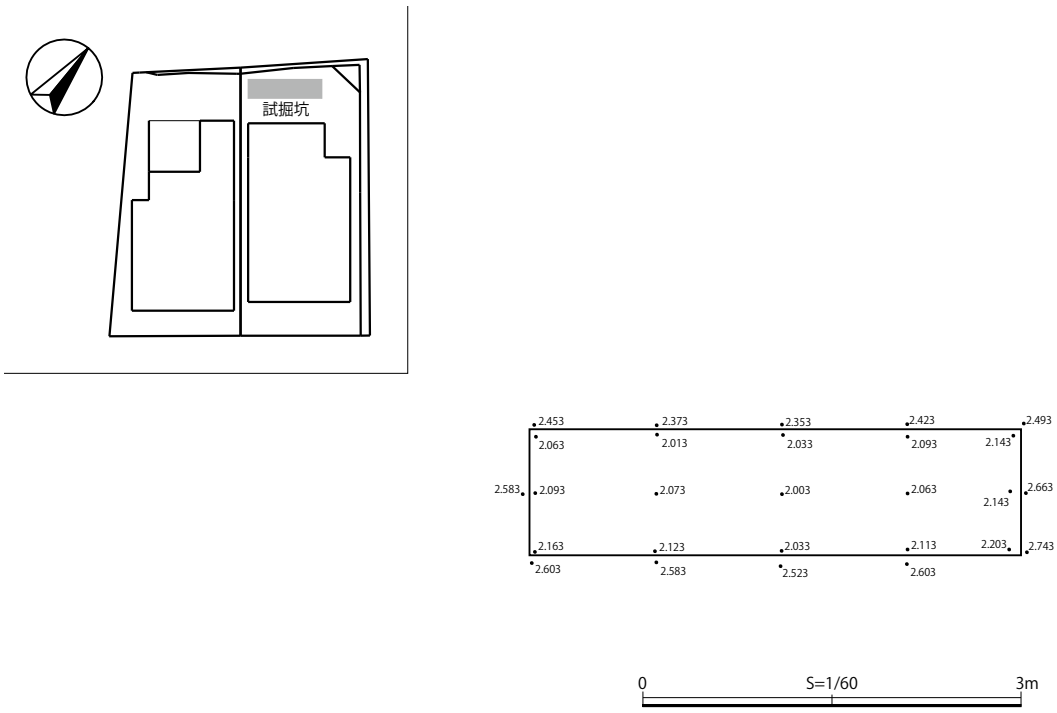


試掘坑設定状況（北東から）

試掘坑全景（北東から）

試掘坑土層堆積状況（南東から）

図版 17　西ヶ原 1-25 地点



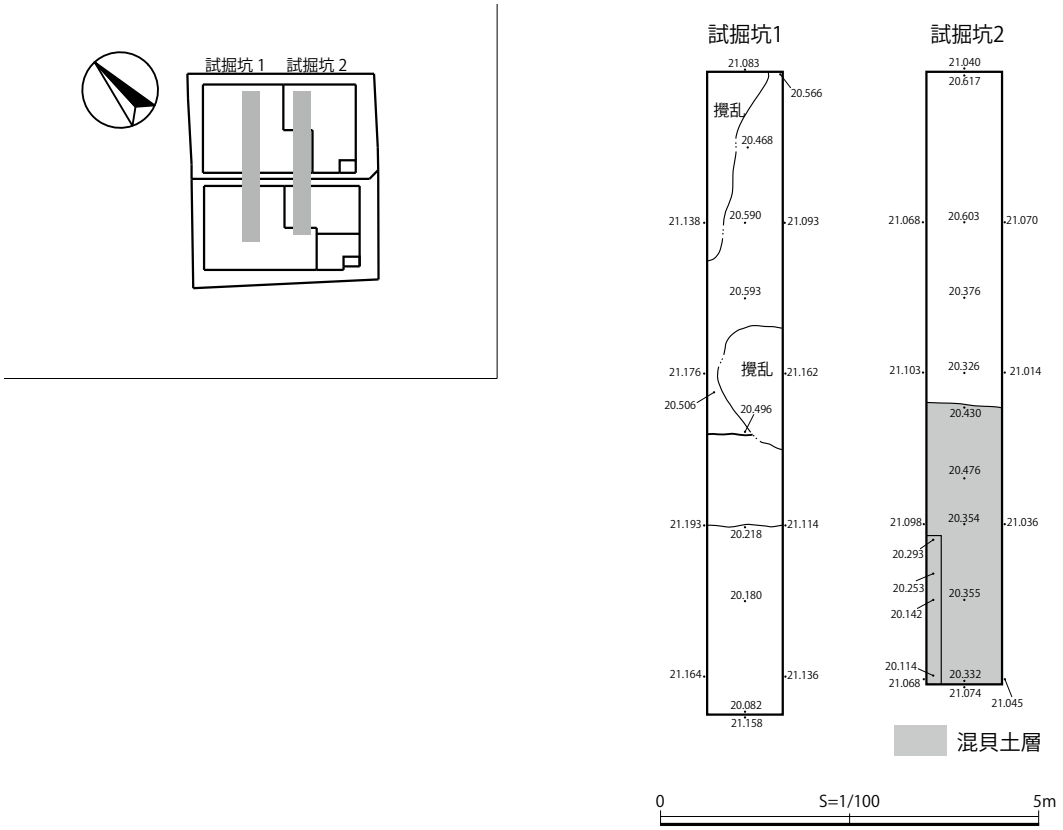
第 34 図　志茂 3-39-12 地点　調査平面図

現場風景 (北から)

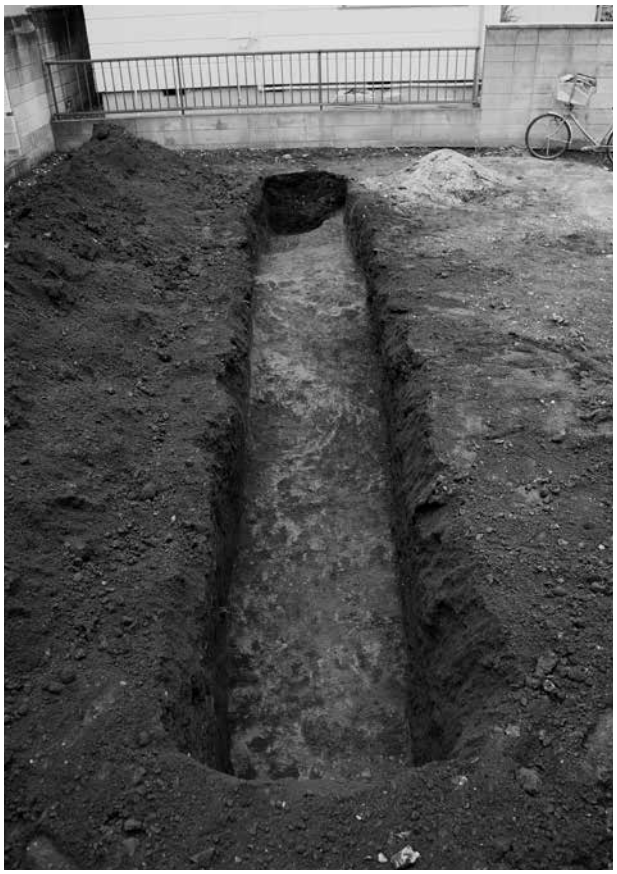
試掘坑設定状況 (西から)

試掘坑全景（西から）

図版 18　志茂 3-29-12 地点



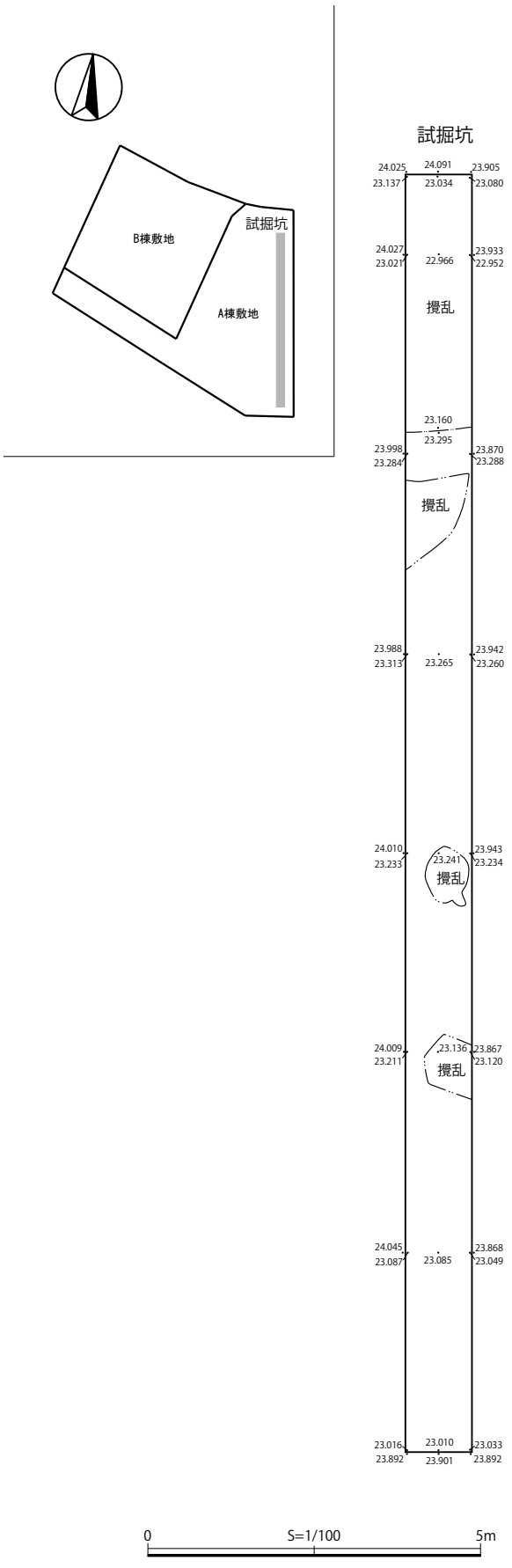
第 35 図　西ヶ原 3-12-23 地点　調査平面図



試掘坑 1 全景（南西から）

試掘坑 2 全景（南西から）

図版 19　西ヶ原 3-12-23 地点



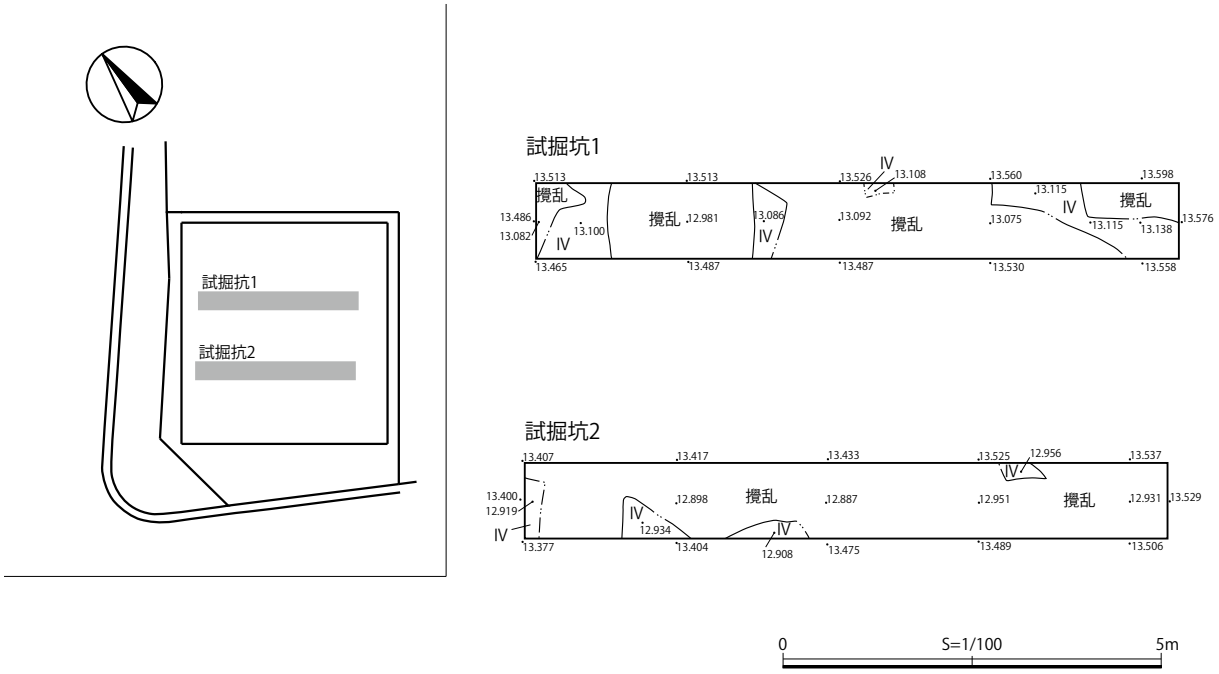
第 36 図　中十条 2-6-12 地点　調査平面図

試掘坑全景（北から）

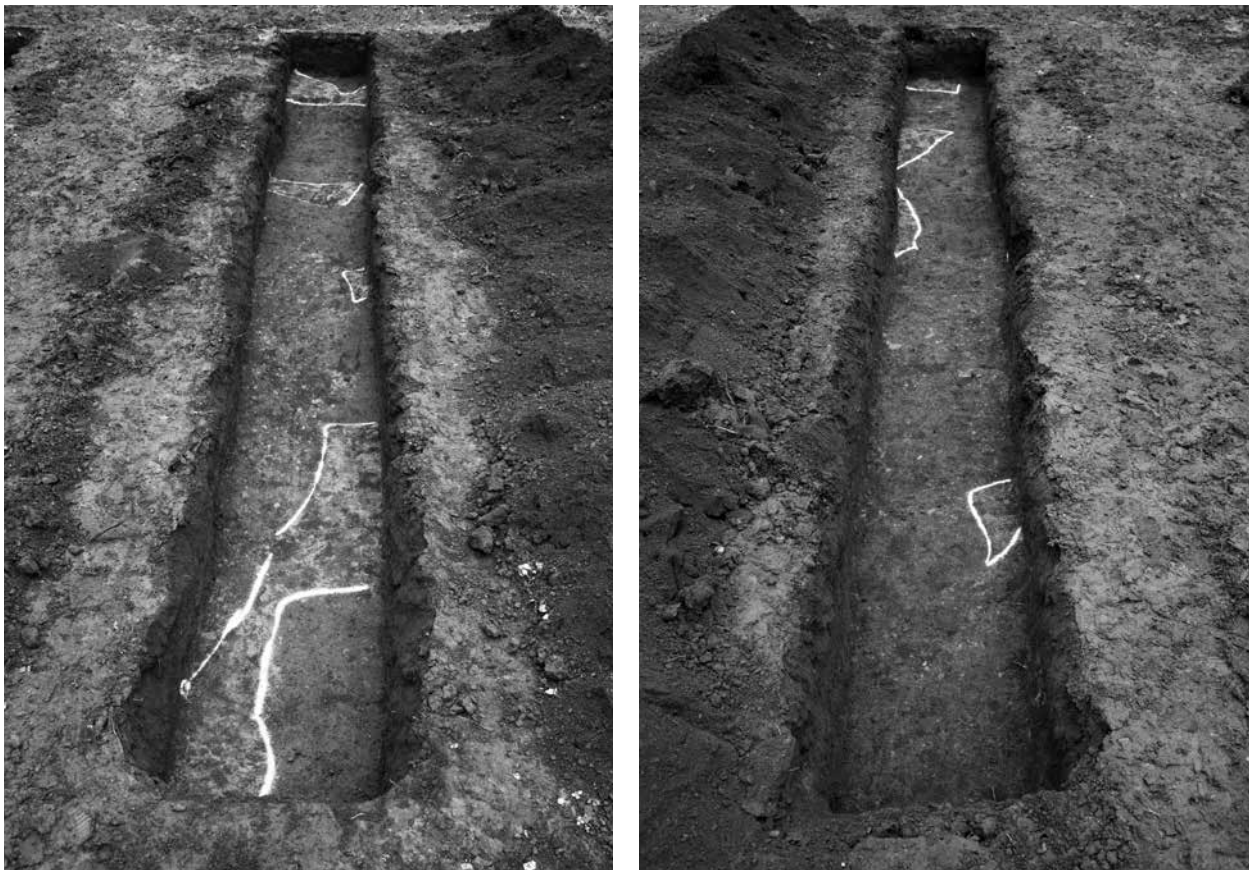
試掘坑土層堆積状況（西から）

復旧状況（北から）

図版 20　中十条 2-6-12 地点

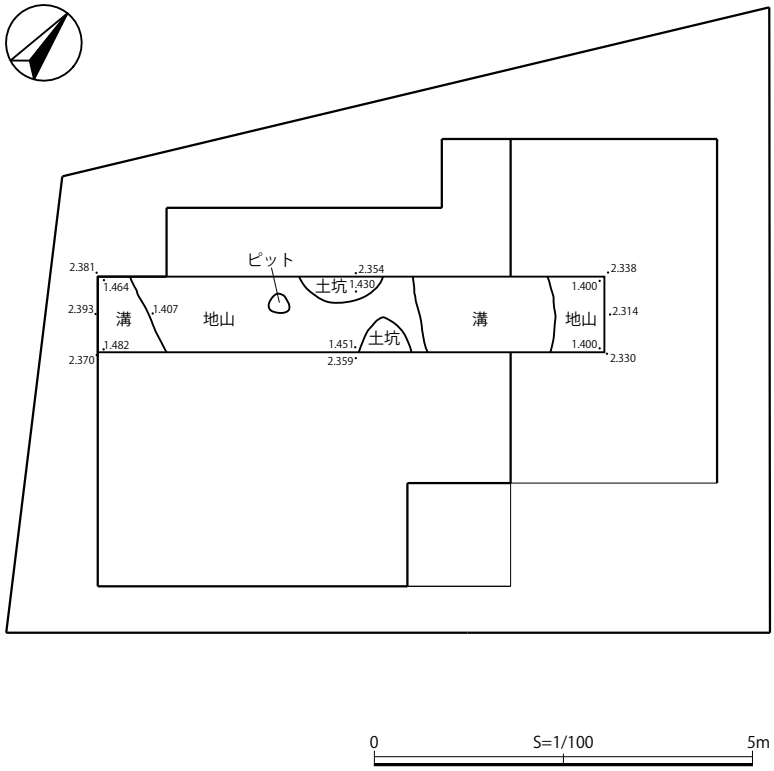


第 37 図　田端 3-23-9 地点　調査平面図



試掘坑１全景（南東から）　　試掘坑２全景（南東から）

図版 21　田端 3-23-9 地点



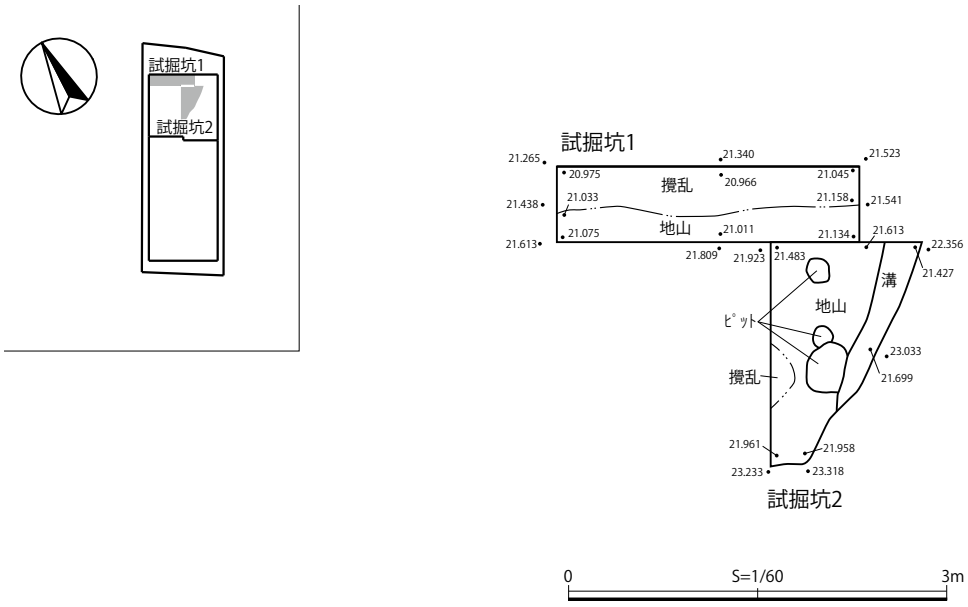
第 38 図　志茂 4-20 地点　調査平面図

試掘坑全景（北から）

溝検出状況 1（南から）

溝検出状況 2（南から）

図版 22　志茂 4-20 地点



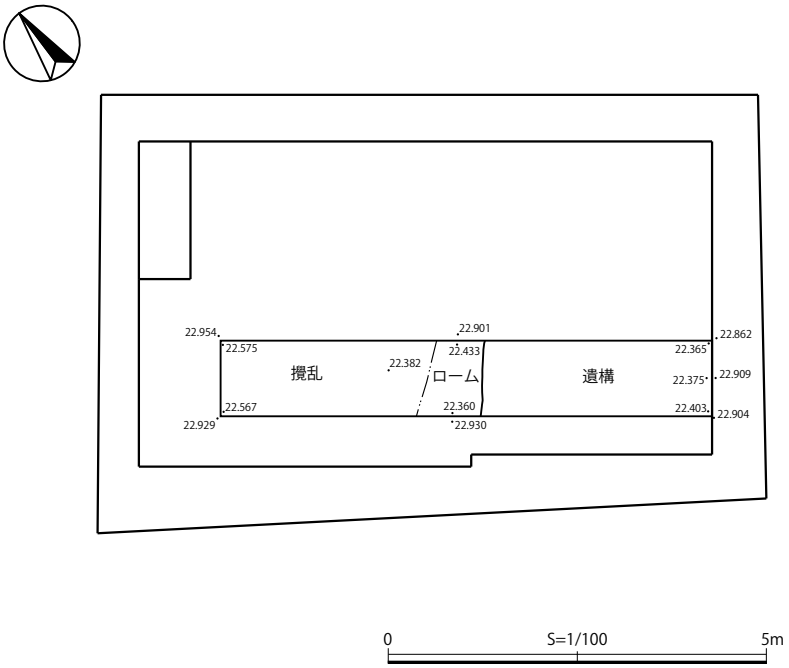
第 39 図　西ヶ原 3-33 地点　調査平面図

試掘坑 1 全景（西から）

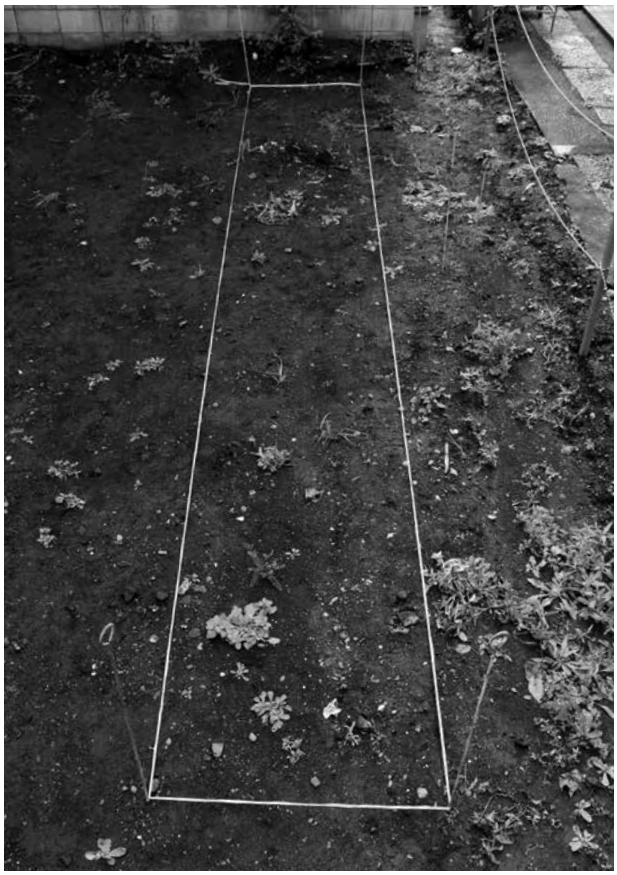
試掘坑 2 全景（北から）

試掘坑 2 土層堆積状況（東から）

図版 23　西ヶ原 3-33 地点



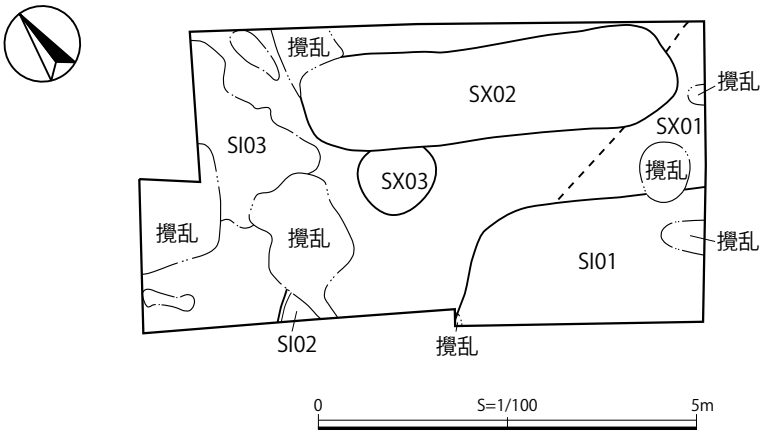
第 40 図　田端 6-10-6 地点　調査平面図



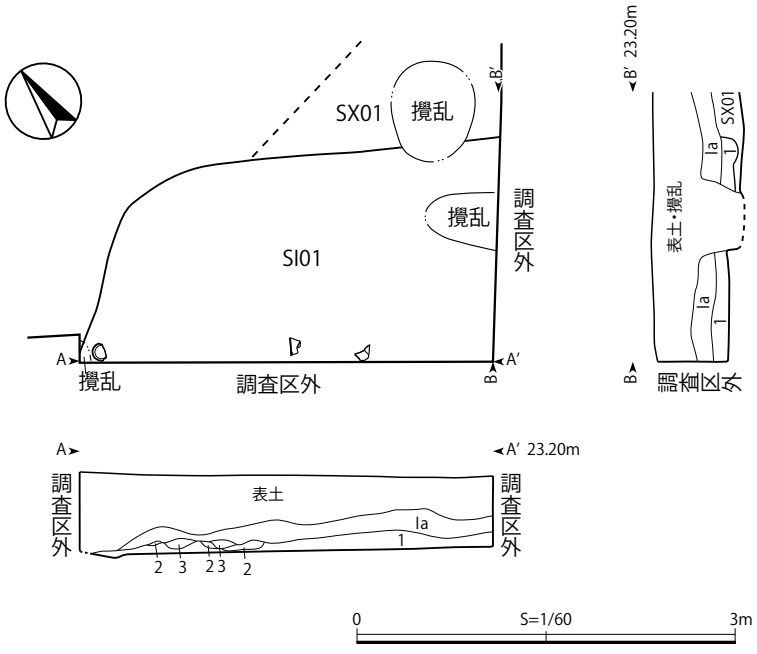
試掘坑設定状況（西から）

試掘坑全景（西から）

図版 24　田端 6-10-6 地点



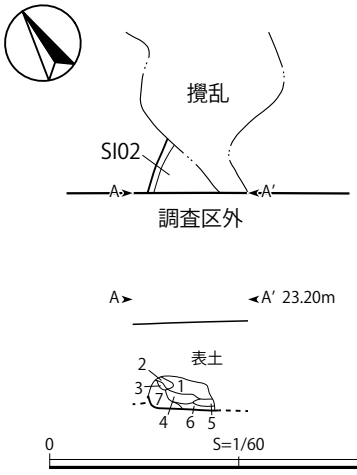
第 41 図　田端 6-10-6 地点　調査区全体図



SI01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
Ia	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ 1～10mm）を中量含む。
1	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ 3～5 mm）を少量、焼土（φ 1～5 mm）を微量含む。
2	赤褐色土（2.5YR4/8）	強い	弱い	焼土（φ 1～5 mm）を極多量含む。
3	にぶい赤褐色土（2.5YR4/3）	強い	弱い	焼土（φ 1～5 mm）を中量含む。

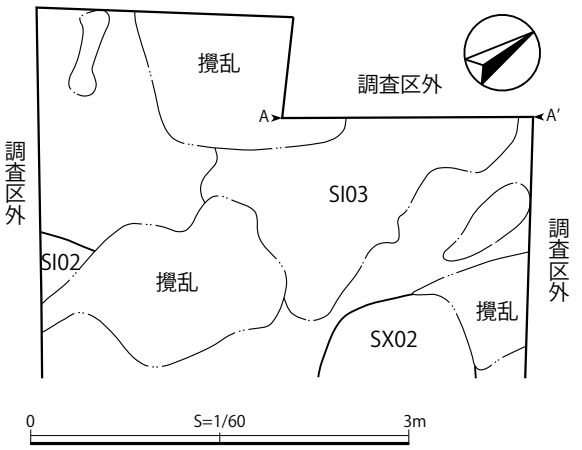
第 42 図　田端 6-10-6 地点　SI01 平断面図

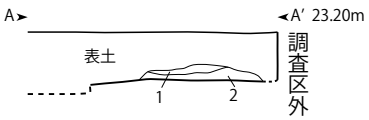


SI02

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	灰黄褐色土（10YR6/2）	非常に強い	弱い	粘土（φ1～5mm）を極多量、焼土（φ1～3mm）を微量含む。
2	灰黄褐色土（10YR4/2）	強い	やや弱い	粘土（φ1～5mm）を中量含む。
3	赤褐色土（2.5YR4/8）	強い	弱い	焼土（φ1～3mm）を極多量含む。
4	灰黄褐色土（10YR4/2）	強い	やや弱い	粘土（φ1～5mm）を中量、焼土（φ1～3mm）を中量含む。
5	灰黄褐色土（10YR5/2）	強い	やや弱い	粘土（φ1～5mm）を多量、焼土（φ1～3mm）を中量含む。
6	暗褐色土（10YR3/4）	やや強い	やや弱い	粘土（φ1～5mm）を微量、焼土（φ1～3mm）を少量含む。
7	灰黄褐色土（10YR5/2）	非常に強い	やや弱い	粘土（φ1～5mm）を多量、焼土（φ1～3mm）を微量含む。

第 43 図　田端 6-10-6 地点　SI02 平断面図

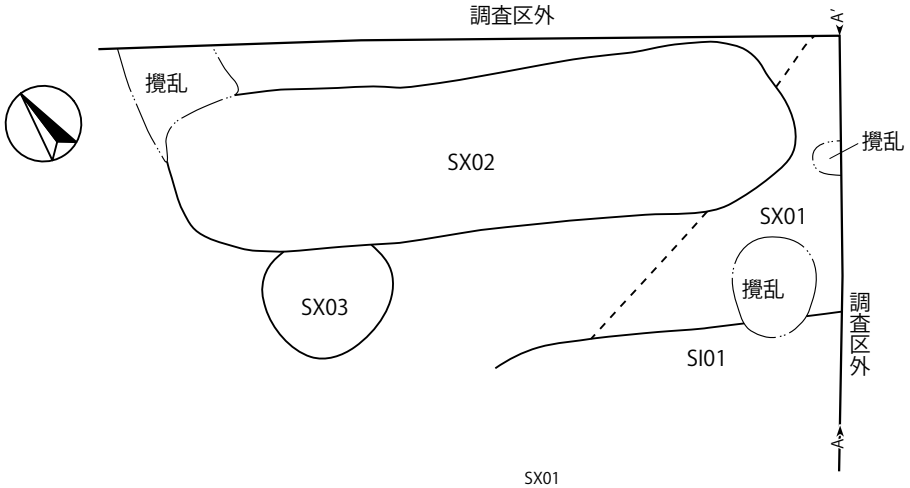


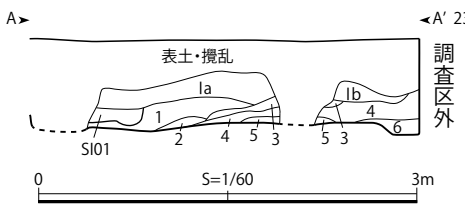


SI03

	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	褐色土（10YR4/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～10mm）を多量含む。
2	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～5mm）を微量含む。

第 44 図　田端 6-10-6 地点　SI03 平断面図

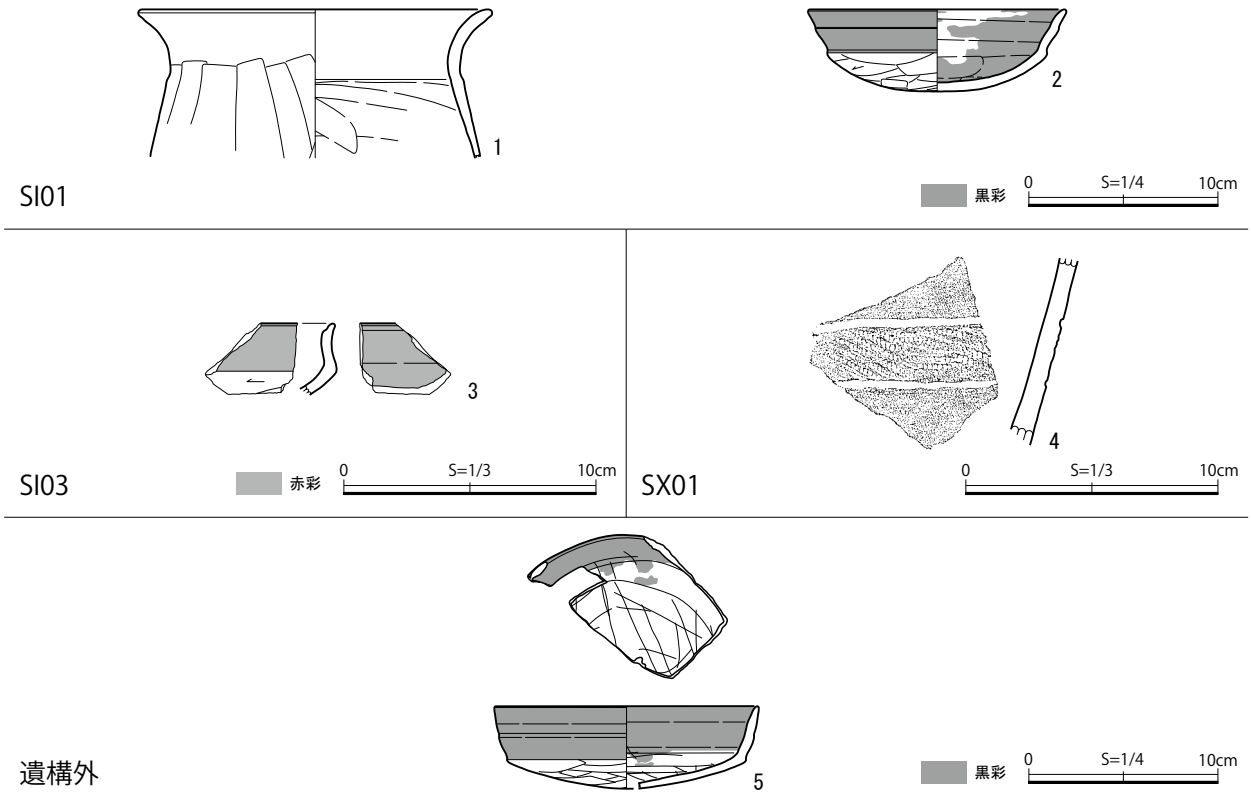




SX01

	土色	締り	粘性	混入物・備考
Ia	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～10mm）を中量含む。
Ib	褐色土（10YR4/4）	やや強い	やや弱い	ローム（φ1～10mm）を多量含む。
1	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～5mm）を少量含む。
2	暗褐色土（10YR3/3）	強い	やや弱い	ローム（φ1～5mm）を中量含む。
3	褐色土（10YR4/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～10mm）を多量含む。
4	暗褐色土（10YR3/4）	強い	やや弱い	ローム（φ1～20mm）を微量含む。
5	褐色土（10YR4/6）	強い	弱い	焼土（φ1～5mm）を極多量含む。
6	にぶい黄褐色土（10YR4/3）	非常に強い	やや弱い	ローム（φ1～10mm）を多量含む。

第 45 図　田端 6-10-6 地点　SX01、SX02、SX03 平断面図



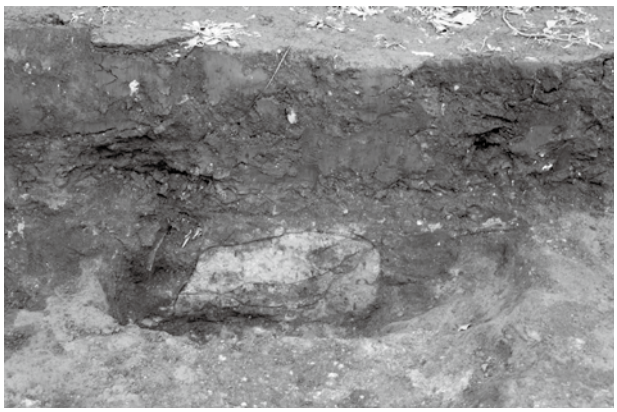
第 46 図　田端 6-10-6 地点　出土遺物実測図

調査区全景（南西から）

図版 25　田端 6-10-6 地点（1）

SI01 全景（南東から）

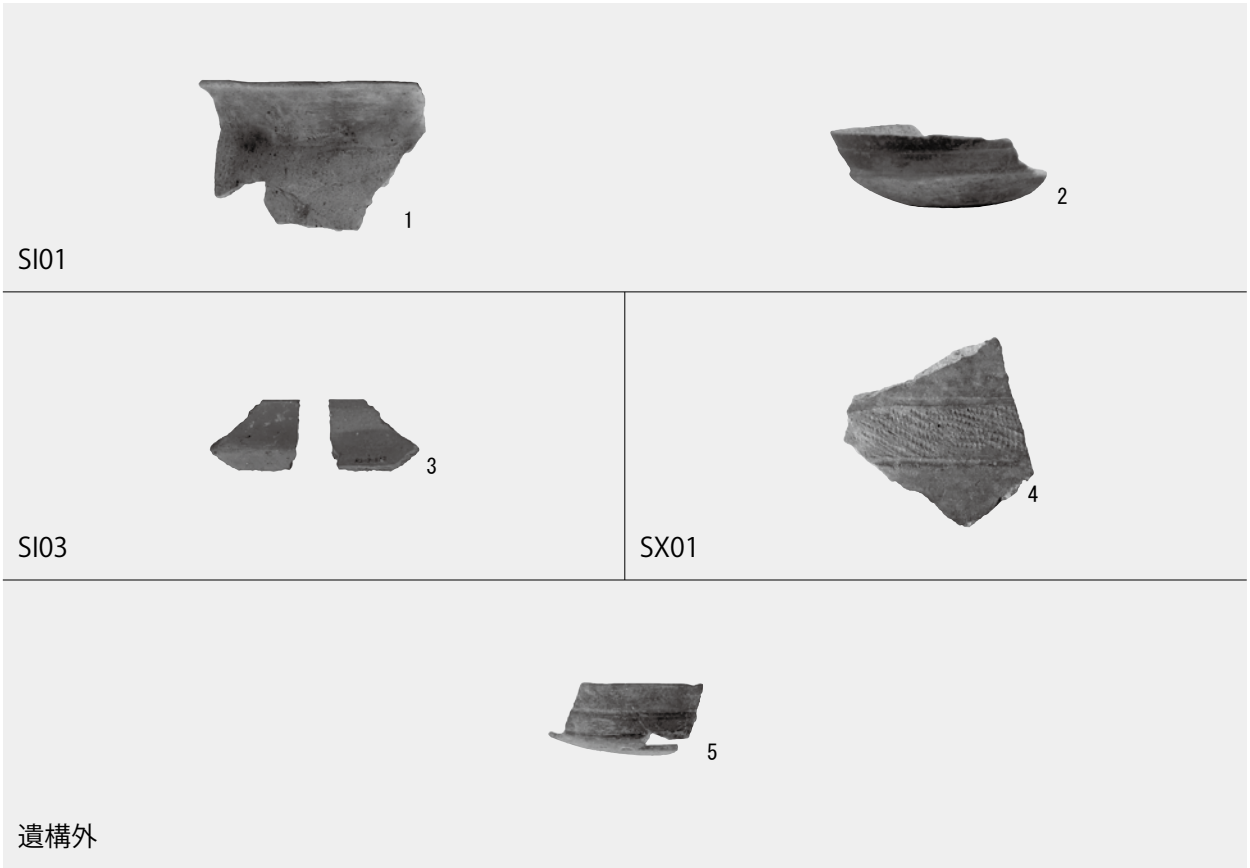
SI01 遺物出土状況（南東から）



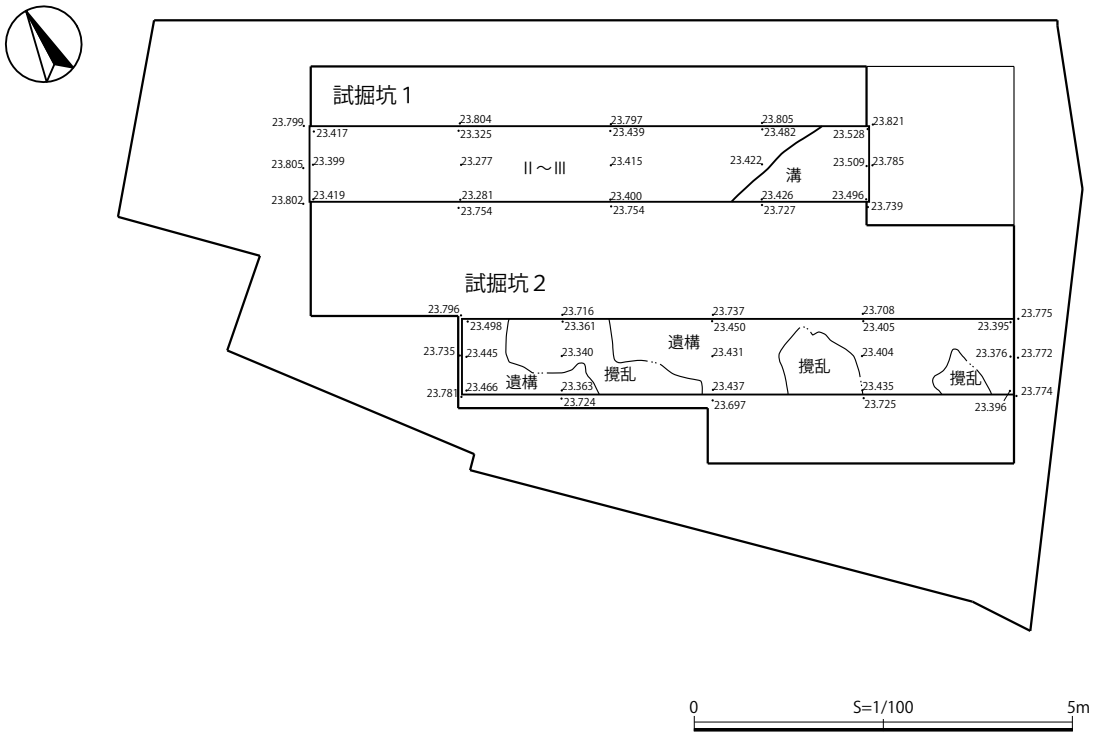
SI02 南壁断面（北から）

SI03 全景（西から）

図版 26　田端 6-10-6 地点（２）



図版 27　田端 6-10-6 地点　出土遺物

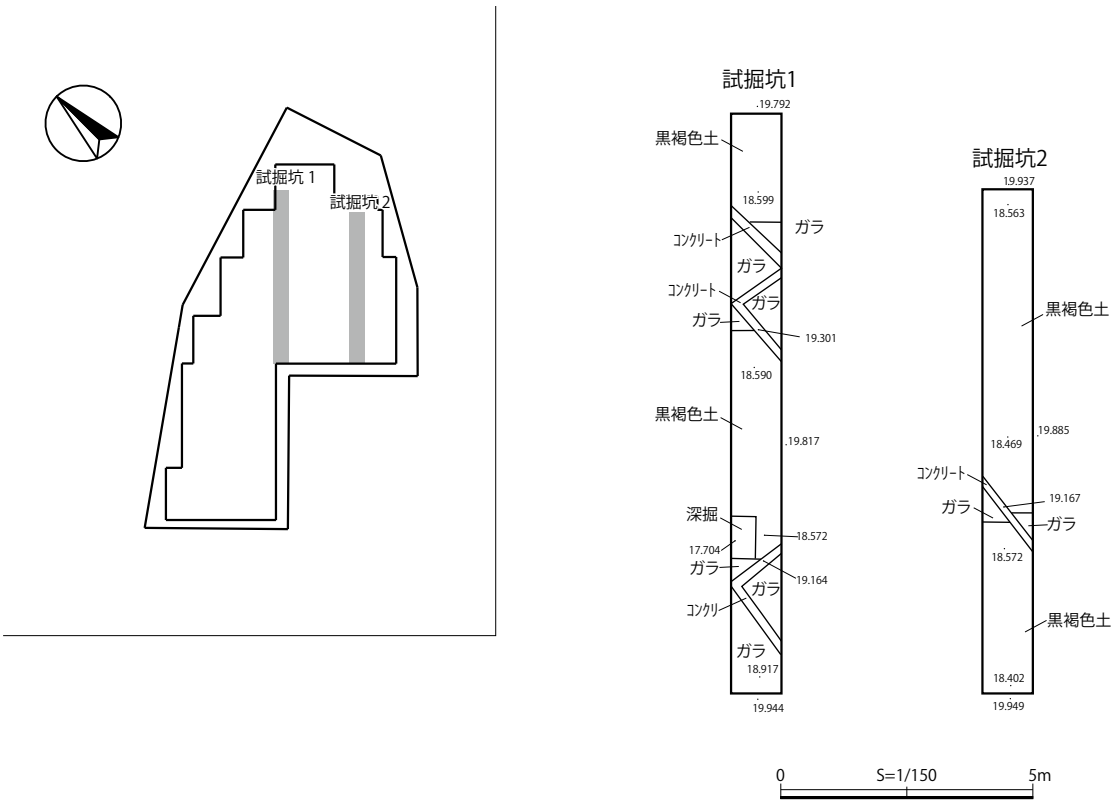


第 47 図　西ヶ原 2-14-1 地点　調査平面図

試掘坑１全景（南東から）

試掘坑２全景（北西から）

図版 28　西ヶ原 2-14-1 地点

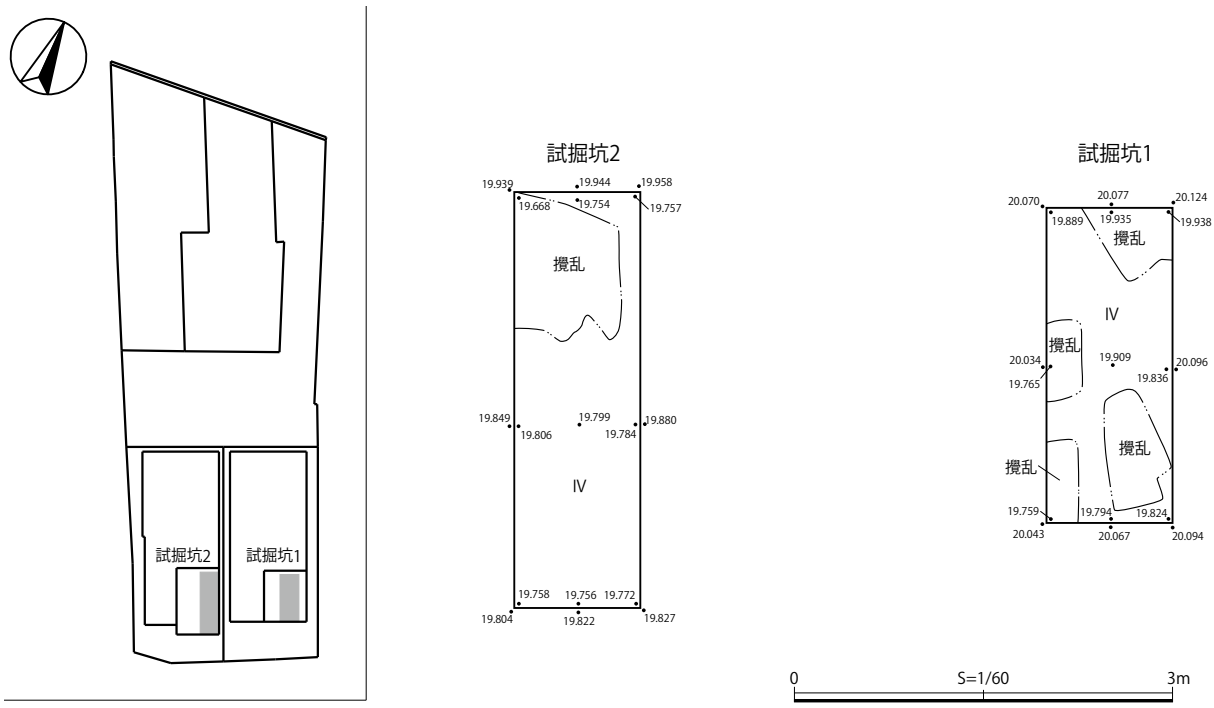


第 48 図　王子本町 1-21-4・6 地点　調査平面図

試掘坑 1 全景（東から）

試掘坑 2 全景（東から）

図版 29　王子本町 1-21-4・6 地点

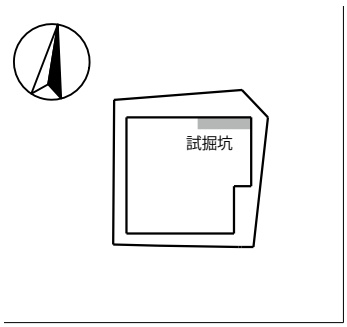


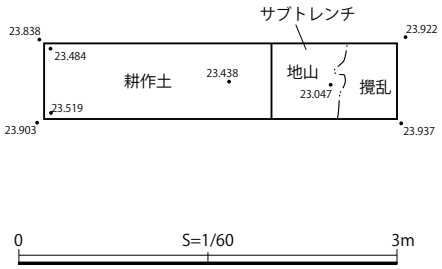
第 49 図　赤羽台 4-19-4 地点　調査区平面図

試掘坑 2 全景（西から）

試掘坑 1 全景（西から）

図版 30　赤羽台 4-19-4 地点





第 50 図　田端 1-19 地点　調査平面図

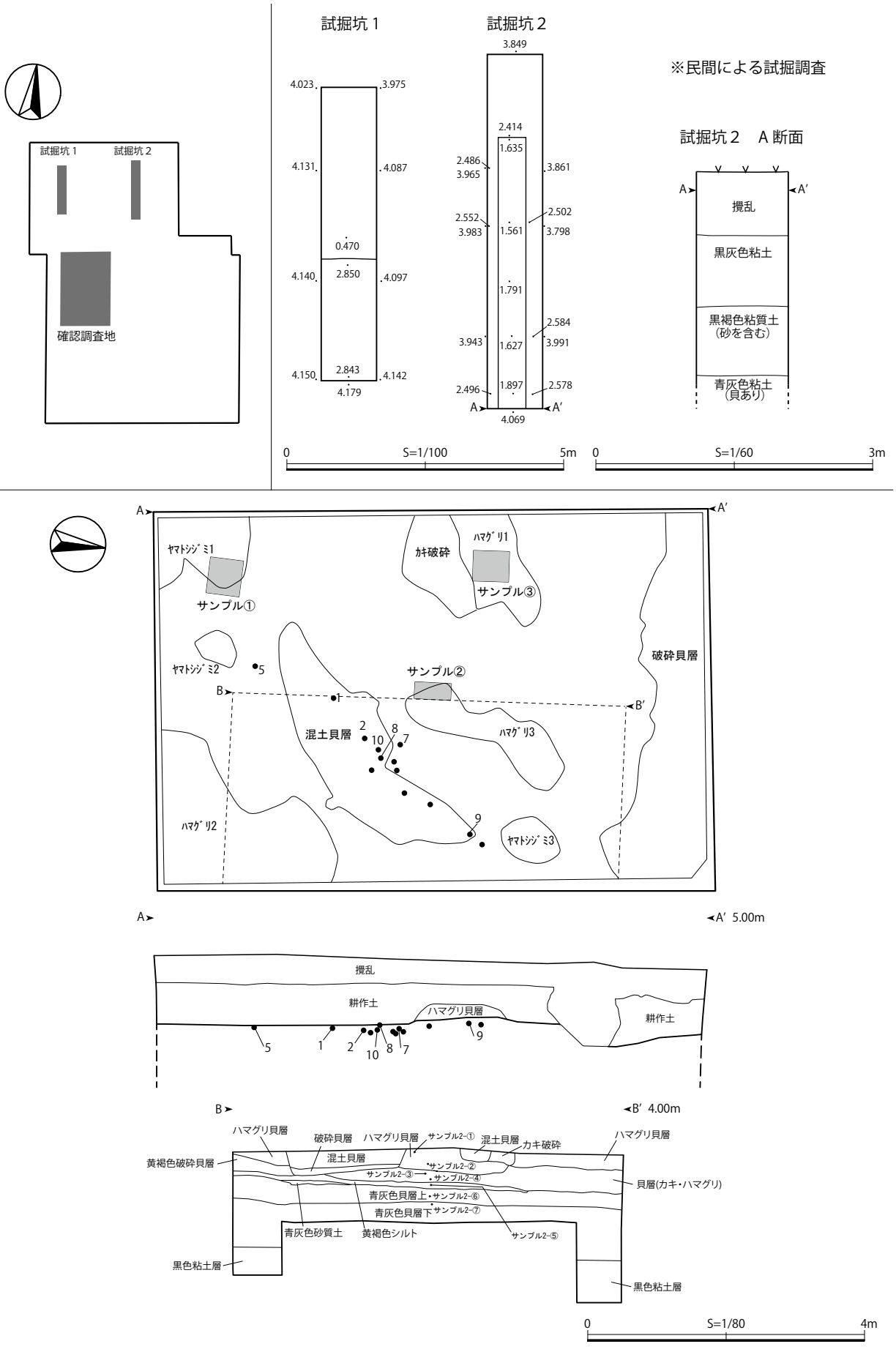
試掘坑全景（西から）

試掘坑サブトレンチ（西から）

試掘坑土層堆積状況 1（北から）

試掘坑土層堆積状況 2（北から）

図版 31　田端 1-19 地点



第 51 図　赤羽北 1-12-7 地点　調査区全体図、西壁・深掘り断面図

（単位：g）

	ハマグリ	マガキ	ヤマトシジミ	ウネナシトマヤガイ	アラムシロ	アカニシ	5㎜以下貝片	不明	合 計
サンプル2-1	4,795.00	1,130.00	8.00	5.56	0.00	0.00	609.30	0.22	6,548.08
サンプル2-3	2,102.00	35.90	0.00	0.05	0.00	0.00	258.20	0.00	2,396.15
サンプル2-4	919.00	54.90	0.00	0.02	0.00	0.00	449.10	0.17	1,423.19
サンプル2-7	1,938.00	1.30	5.50	0.01	0.53	64.00	658.00	0.60	2,667.94
ヤマトシジミ②	676.60	1,296.30	4,752.00	3.06	0.00	0.00	1,734.00	1.55	8,463.51
合 計	10,430.60	2,518.40	4,765.50	8.70	0.53	64.00	3,708.60	2.54	21,498.87

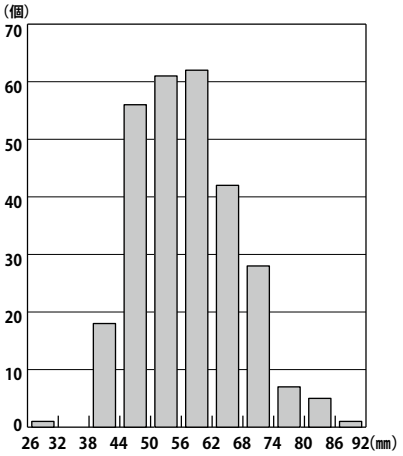
表１－１　サンプル別貝種重量

	ハマグリ		ヤマトシジミ		マガキ		ウネナシトマヤガイ	
	左	右	左	右	左	右	左	右
サンプル2-1	214	208	1	1	61	33	36	32
サンプル2-3	182	181	0	0	5	2	1	0
サンプル2-4	107	104	0	0	6	2	0	2
サンプル2-7	109	104	1	1	4	3	0	1
ヤマトシジミ②	38	35	810	849	87	30	26	27
合 計	650	632	812	851	163	70	63	62

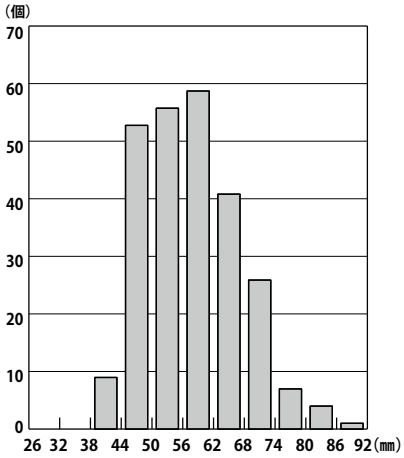
表１－２　サンプル別貝種左右

	合 計	サンプル2-1
個体数	281	256
最小値	31.7	38.8
最大値	87.6	87.6
中央値	56.4	57.2
平均値	57.4	57.9
尖度	-0.10	-0.13
歪度	0.38	0.46
標準偏差	9.49	9.08
分散	90.2	82.5
範囲	55.9	48.8
変動係数	0.17	0.16

表１－３　ハマグリ計測値



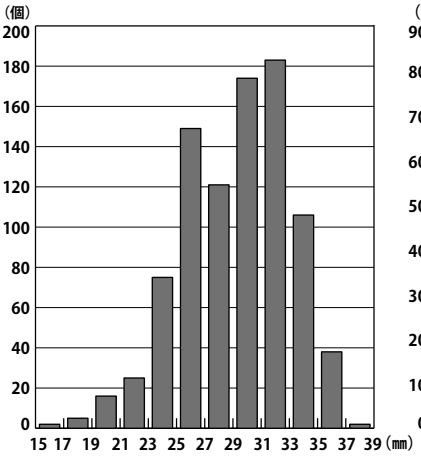
第 52 図－１　ハマグリ殻幅度数分布（全体）



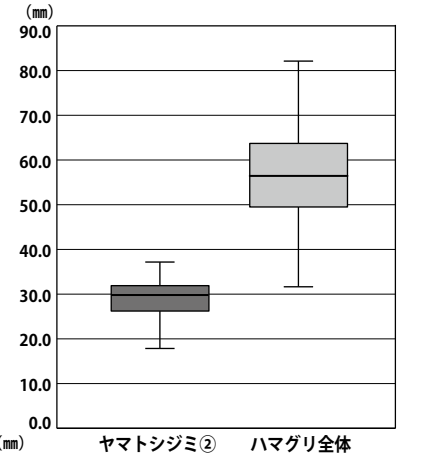
第 52 図－２　ハマグリ殻幅度数分布（サンプル 2-1）

	ヤマトシジミ②
個体数	896
最小値	15.7
最大値	37.2
中央値	29.8
平均値	29.2
尖度	-0.13
歪度	-0.43
標準偏差	3.78
分散	14.3
範囲	21.5
変動係数	0.13

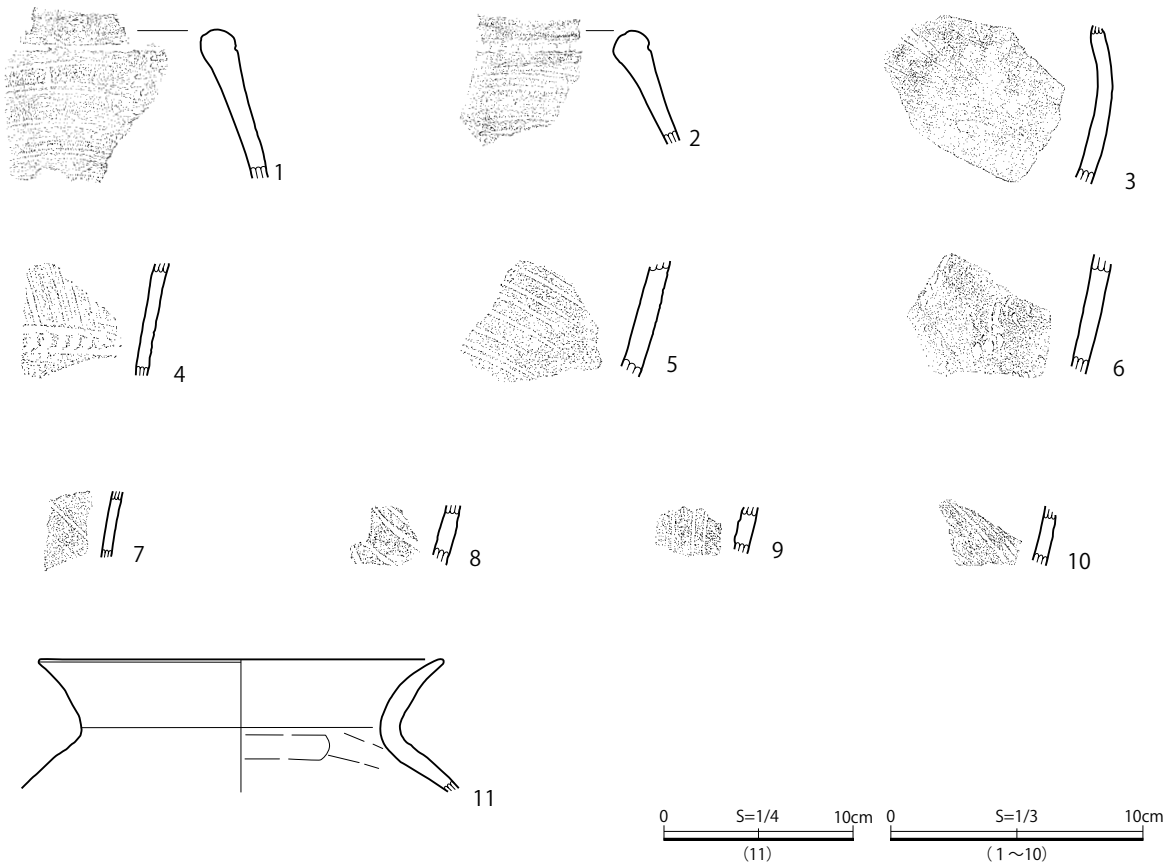
表１－４　ヤマトシジミ計測値



第 52 図－３　ヤマトシジミ殻幅度数分布（ヤマトシジミ②）



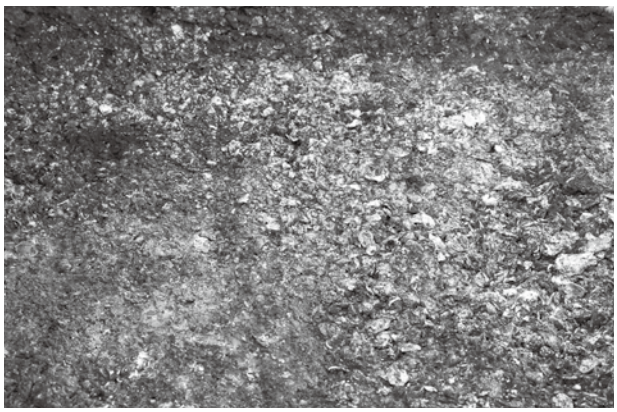
第 52 図－４　箱ひげ図



第 53 図　赤羽北 1-12-7 地点　出土遺物実測図

貝層検出状況（東から）

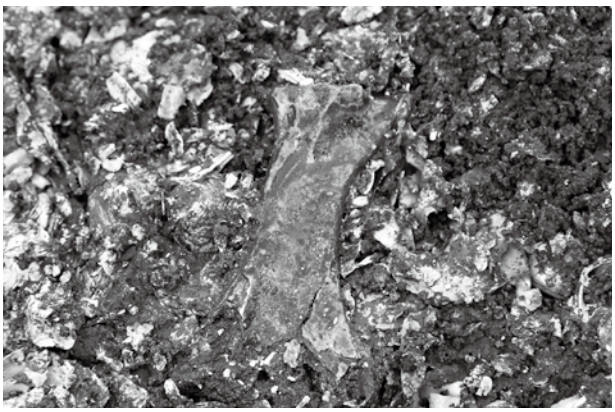
図版 32　赤羽北 1-12-7 地点（1）



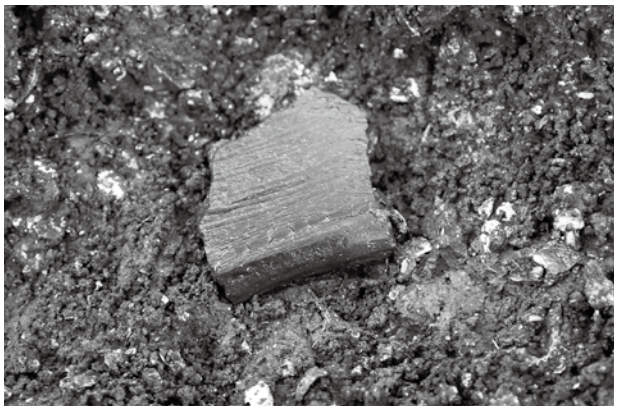
ヤマトシジミブロック１（東から）

ハマグリブロック１（東から）

獣骨（No. 12）出土状況（北から）



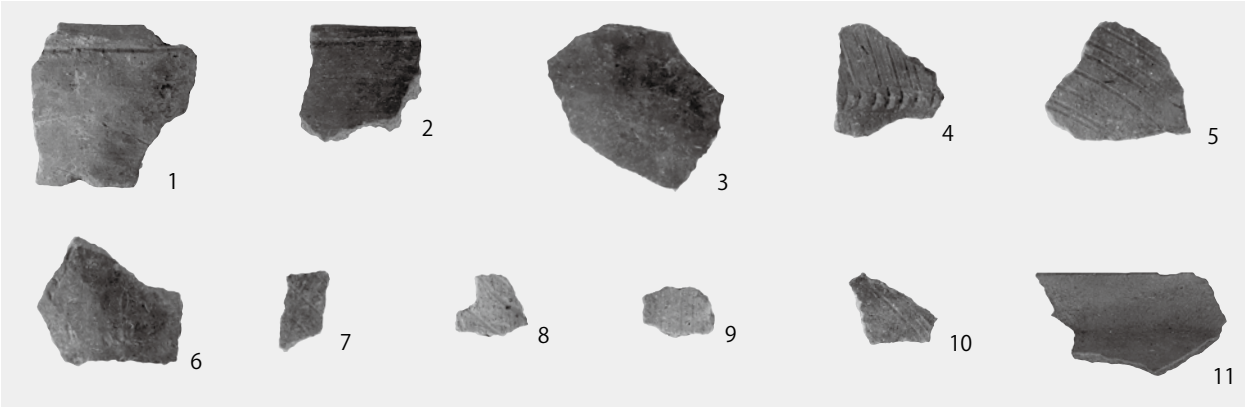
獣骨（No. 13）出土状況（南から）



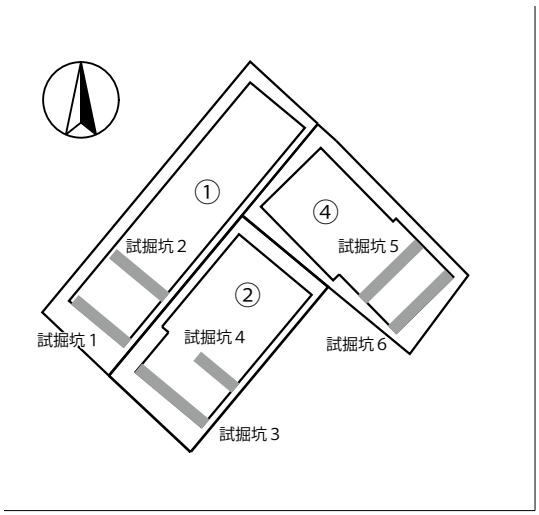
土器（No. 6）出土状況（東から）

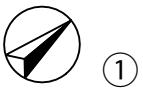
貝層堆積状況（北から）

図版 33　赤羽北 1-12-7 地点（２）

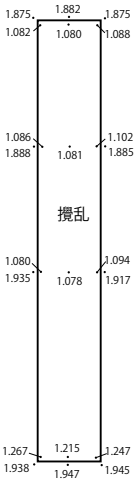


図版 34　赤羽北 1-12-7 地点　出土遺物

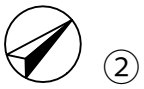




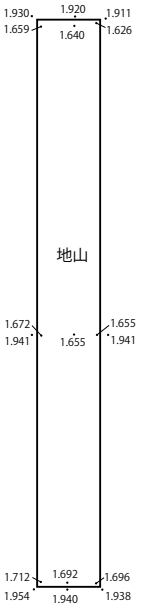
試掘坑 1



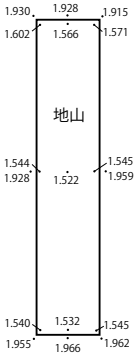
試掘坑 2

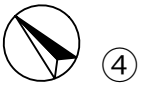


試掘坑 3

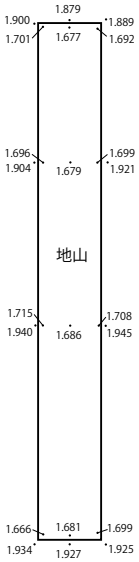


試掘坑 4

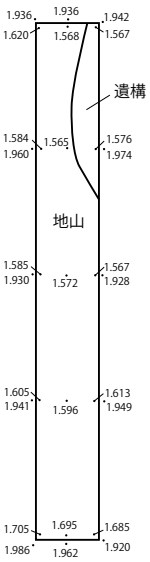


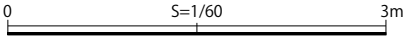


試掘坑 5



試掘坑 6





第 54 図　志茂 3-39 地点　調査平面図

試掘坑１全景（東から）

試掘坑２全景（東から）

試掘坑３全景（東から）

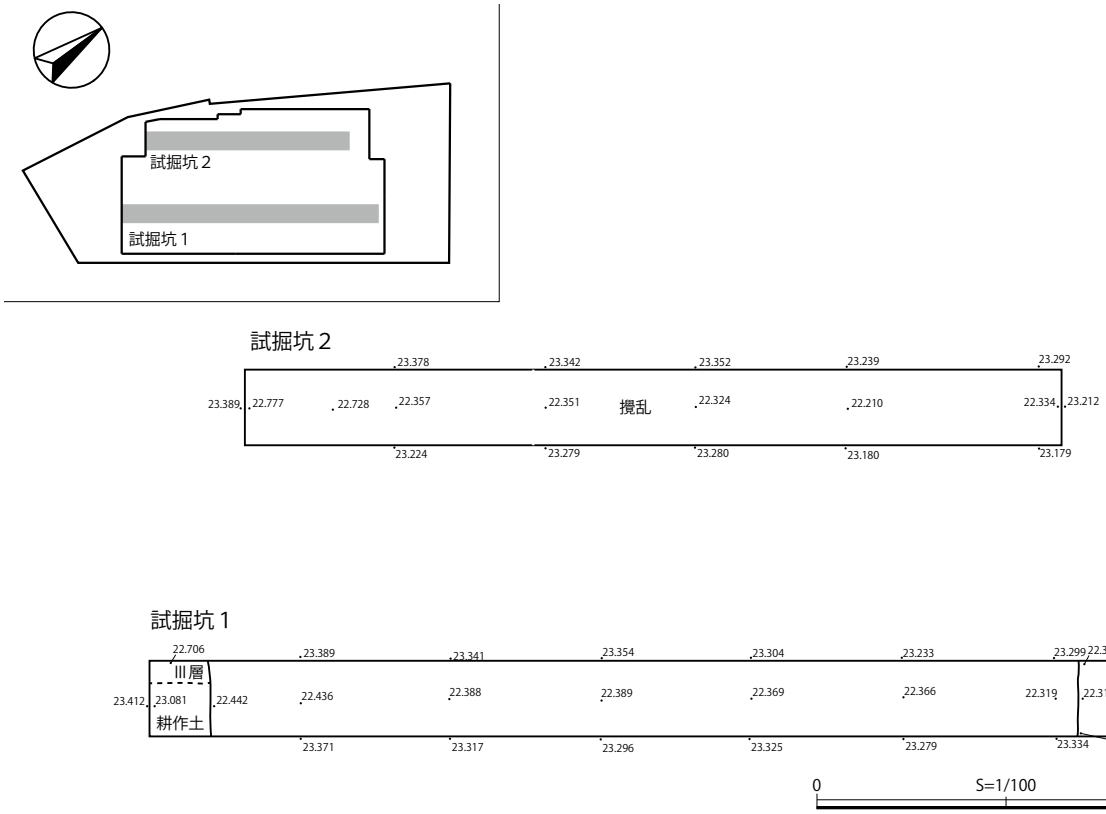
試掘坑４全景（東から）

試掘坑５全景（南から）

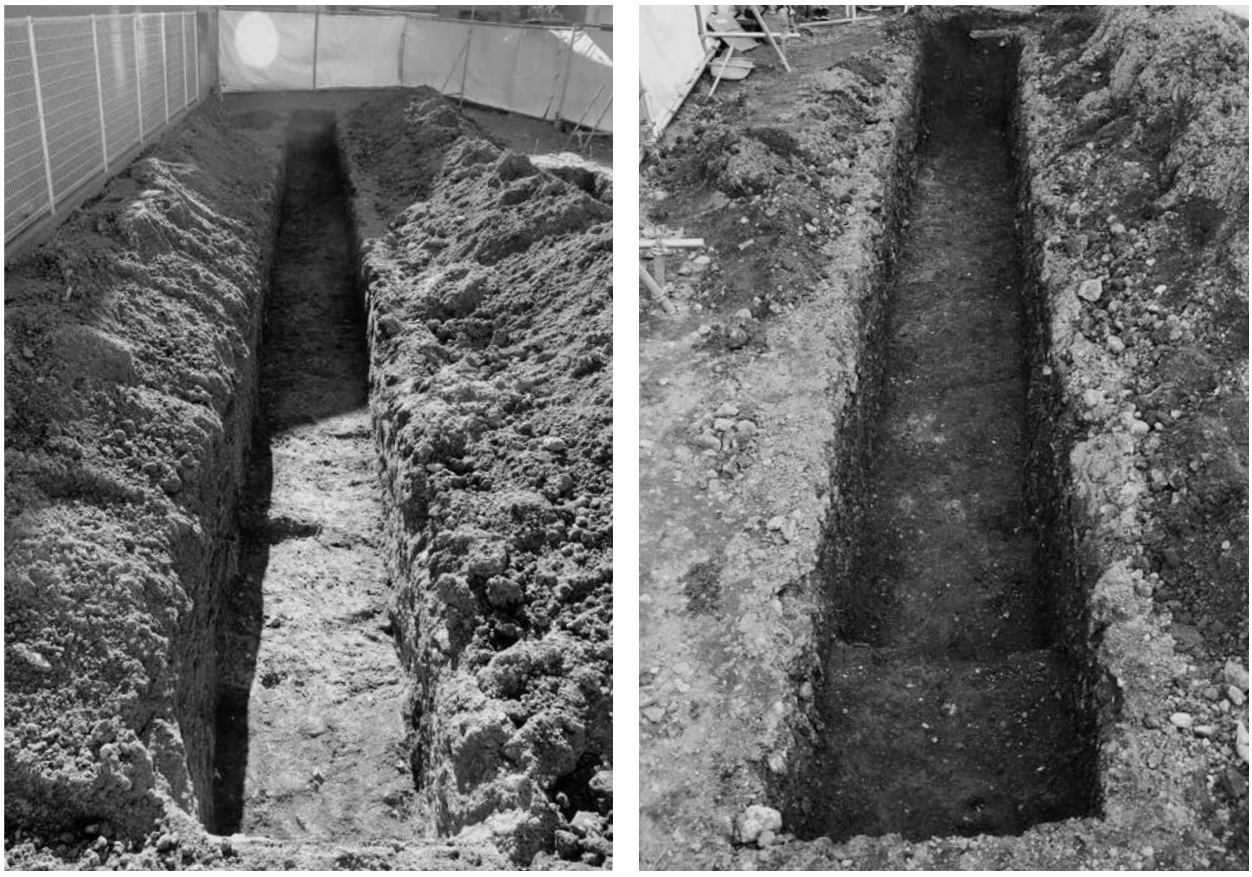
試掘坑６土層堆積状況（西から）

試掘坑６全景（南から）

図版 35　志茂 3-39 地点

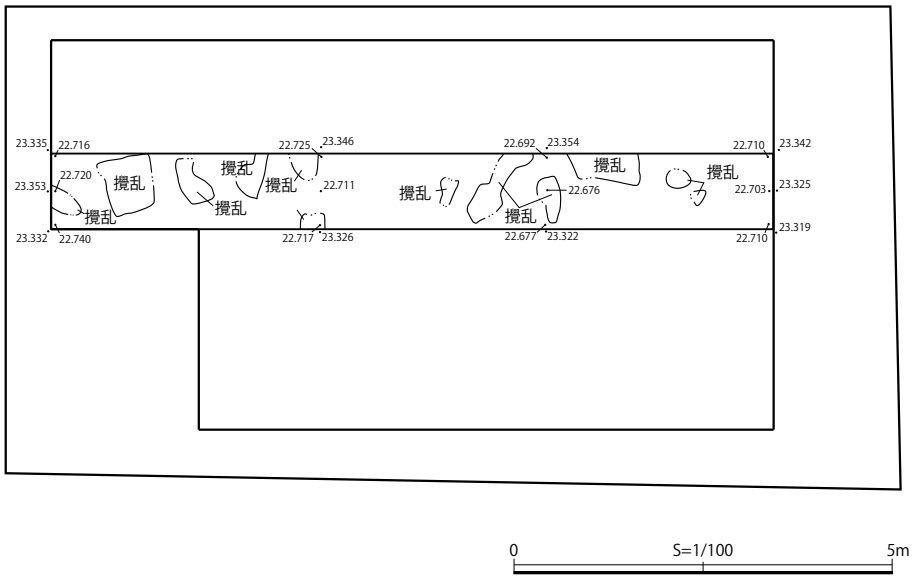


第 55 図　西ヶ原 1-29 地点　調査平面図



試掘坑１全景（北東から）　　試掘坑２全景（南西から）

図版 36　西ヶ原 1-29 地点



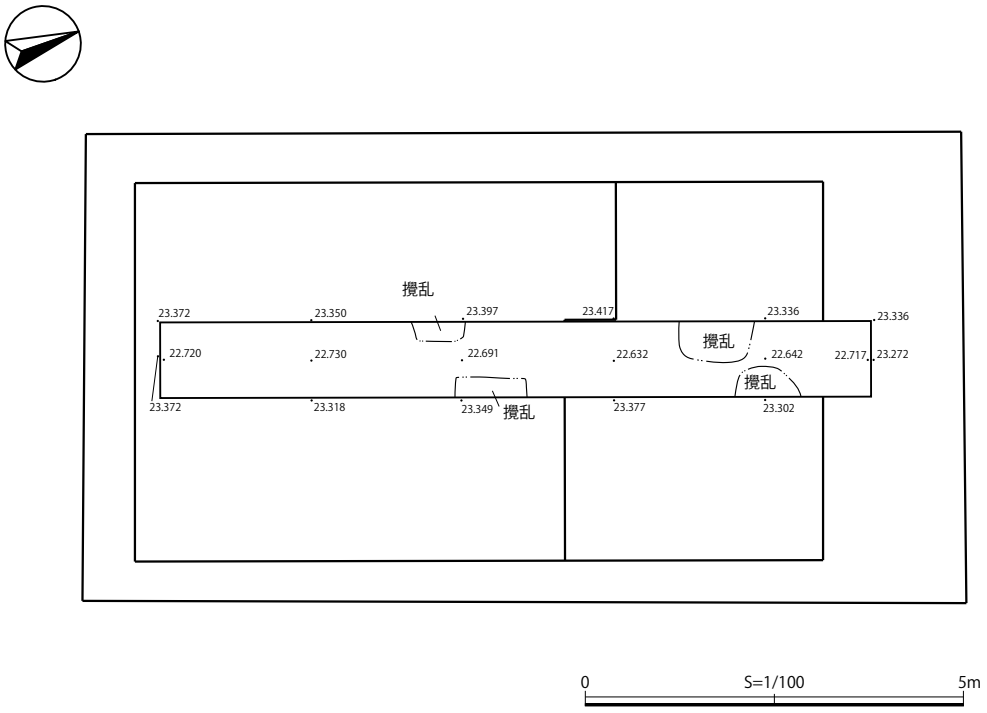
第 56 図　西ヶ原 1-16-16 地点　調査平面図

試掘坑全景（北から）

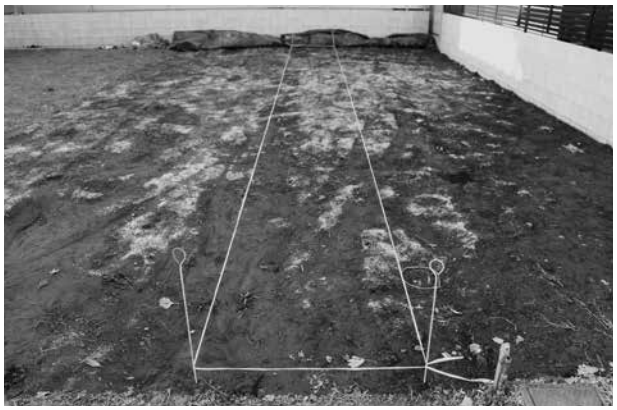
試掘坑土層堆積状況　中央部（西から）

試掘坑土層堆積状況　南部（西から）

図版 37　西ヶ原 1-16-16 地点



第 57 図　西ヶ原 1-16 地点　調査平面図

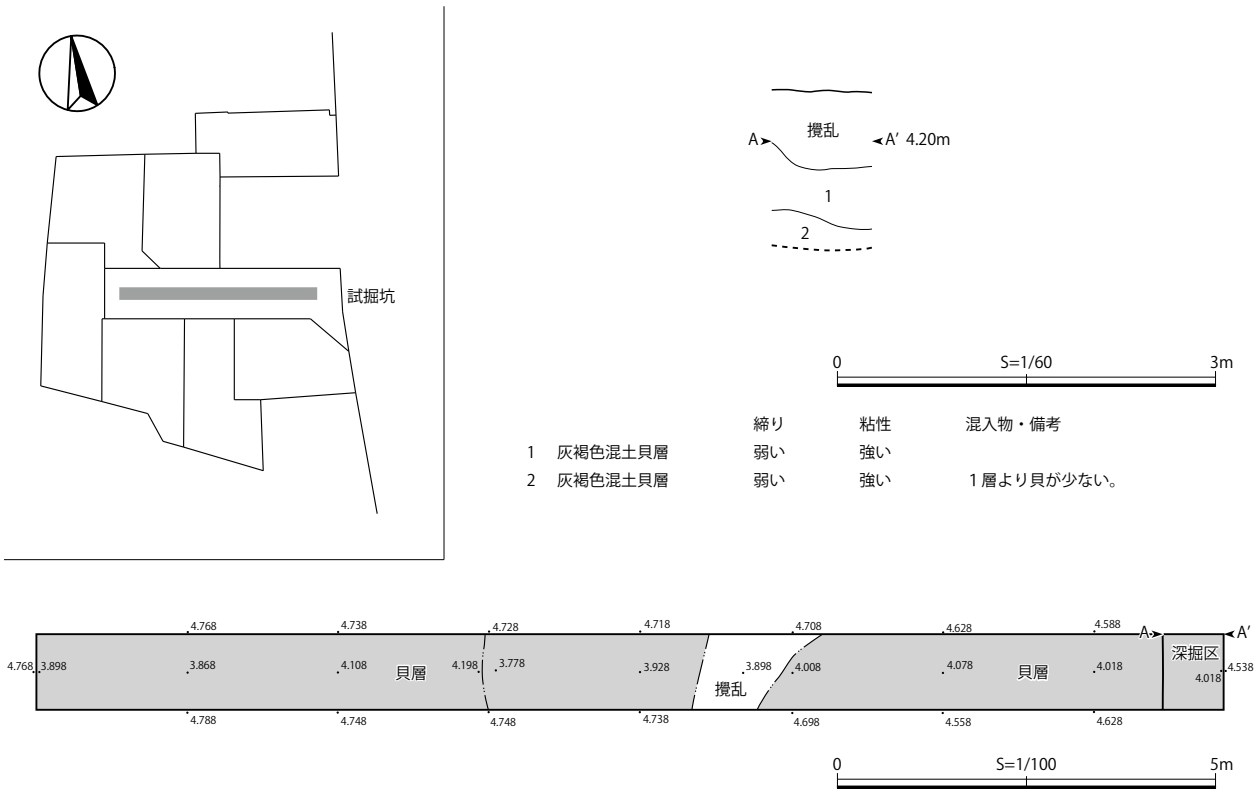


試掘坑設定状況（北から）

試掘坑土層堆積状況（西から）

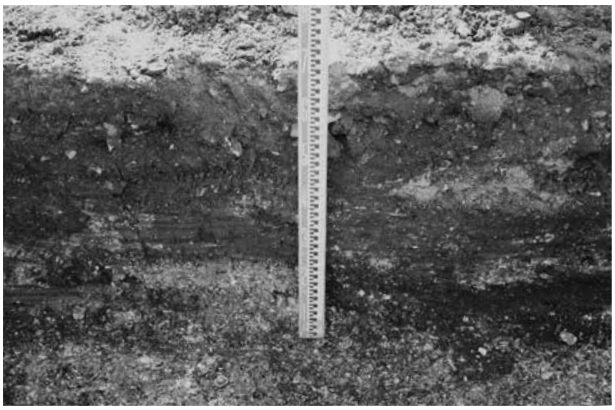
試掘坑全景（北から）

図版 38　西ヶ原 1-16 地点



第 58 図　上中里 2-8 地点　調査平断面図

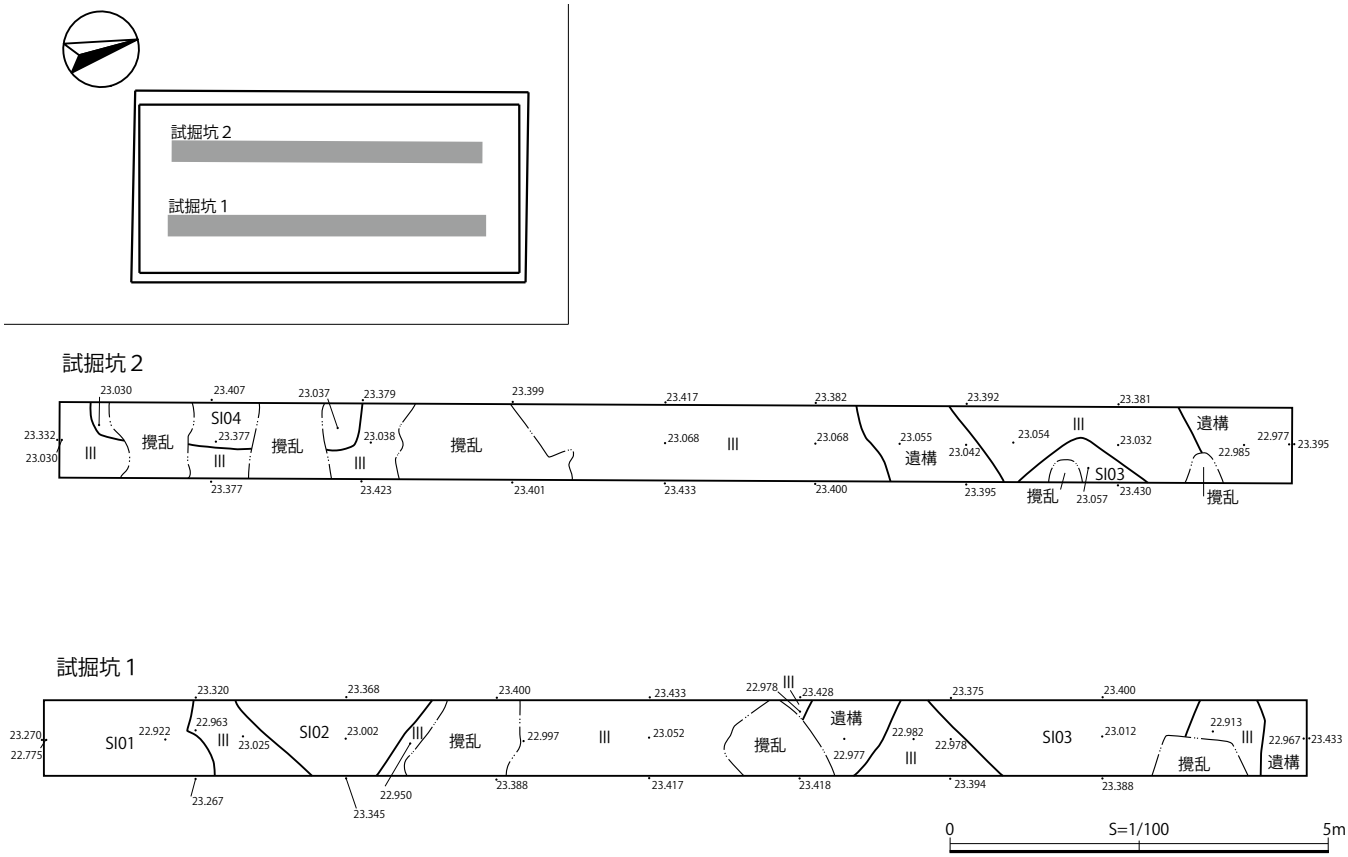
試掘坑全景（東から）



試掘坑土層堆積状況（北から）

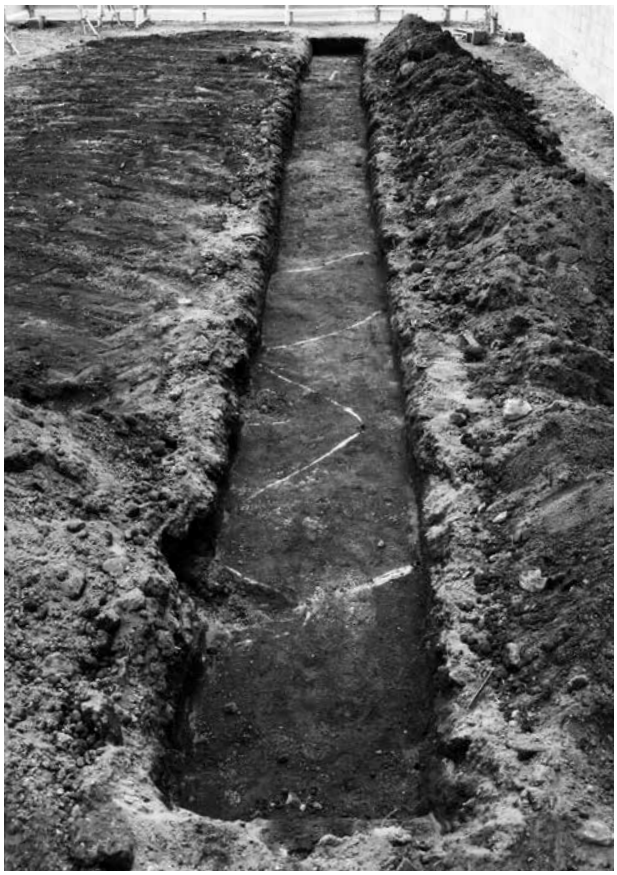
試掘坑土層堆積状況　深掘区（南から）

図版 39　上中里 2-8 地点



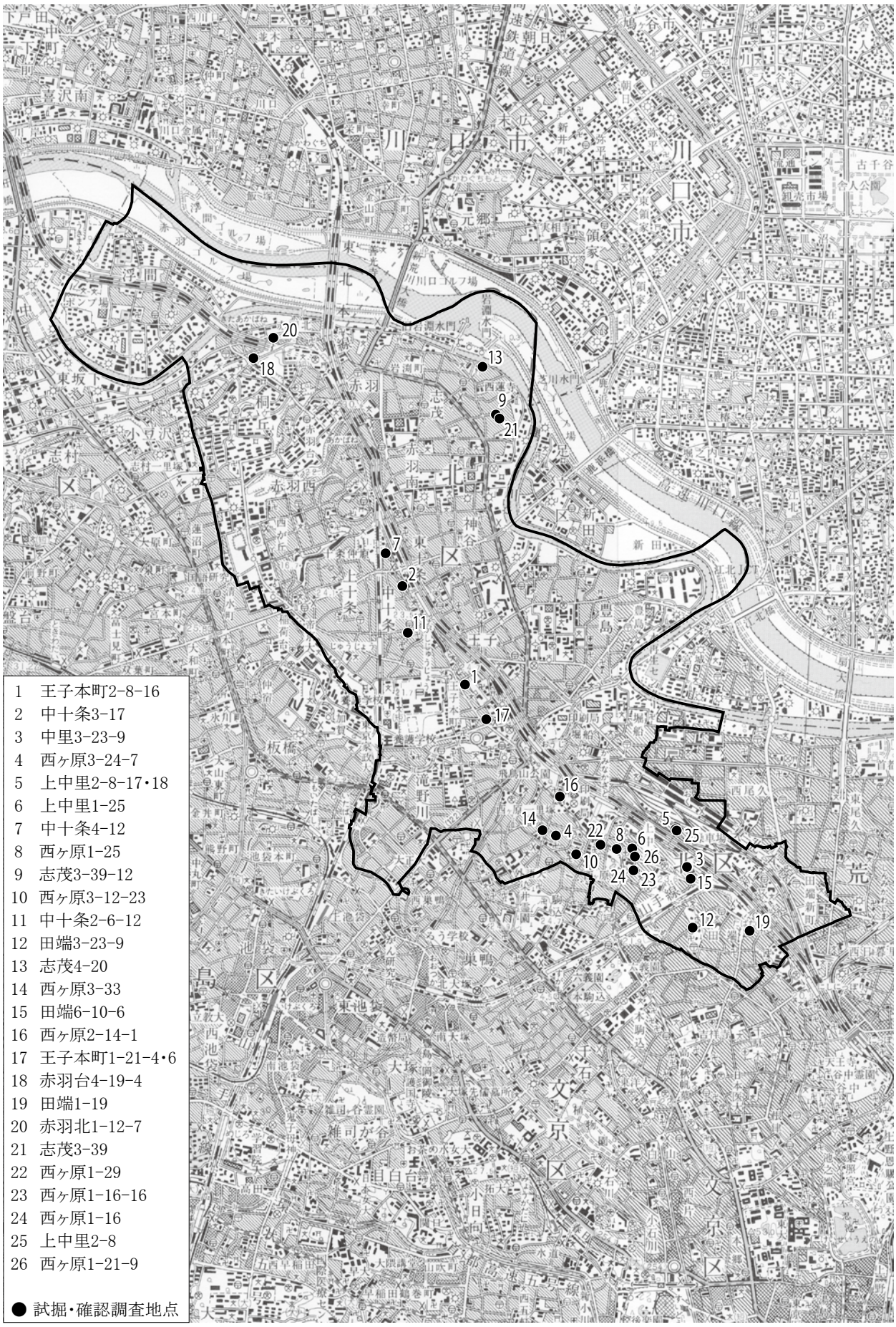
第 59 図　西ヶ原 1-21-9 地点　調査平面図

試掘坑１全景（北から）



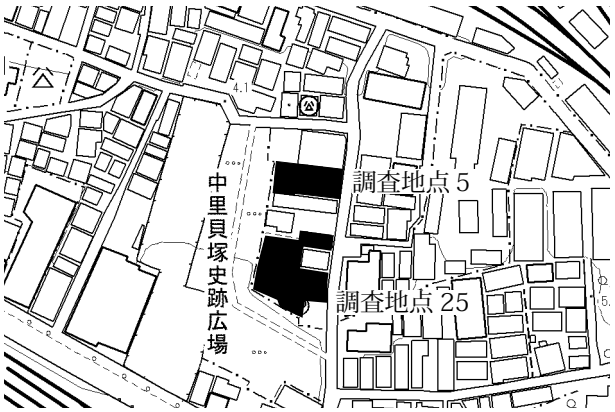
試掘坑２全景（北から）

図版 40　西ヶ原 1-21-9 地点

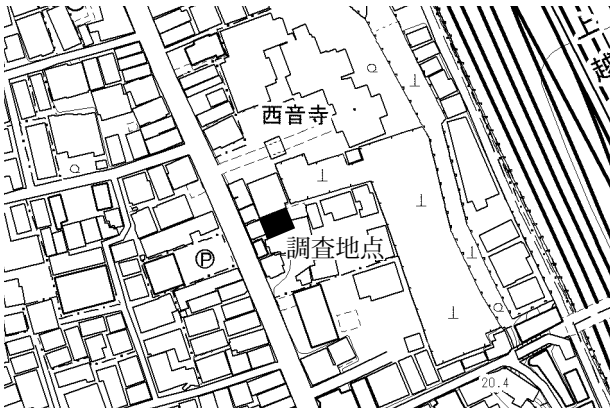


第 60 図　国庫補助金対象事業調査地点位置図（S=1/50,000）

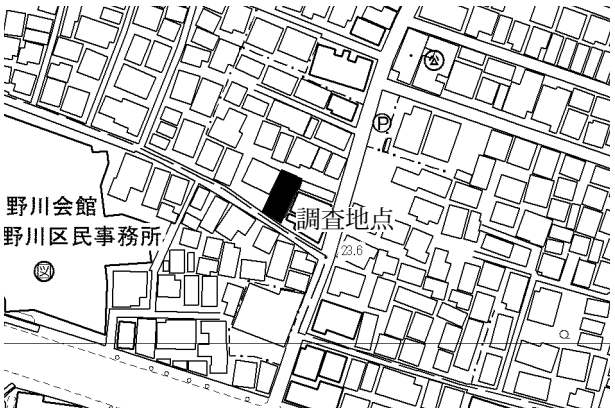
1. 王子本町 2-8-16



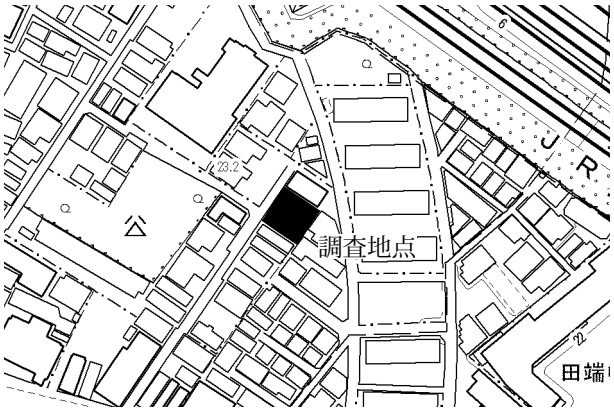
5. 上中里 2-8-17・18　25. 上中里 2-8



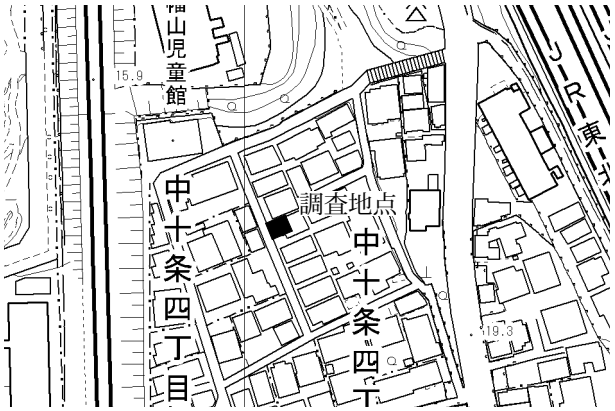
2. 中十条 3-17



6. 上中里 1-25



3. 中里 3-23-9

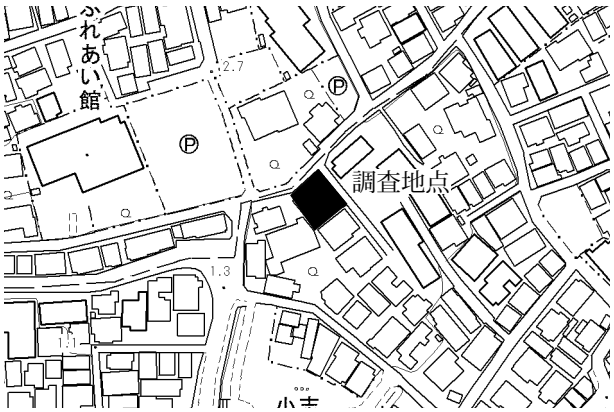


7. 中十条 4-12

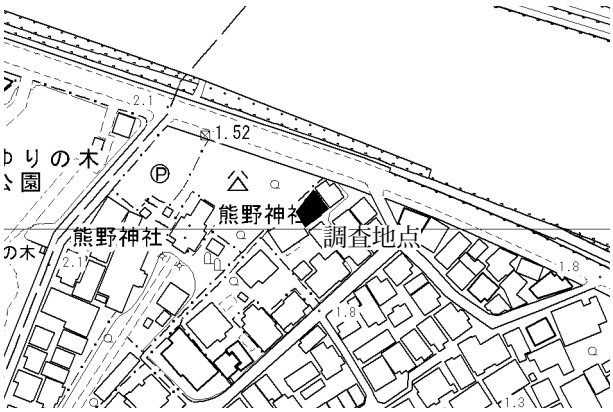
4. 西ヶ原 3-24-7

8. 西ヶ原 1-25

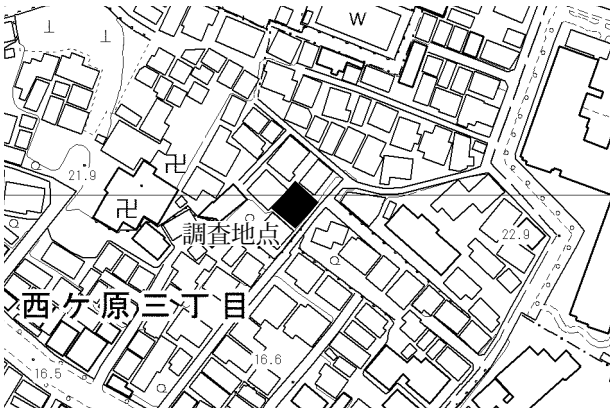
第 61 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図①（S=1/2,500）



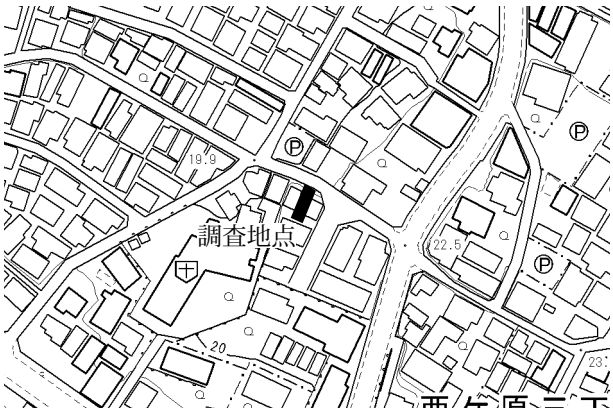
9. 志茂 3-39-12



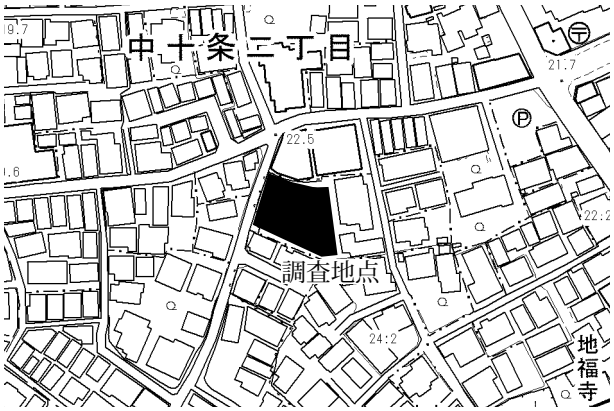
13. 志茂 4-20



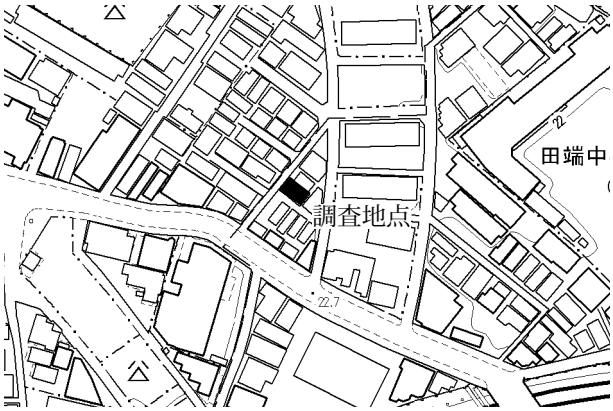
10. 西ヶ原 3-12-23



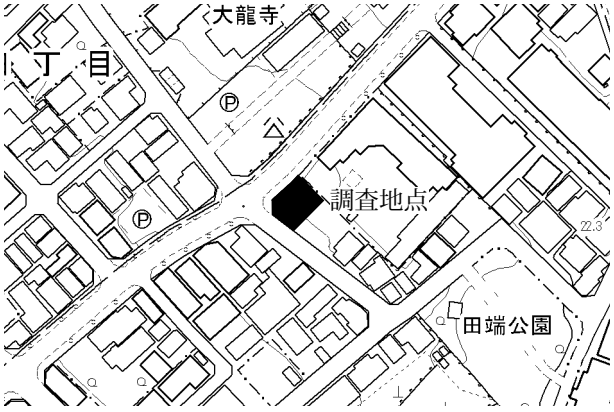
14. 西ヶ原 3-33



11. 中十条 2-6-12



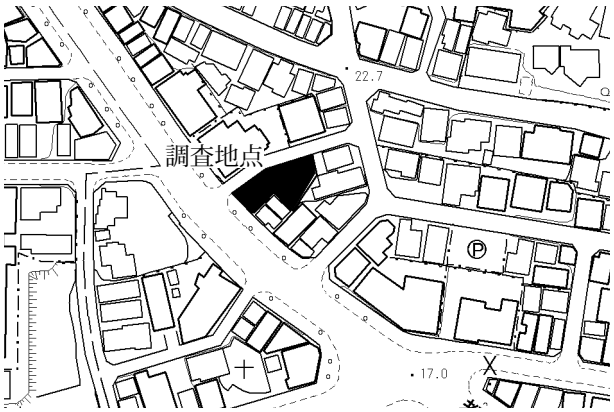
15. 田端 6-10-6



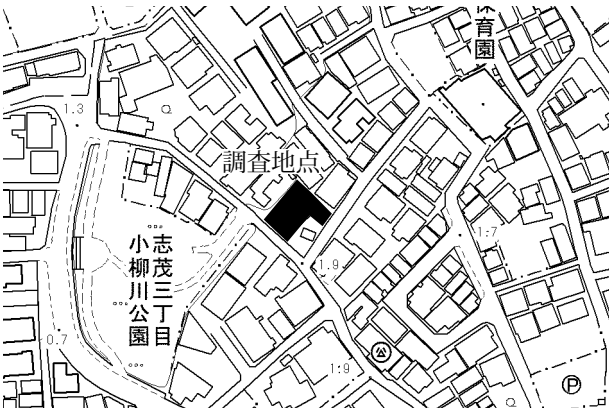
12. 田端 3-23-9

16. 西ヶ原 2-14-1

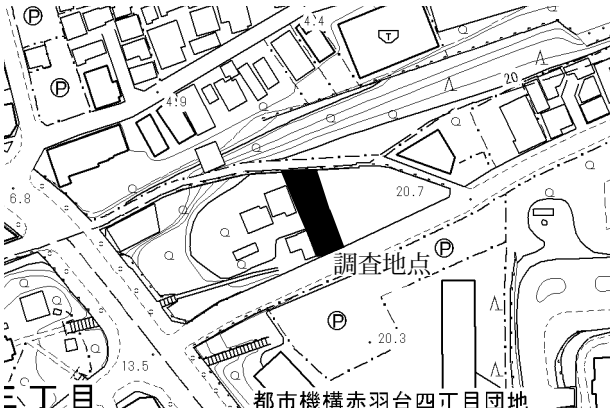
第 62 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図②（S=1/2,500）



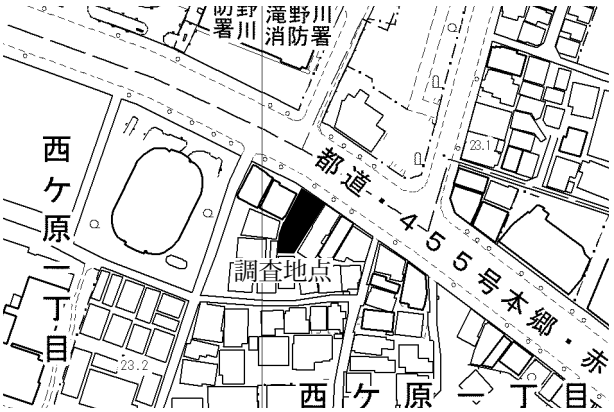
17. 王子本町 1-21-4・6



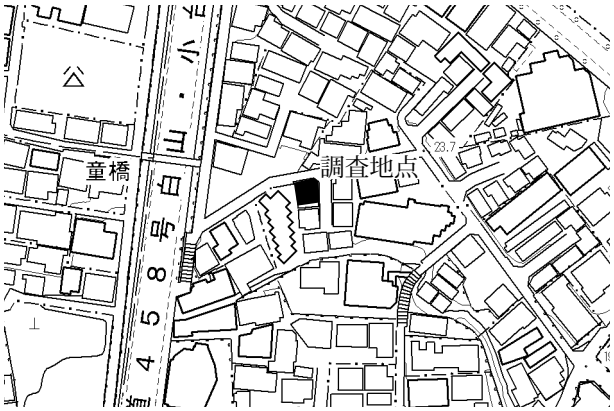
21. 志茂 3-39



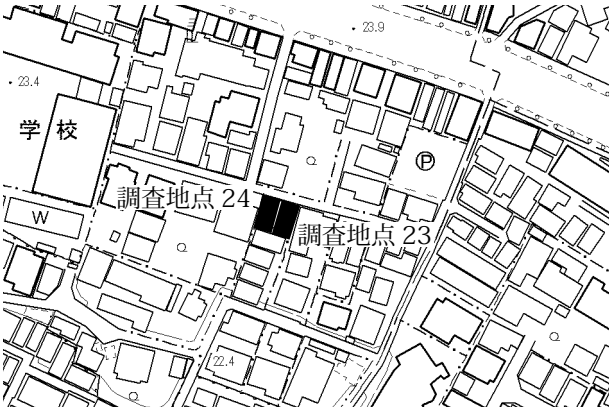
18. 赤羽台 4-19-4



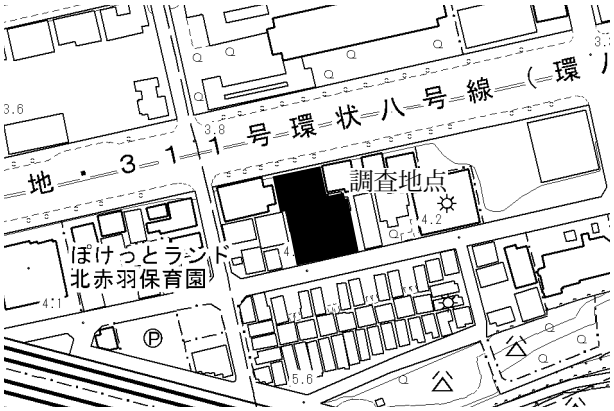
22. 西ヶ原 1-29



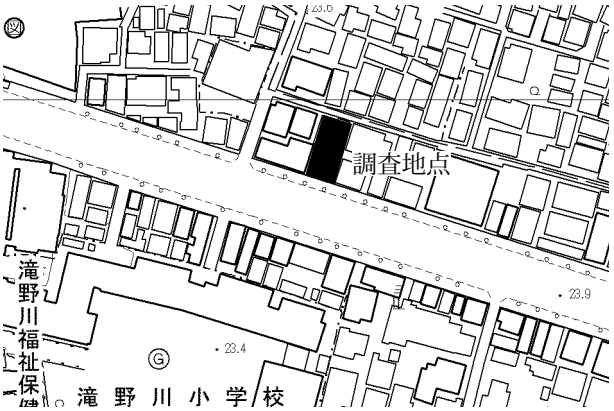
19. 田端 1-19



23. 西ヶ原 1-16-16、 24. 西ヶ原 1-16



20. 赤羽北 1-12-7



26. 西ヶ原 1-21-9

第 63 図　国庫補助金対象事業調査地点詳細図③（S=1/2,500）

報告書抄録

ふりがな	きたくまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう　れいわさんねんど
書　　名	北区埋蔵文化財調査年報－令和３年度－
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	牛山英昭　高坂勇佑　岩崎岳彦　遠藤知成　小森暁生　坂下貴則　宅間清公　遠竹陽一郎
編集機関	東京都北区教育委員会事務局　教育振興部　飛鳥山博物館
所 在 地	〒 114‐0002　東京都北区王子１‐１‐３　　℡ 03(3916)1133
発行年月日	令和５年（2023）３月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″	（発掘調査）	面積	
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群	とうきょうときたくおうじほんちょう 東京都北区王子本町 2-8-16	13117	19	巻頭一覧表参照				
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群	とうきょうときたくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 3-17		19					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくなかざと 東京都北区中里 3-23-9		40					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくにしがはら 東京都北区西ヶ原 3-24-7		27					
なかざといせき 中里遺跡	とうきょうときたくかみなかざと 東京都北区上中里 2-8-17・18		30					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくかみなかざと 東京都北区上中里 1-25		27					
しみずざかいせき 清水坂遺跡	とうきょうときたくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 4-12		18					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくにしがはら 東京都北区西ヶ原 1-25		27					
しもいせき 志茂遺跡	とうきょうときたくしも 東京都北区志茂 3-39-12		35					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくにしがはら 東京都北区西ヶ原 3-12-23		27					
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群	とうきょうときたくなかじゅうじょう 東京都北区中十条 2-6-12		19					
たばたちょういせき 田端町遺跡	とうきょうときたくたばた 東京都北区田端 3-23-9		31					
くまのじんじゃいせき 熊野神社遺跡	とうきょうときたくしも 東京都北区志茂 4-20		34					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくにしがはら 東京都北区西ヶ原 3-33		27					
なかざとはけうえいせき 中里峡上遺跡	とうきょうときたくたばた 東京都北区田端 6-10-6		40					
にしがはらいせきぐん 西ヶ原遺跡群	とうきょうときたくにしがはら 東京都北区西ヶ原 2-14-1		27					
じゅうじょうだいいせきぐん 十条台遺跡群	とうきょうときたくおうじほんちょう 東京都北区王子本町 1-21-4・6		19					
あかばねだいいせき 赤羽台遺跡	とうきょうときたくあかばねだい 東京都北区赤羽台 4-19-4		5					
たばたふどうさかいせき 田端不動坂遺跡	とうきょうときたくたばた 東京都北区田端 1-19		32					

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″	（発掘調査）	面積	
袋低地遺跡（ふくろていちいせき）	東京都北区赤羽北（とうきょうときたくあかばねきた） 1-12-7	13117	4	巻頭一覧表参照				
志茂遺跡（しもいせき）	東京都北区志茂（とうきょうときたくしも） 3-39		35					
西ヶ原遺跡群（にしがはらいせきぐん）	東京都北区西ヶ原（とうきょうときたくにしがはら） 1-29		27					
中里峡上遺跡（なかざとはけうえいせき）	東京都北区西ヶ原（とうきょうときたくにしがはら） 1-16-16		40					
中里峡上遺跡（なかざとはけうえいせき）	東京都北区西ヶ原（とうきょうときたくにしがはら） 1-16		40					
中里遺跡（なかざといせき）	東京都北区上中里（とうきょうときたくかみなかざと） 2-8		30					
中里峡上遺跡（なかざとはけうえいせき）	東京都北区西ヶ原（とうきょうときたくにしがはら） 1-21-9		40					

資料の保管機関	東京都北区教育委員会事務局　教育振興部　飛鳥山博物館 〒 114-0002　東京都北区王子 1-1-3 TEL03（3916）1133　FAX03（3916）5900

令和３年度発掘調査

西ヶ原貝塚

―西ヶ原 3-12-23 地点―

西ヶ原貝塚

－西ヶ原 3-12-23 地点－発掘調査報告

はじめに

本調査報告は令和３年（2021）７月 26 日～８月５日に東京都北区西ヶ原 3-12-23 において、北区教育委員会を調査主体者とし、株式会社東京航業研究所の調査支援により実施した西ヶ原貝塚の発掘調査の成果をまとめたものである。

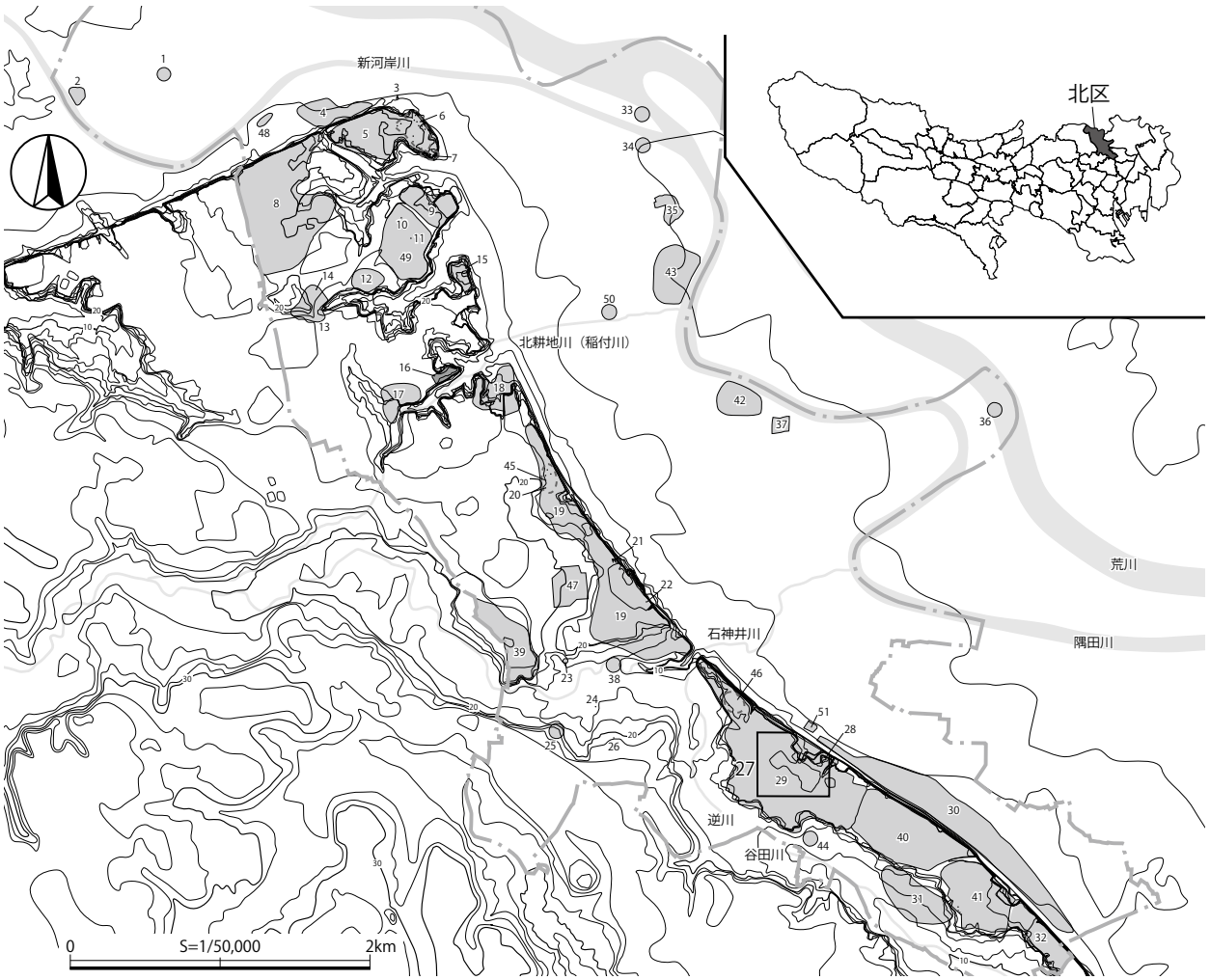
１. 調査に至る経緯

本調査地点である西ケ原三丁目 12 番 23 号は西ヶ原遺跡群（北区遺跡№ 27）のうち西ヶ原貝塚に該当する。そのため令和３年６月 15 日、吉岡環境開発株式会社より分譲住宅建設に伴い、文化財保護法（以下、法という。）第 93 条第１項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これに対し、東京都教育委員会教育長は「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」（３教地管埋第 1311 号）により、試掘調査を行なう必要があることを通知した。この通知に基づき７月８日に試掘調査を実施したところ、混貝土層の検出および縄文土器の出土により埋蔵文化財の存在が確認された。本発掘調査の実施にあたっては、７月 19 日付で吉岡環境開発株式会社、北区教育委員会、株式会社東京航業研究所の三者で協定書を締結した。調査は法第 99 条に基づき、北区教育委員会を調査主体として７月 26 日～８月５日の期間で行なった。

2. 遺跡の立地と環境（第１・２図　表１）

北区の地形は、北西から南東にのびる標高差 15 ～ 20m の段丘崖線を境に、北東側の低地と南西側の台地の二つの地形面から成り立っている。北東側の低地は、東京低地と呼ばれる標高１～ 6m 程度の荒川と旧入間川の沖積低地である。南西側の台地は、武蔵野台地と呼ばれる多摩川により形成された巨大な扇状地である。武蔵野台地の表面は、多数の段丘地形から成り、関東ローム層の堆積時期の違いから、多摩面、下末吉面、武蔵野面、立川面等に区分される。青梅市付近の標高約 180m を最高点に、東へ向かい徐々に低くなり、北区域では標高約 20 ～ 25m である。北区の台地は、武蔵野台地の北東部縁辺の本郷台にあたる。本郷台は、中央を東流する石神井川により南北に分断され、北側は赤羽台・十条台、南側はさらに北西から南東へ流れる谷田川により分断され、西側は本郷台、東側は上野台と呼称される。そして、西ヶ原貝塚は上野台の台地平坦面から旧谷田川に向かう緩斜面上に立地し、谷田川によって開析された小支谷の谷頭を囲むように形成されている。

西ヶ原貝塚は上野台上に展開する西ヶ原遺跡群を構成する遺跡のひとつである。西ヶ原遺跡群は遺跡群全体を通じ認められる弥生時代後期から古墳時代前期の集落と共に、飛鳥山遺跡（縄文時代前期前半の集落、弥生時代中期の環濠集落、古墳時代後期の古墳群）、七社神社前遺跡（縄文時代前期の環状集落）、七社神社裏遺跡（縄文時代中期の地点貝塚、中・後期の集落）、御殿前遺跡（豊島郡衙跡、弥生時代の方形周溝墓）などから構成される。西ヶ原遺跡群の南東側には、中里峡上遺跡（鍛冶に関する遺構が検出された古墳時代後期～平安時代の集落）、田端西台通遺跡（縄文時代前期前半の集落、弥生時代後期～古墳時代初頭の集落・方形周溝墓、古墳時代後期の古墳群、古墳時代後期～平安時代の集落）、



1 浮間遺跡
2 浮間扶桑動熱内遺跡
3 堂山横穴墓
4 袋低地遺跡
5 赤羽台遺跡
6 赤羽台古墳群
7 赤羽台横穴墓群
8 桐ヶ丘遺跡
9 赤羽上ノ台遺跡
10 ミタマ古墳
11 天王塚古墳
12 大六天遺跡
13 島下遺跡
14 大塚古墳
15 稲付城跡
16 稲付公園遺跡
17 梅ノ木遺跡
18 清水坂遺跡
19 十条台遺跡群
20 富士塚古墳
21 十条台小学校横穴墓
22 王子稲荷裏古墳
23（古銭出土地）
24 四本木稲荷古墳
25 滝野川八幡社裏貝塚
26 滝野川古墳
27 西ヶ原遺跡群
28 甲冑塚古墳
29 武蔵国豊島郡衙跡
30 中里遺跡
31 田端町遺跡
32 田端不動坂遺跡
33 熊野神社北方遺跡
34 熊野神社遺跡
35 志茂遺跡
36 都民ゴルフ場遺跡
37 豊島清光館跡
38 滝野川城跡
39 下十条遺跡
40 中里峡上遺跡
41 田端西台通遺跡
42 豊島馬場遺跡
43 宮堀北遺跡
44 東谷戸遺跡
45 十条台古墳群
46 飛鳥山古墳群
47 十条久保遺跡
48 袋西浦遺跡
49 道合遺跡
50 神谷遺跡
51 栄町貝塚

第１図　北区の地形と遺跡

田端不動坂遺跡（縄文時代早期末・前期前半の集落、弥生時代中期の環濠集落、弥生時代後期の集落・方形周溝墓、奈良・平安時代の集落）が、南側の緩斜面には田端町遺跡 (古墳時代後期～平安時代の集落、土師器焼成遺構、粘土採掘坑）が、北側の崖下には国指定史跡である中里貝塚（縄文時代中期中頃～後期初頭）を含む中里遺跡が存在する。

西ヶ原貝塚は明治時代以降、数多くの調査が行われてきた。貝塚の規模に関しては 1951 年の酒詰仲男の調査により、南西側に開口部をもつ東西約 150m、南北約 180 mの馬蹄形貝塚と想定されている。その後の調査成果を含めると、縄文時代中期後半から晩期前半に形成された貝塚とされる。

今回の調査区は酒詰仲男により想定された馬蹄形貝塚の開口部に位置し、従来貝層の存在が想定されていなかった範囲に位置している。

酒詰仲男　1951「東京都西ヶ原昌林寺附近（飛鳥中学校附近）貝塚概報」『飛鳥の友』創刊号　飛鳥中学校 PTA　成人教育委員会

第２図　西ヶ原貝塚調査地点位置図

地点	所在地	報告書	発行年	縄文	弥生～古墳前	古墳後～平安	備考	報告地点名
第Ⅰ地点	西ヶ原３－１２－１９付近	東京都北区西ヶ原町 322 番地昌林寺貝塚調査報告に関する件北区史資料編　考古Ⅰ	昭和 28 年平成６年	中～後期貝塚・建物跡等	－	－		昌林寺
第Ⅱ地点	西ヶ原３－１７－１２	西ヶ原貝塚Ⅱ東谷戸遺跡	平成６年	後期土坑	建物跡	建物跡	中世溝	第一勧業銀行飛鳥アパート
第Ⅲ地点	西ヶ原３－５－１２	「飛鳥の友」　創刊号都内重要遺跡等調査報告書	昭和 26 年平成 10 年	中～晩期貝層、晩期建物跡等	－	－	昭和 20 年酒詰仲男調査平成７・８年都内重要遺跡等調査用調査	飛鳥中学校校庭
第Ⅳ地点	西ヶ原３－１－９	西ヶ原貝塚Ⅱ東谷戸遺跡	平成６年	後期建物跡・貝層	建物跡	－	中世溝	（仮）小泉ビル
第Ⅴ地点	西ヶ原３－６－１８	北区西ヶ原貝塚	昭和 61 年	後期建物跡・後～晩期貝層	－	－	－	大野邸地点
第Ⅵ地点	西ヶ原１－３１－６	西ヶ原貝塚Ⅱ東谷戸遺跡	平成６年	後期貝層・土坑	－	－	－	農林水産省飛鳥山住宅
第Ⅶ地点	西ヶ原３－１７－１２	『かけら』５「西ヶ原昌林寺貝塚概報」	昭和 27 年	後期貝層・土坑	－	－	本郷学園調査	
第Ⅷ地点	西ヶ原３－７－８	七社神社裏貝塚西ヶ原貝塚Ⅲ中里貝塚Ⅱ	平成 14 年	後期貝層	－	－	－	古川邸地点
第Ⅸ地点	西ヶ原３－１－９	区内遺跡発掘調査報告	平成 17 年	－	－	－	近世溝縄文後期貝層再堆積	
第Ⅹ地点	西ヶ原３－３－１１	－	－	貝層	－	－	試掘のみ	
第Ⅺ地点	西ヶ原３－５－７	西ヶ原貝塚Ⅳ	平成 16 年	中～後期貝層・建物跡・土坑等			中世土坑縄文晩期貝層再堆積	
第Ⅻ地点	西ヶ原１－３１－６・２６	北区西ヶ原貝塚	平成 23 年	前期建物跡、中期建物跡、後期貝層・建物跡・土坑等	建物跡・方形周溝墓	建物跡・溝	中世土坑・地下式坑・溝・近世溝	
第ⅩⅢ地点	西ヶ原１－３１－１５先	北区埋蔵文化財調査年報－平成 21 年度－	平成 23 年	後期土坑等	－	－	近世溝	西ヶ原１－３１－１５先
第ⅩⅣ地点	西ヶ原３－６	北区埋蔵文化財調査年報－平成 21 年度－	平成 23 年	－	－	－	試掘のみ	西ヶ原３－６
第ⅩⅤ地点	西ヶ原３－６－１９	北区埋蔵文化財調査年報－平成 22 年度－	平成 24 年	後～晩期建物跡・土坑	－	－	－	西ヶ原３－６－１９
第ⅩⅥ地点	西ヶ原３－６－２０	北区埋蔵文化財調査年報－平成 22 年度－	平成 24 年	－	－	－	試掘のみ	西ヶ原３－６－２０
第ⅩⅦ地点	西ヶ原３－７－８	東京都　北区　西ヶ原貝塚	平成 28 年	後期貝層･建物跡･土坑等	－	－	近世土坑後期貝層再堆積	
第ⅩⅧ地点	西ヶ原３－５－１２	北区埋蔵文化財調査年報－令和２年度－	令和３年	貝層				
第ⅩⅨ地点	西ヶ原３－ 12 － 23	本報告	令和４年	後期貝層、土坑				

表１　西ヶ原貝塚調査地点一覧表

3. 調査の経過と概要

調査期間は令和3年7月26日～8月5日、調査面積は33.2㎡である。試掘調査の成果を受けて7月26日に発掘機材と重機を搬入し、重機により表土剥ぎを実施した。その後人力により攪乱除去と貝層検出を行った。貝層以外の暗褐色土層より遺物が検出されることから、包含層が形成されていることが分かった。貝層検出写真撮影後、包含層及び貝層の調査に取り掛かった。包含層精査中に土坑を検出し、併せて調査を行った。土坑からは人骨が出土した。貝層および包含層の堆積状況の精査・図面作成を実施し、8月5日調査を終了した。

試掘の成果をもとに重機により表土を0.70ｍ掘り下げ遺構確認面とした。遺構確認面はハードローム層であり、その上に本来堆積しているソフトローム層は認められなかった。今回の調査地点は前述のように従来貝層が想定されていない部分に位置している。また南側に位置する谷田川により形成された谷部への移行地点でもある。そのため、南側に向かい傾斜し、そこに包含層が形成されているようである。

検出された遺構は土坑と貝層ブロックである。以下に述べる。

4. 遺構と遺物

【SK01】

遺構（第4図　図版1）

重複関係：なし。**形状：**平面形は略楕円形を呈し、断面形は平坦な底面からやや内湾しながら斜めに立ち上がる。**規模：**長軸0.99ｍ、短軸0.70ｍ、深さ0.41ｍである。**主軸方位：**Ｎ－38°－Ｅ。**所見：**貝層1の北西に位置する。覆土の中層以下から、残りの悪い骨片が出土し、注意深く調査すると、部分的に人骨が出土した。人骨は大きく分けて二か所から出土した。土坑北側壁の底面付近からは頭蓋骨が壁に接するようにして出土した。南側からは骨片状ではあるが大腿骨が出土している。土坑の大きさや骨の出土状況から頭位を北側にし、西側を向いた屈葬位で埋葬されたものと思われる。

遺物（第5図　図版2）

出土状況：いずれも覆土中から出土した。**土器：**1は太めの横位沈線を施す。2は屈曲部に横位沈線間にキザミを持ち以下RLを施す。3はRLを地文とし、沈線で「の」の字状のモチーフを描く。4はRLを地文に横位沈線を施す。5・6は縄文帯に沿って沈線が巡り、縦位の貼り瘤を持つ。5の貼り瘤はキザミを持ち、地文の縄文は直前段の縄の太さが異なるRLである。7は沈線間に列点を施す。8は無文で口唇部が内削状になる。

時期　出土遺物から縄文時代後期中葉～後葉と推測される。

貝層

貝層は調査区の南東側で検出された。南側は北東から南西に延びる近世以降の溝により、西側も攪乱され残りが悪い。貝層は二か所に分かれているが、間を攪乱されていることから、本来は一体のものであったと思われる。ここでは北東側の貝層を貝層ブロック１、南側のものを貝層ブロック２として記述する。

【貝層ブロック１】

遺構（第３図　図版１）

規模：残存規模 1.35 × 1.11 m、最大厚 0.25 mである。**所見：**調査区北東に位置し、西側から南側を攪乱されている。貝層はローム層直上から形成され２層に分けられる。

遺物（第５図　図版２）

出土状況：貝層中より加曽利Ｂ３式土器を中心として出土している。**土器：**９は渦巻状の隆帯に沿って沈線が巡る。10 は口縁部と胴部に沈線による格子。11 は波状口縁を呈する。口縁部と括れ部に沈線区画された刺突列を巡らす。口縁部下には幅の広い帯縄文を持ち、胴部は磨消縄文による入り組み文を持つ。12 は無文の浅鉢と思われる。13 は括れ部以下に斜位の沈線が施されている。14・15 は磨消縄文を用いるものである。15 はキザミのある隆帯に沿って沈線を巡らす。16 は縄文施文後、斜位の細い沈線を施す。17 は隆起帯上のキザミを持つ。10 ～ 16 は加曽利 B3 式、17 は安行Ⅱ式であろう。これらのことから、貝層は加曽利 B3 式を主体とする。

時期　出土遺物から縄文時代後期中葉と推測される。

【貝層ブロック２】

遺構（第３図　図版１）

規模：残存規模 0.69 × 0.52 m、最大厚 0.20 mである。**所見：**調査区南側に位置し、東側を溝により壊される。貝層はローム直上から形成された暗褐色混貝土層である。

遺物（第５図　図版２）

出土状況：貝層ブロック 1 にくらべ出土遺物が少なく、共に貝層中から出土している。**土器：**18 は肥厚した口縁部に押圧のある隆帯を巡らし、以下縄文を施す。19 は無文の口縁部である。精製土器を明示し得ないが、貝層ブロック 1 と同様に加曽利 B3 式の貝層と思われる。

時期　出土遺物から縄文時代後期中葉と推測される。

【包含層】

遺物（第６～８図　図版３～５）

出土状況：貝層周辺の暗褐色土から出土したものをここでは取り上げる。出土した遺物は縄文時代中期後半から晩期中葉の土器が認められるが、貝層と同様に主体となるのは加曽利Ｂ式期である。

土器：20 は縦位の磨消を持つ加曽利Ｅ式。21 も口縁部付近の加曽利Ｅ式であろう。22・23 は磨消縄文でモチーフを描く。称名寺式。24・25 は沈線を用いる堀之内 1 式。26 は磨消縄文でモチーフを描く堀之内２式。27・28 は口縁部に沿って帯縄文をもつもの。29 は幅狭い帯縄文帯を重ねる。27 ～ 29 は加曽利Ｂ 1 式。30 は幅の広い縄文帯を持つ。31 ～ 35 は斜位沈線を描くもの。31 は 32 と同様に頸部を無文にするものと思われる。32 は口縁部に沿って斜位の沈線を描き下端を沈線で区画する。頸部は無文で括れ部下端に横位の刻目が巡る。以下は沈線により縦位の綾杉状文を描く。35 も胴部下半の同一の破片と思われるが、沈線がより密に施される。33・34 も同様の胴部下半であろう。36 ～ 38 は横位キザミと地文縄文を持つもの。いずれも LR を地文として、36・37 は口縁部やや下の横位沈線間に押し引き状のキザミを、38 は肥厚した口縁部に浅いキザミを施し、円孔を有する。39・40 は 37 に近いが体部は無文となる。30 ～ 40 は加曽利 B3 式。

41 は口縁部付近の破片で RL を地文とし下膨れ状の粘土を貼付する。加曽利 B3 式から曽谷式のものか。42・43 はやや幅広い磨消縄文帯を持つ。加曽利 B3 式。45 ～ 55 は加曽利 B 式の粗製土器である。45 ～ 51 は口縁部に隆帯を巡らせ、上端を押圧する。頸部は 45 が RL のみ、46・47・50・51 は頸部は縄文地に斜位沈線を施す。48・49 は沈線のみである。49 は 1 条、50 は 2 条の内文が見られる。52 ～ 55 は胴部破片で縄文地に斜位沈線を施す。56 は胴部破片で密に刺突が施される。三十稲場式であろう。

57 ～ 59 は波状口縁を呈し、波頂部に貼付文をもつ。隆起帯に縄文を施す。60 は平縁の口縁で同様に貼付文をもつ。61 は貼付文を持つが器面は横位の擦痕が残り、縄文を欠く。57・58・60・61 が安行Ⅰ式。59 が安行Ⅱ式。62 ～ 71 は安行式の粗製土器である。62 ～ 69 は口縁部で丸く肥厚する。62 ～ 64 は無文で、65 ～ 69 はキザミを有する。70・71 は粗製土器の胴部で、押圧のある隆帯がめぐる。71 は縦位平行沈線と蛇行文が見られる。72・73 は胴部下半に浅い沈線が施される。74 は平行沈線間にキザミを有し、それより上位に RL が見える。75 ～ 77 は弧状の沈線を施す。安行Ⅲｄ式。78 は無文の底部で立ち上がりから鉢か浅鉢であろう。

79・80 は有茎式の石鏃で、共にチャート製である。79 が残存長 3.7 ㎝、最大幅 1.5 ㎝、最大厚 0.4 ㎝、重さ 1.9 ｇである。80 が残存長 3.1 ㎝、最大幅 2.2 ㎝、最大厚 0.5 ㎝、重さ 3.4 ｇである。81 は完形の分銅形を呈する打製石斧で緑泥石片岩製である。自然面を残している。長さ 9.2 ㎝、最大幅 5.0 ㎝、最大厚 1.2 ㎝、重さ 83.1 ｇである。82 は磨石で凝灰岩製である。裏面に平滑面をもつ。長さ 7.0 ㎝、最大幅 5.5 ㎝、最大厚 3.6 ㎝、重さ 175.3 ｇ。

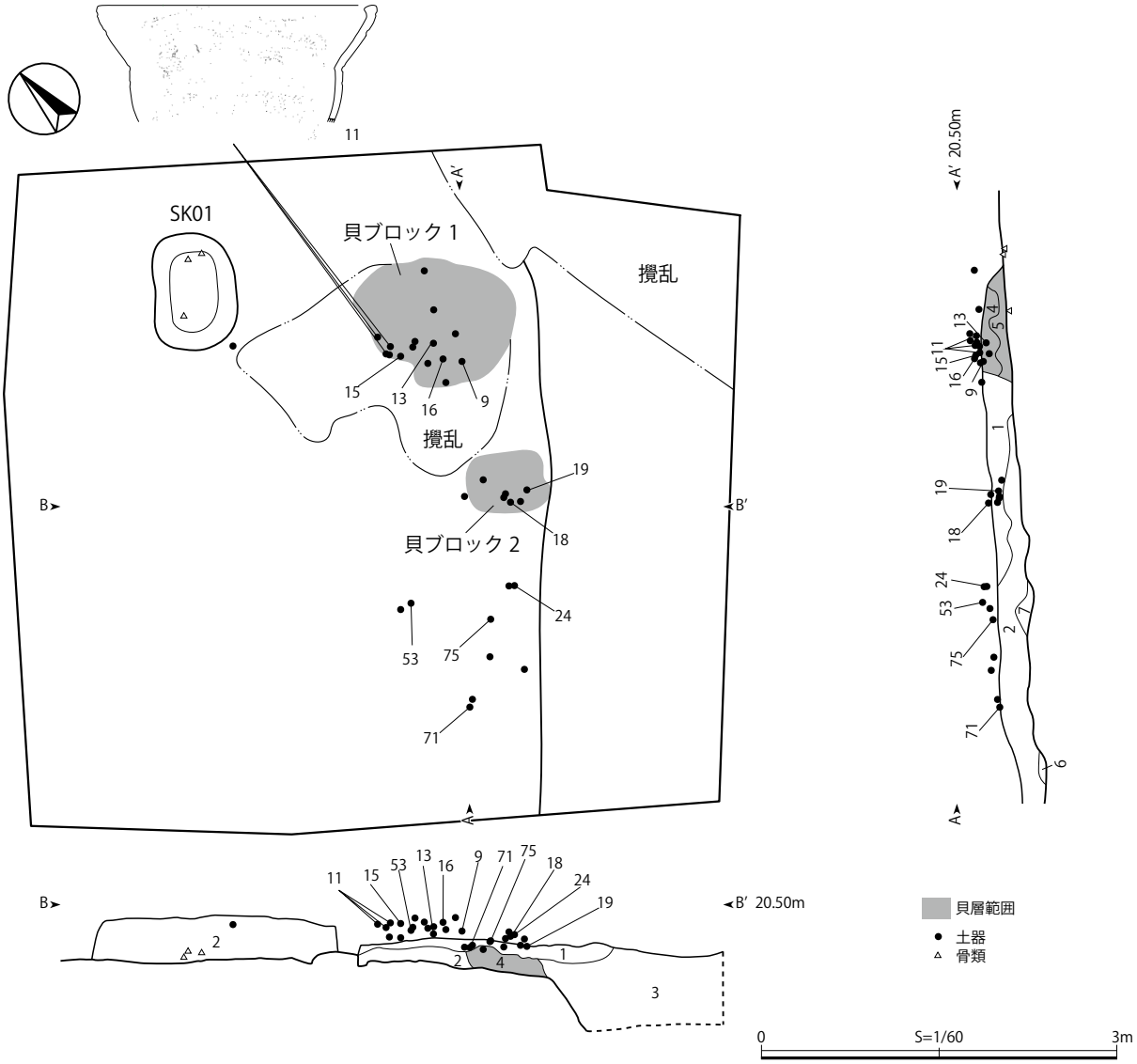
試掘時出土遺物（第８図　図版５）

土器：83 は LR を地文に沈線を描く。波頂部直下に円孔をもつ。堀之内 1 式。84 は口縁部直下に沈線が巡る無文の浅鉢。85 は注口土器の注口部。84・85 は加曽利 B 式。86 は隆起縄文帯と刺突列を持つ。安行Ⅰ式。

その他（第８図　図版５）

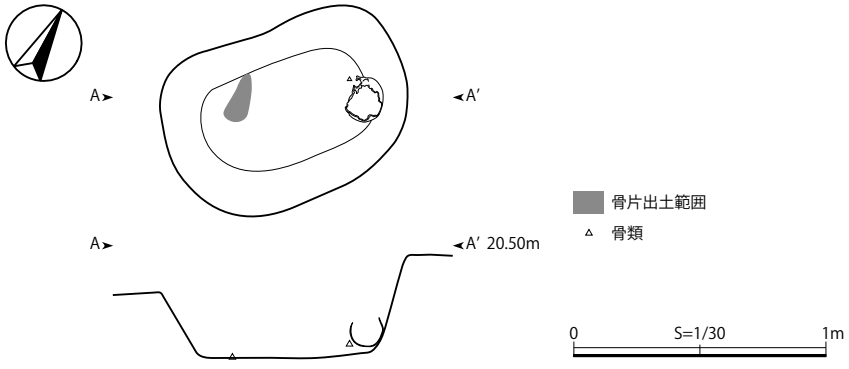
調査区南側の近世以降の溝跡と思われる層から出土した。

陶磁器：87 は常滑窯産陶器の鉢で、14 世紀後半の所産と思われる。流れ込みであろう。

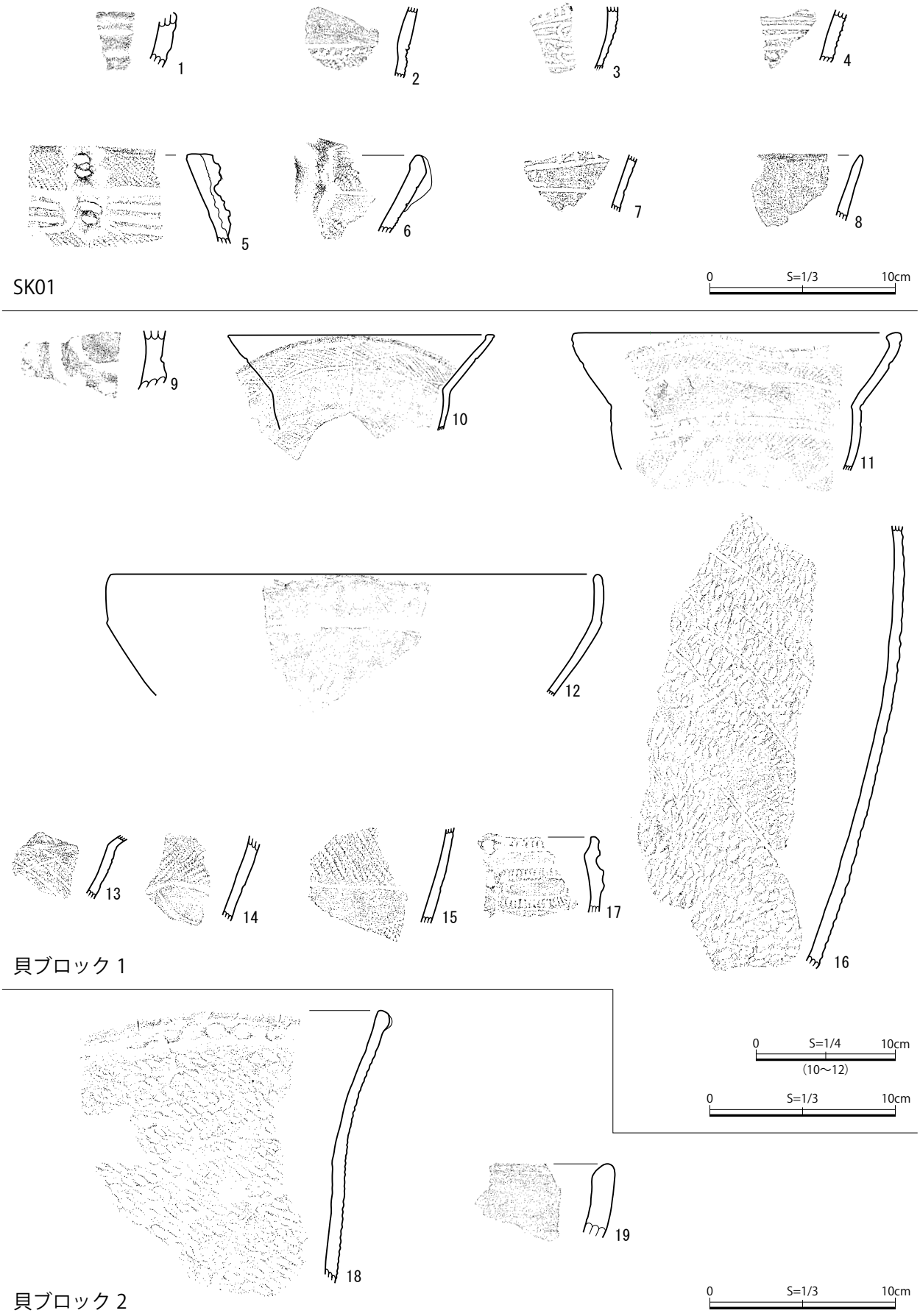


	土色	締り	粘性	混入物・備考
1	灰褐色土	なし	なし	ロームブロック（φ20 ～ 30 ㎜）、炭化材を多く含む（現代の攪乱）。
2	暗褐色土	なし	なし	ロームブロック（φ20 ～ 30 ㎜）、ローム粒子を多量含む。
3	暗褐色土	なし	なし	ローム粒子を少量含む。均一性の高い層（近世以降の遺構か）。
4	暗褐色混土貝層	あり	なし	ローム・炭化粒子を含む。貝はハマグリ、ヤマトシジミが主体。
5	暗褐色土	あり	あり	ローム粒子、炭化粒子、貝片を含む。
6	暗褐色土	あり	なし	焼土粒子を多量含む。
7	暗黄褐色	なし	なし	ローム粒子を主体とする。

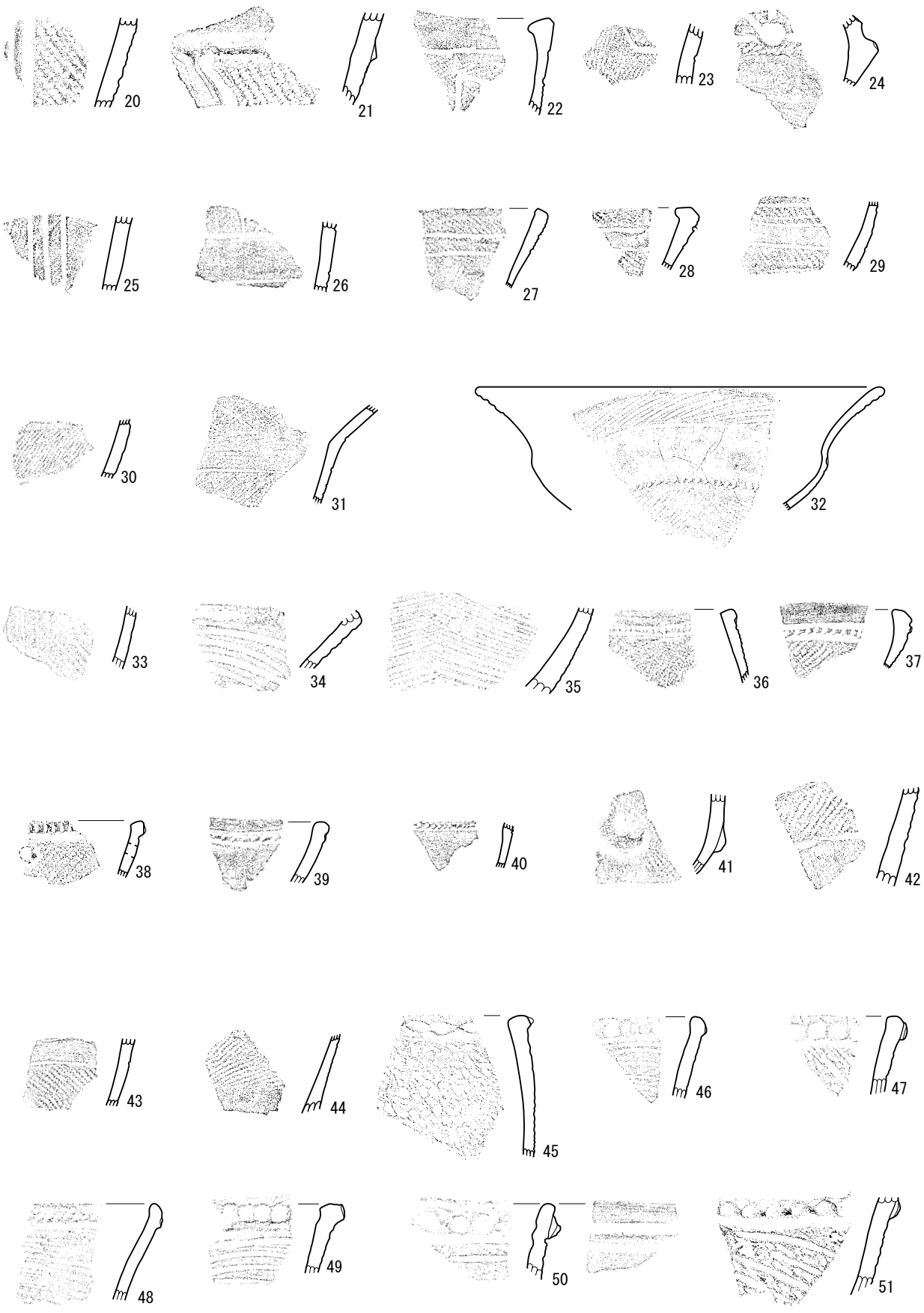
第３図　西ヶ原 3-12-23 地点　調査区全体平断面図・遺物出土図



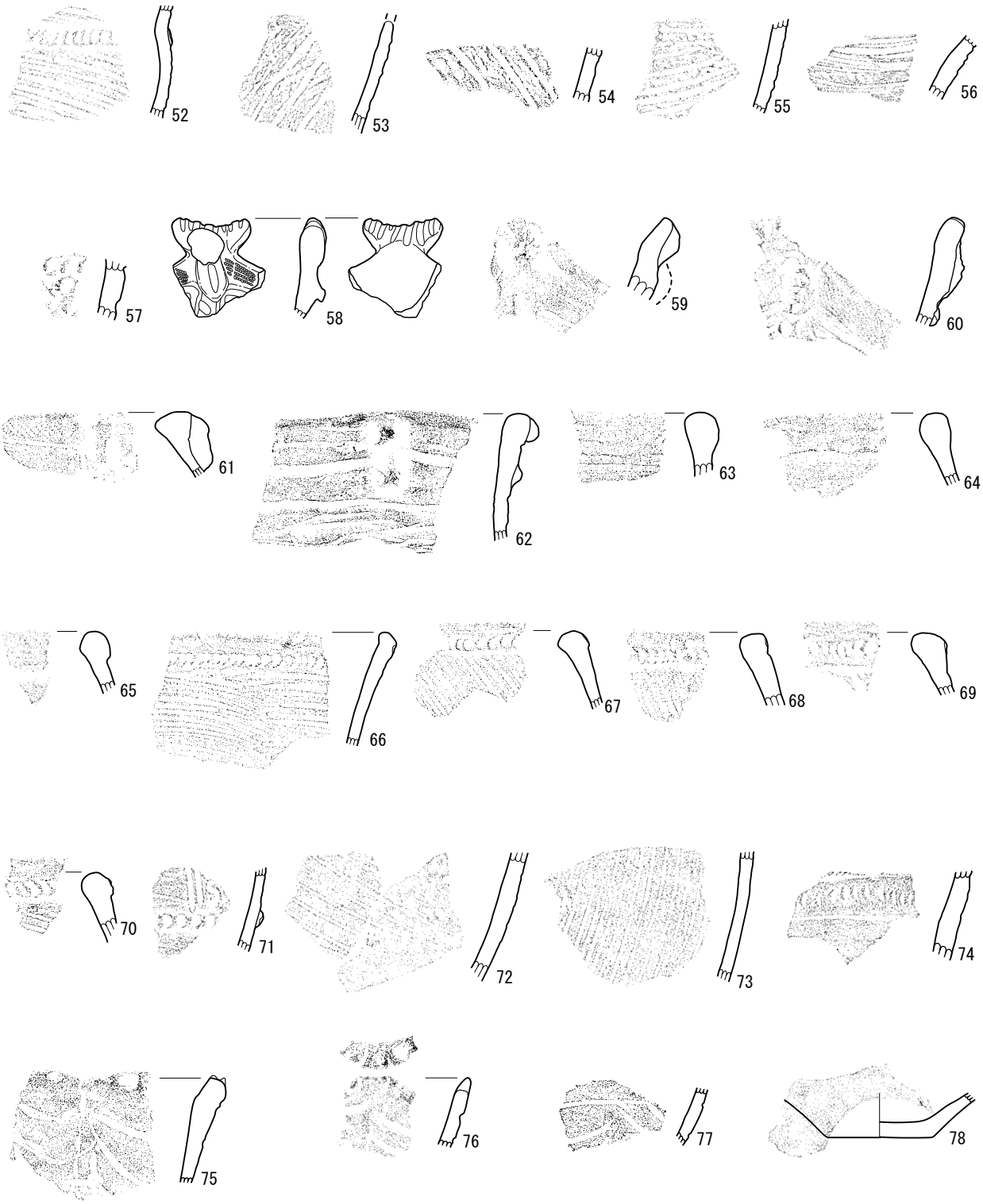
第４図　西ヶ原 3-12-23 地点　SK01 平断面図・遺物出土図



第 5 図　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物実測図（1）



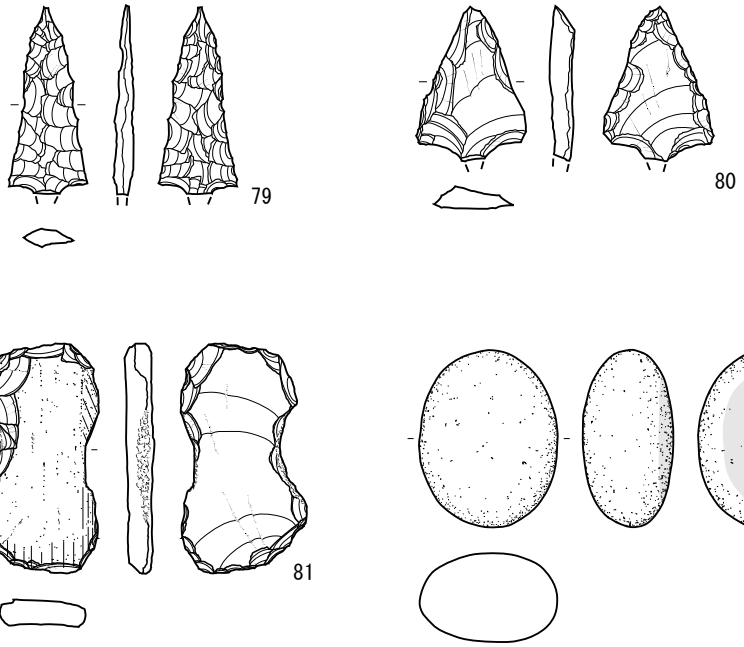
第６図　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物実測図（２）



包含層

0 S=1/4 10cm (78)　0 S=1/3 10cm

第7図　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物実測図（3）



第８図　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物実測図（４）

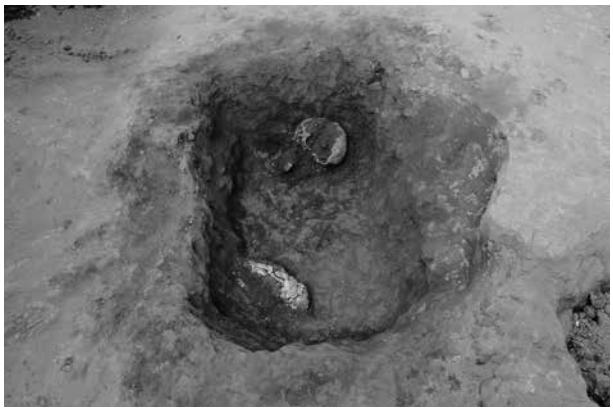
調査区全景（北から）

貝ブロック上面検出状況（東から）

貝ブロック 1 断面（南から）

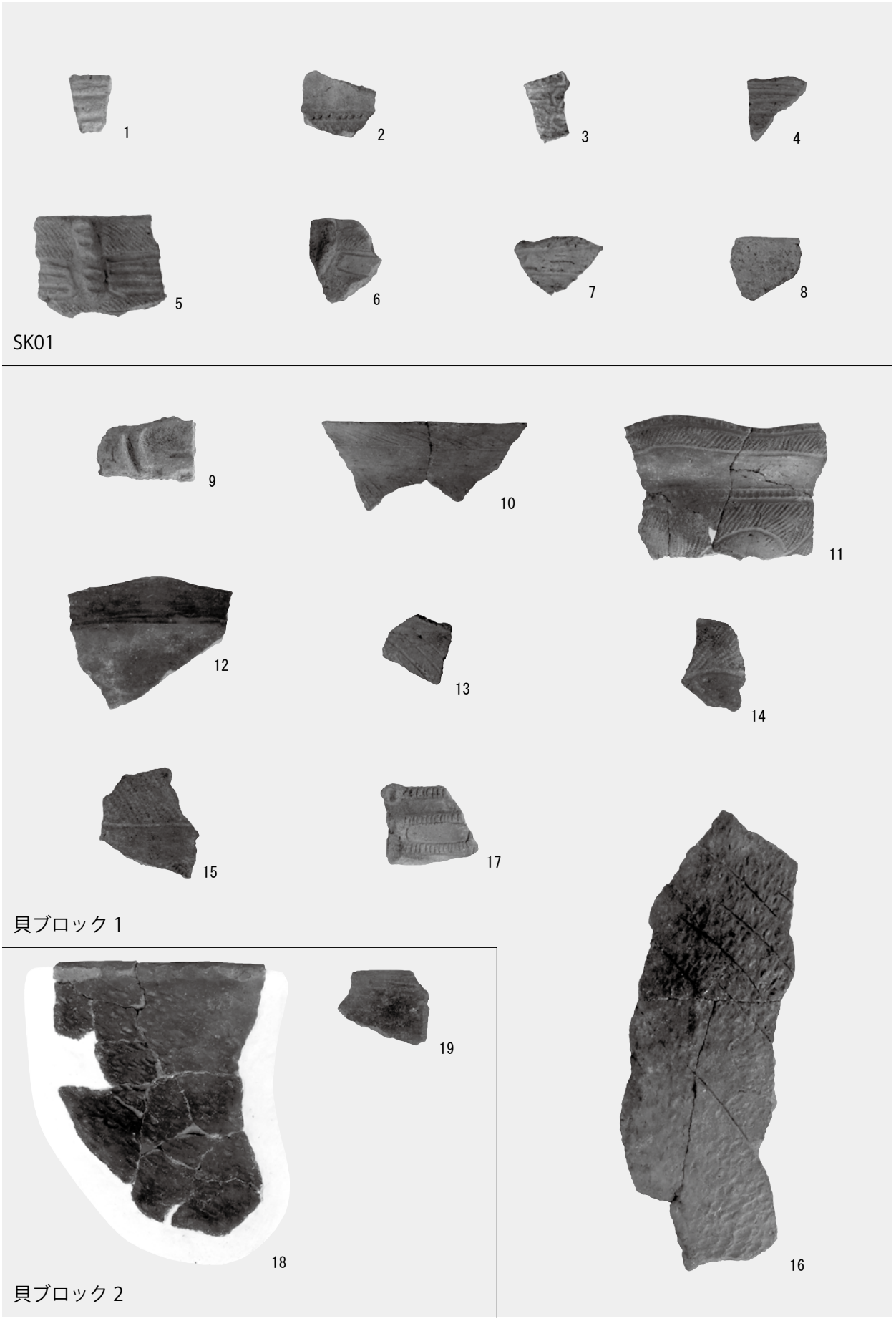
貝ブロック 1 遺物出土状況（北から）

貝ブロック 2 断面・遺物出土状況（西から）

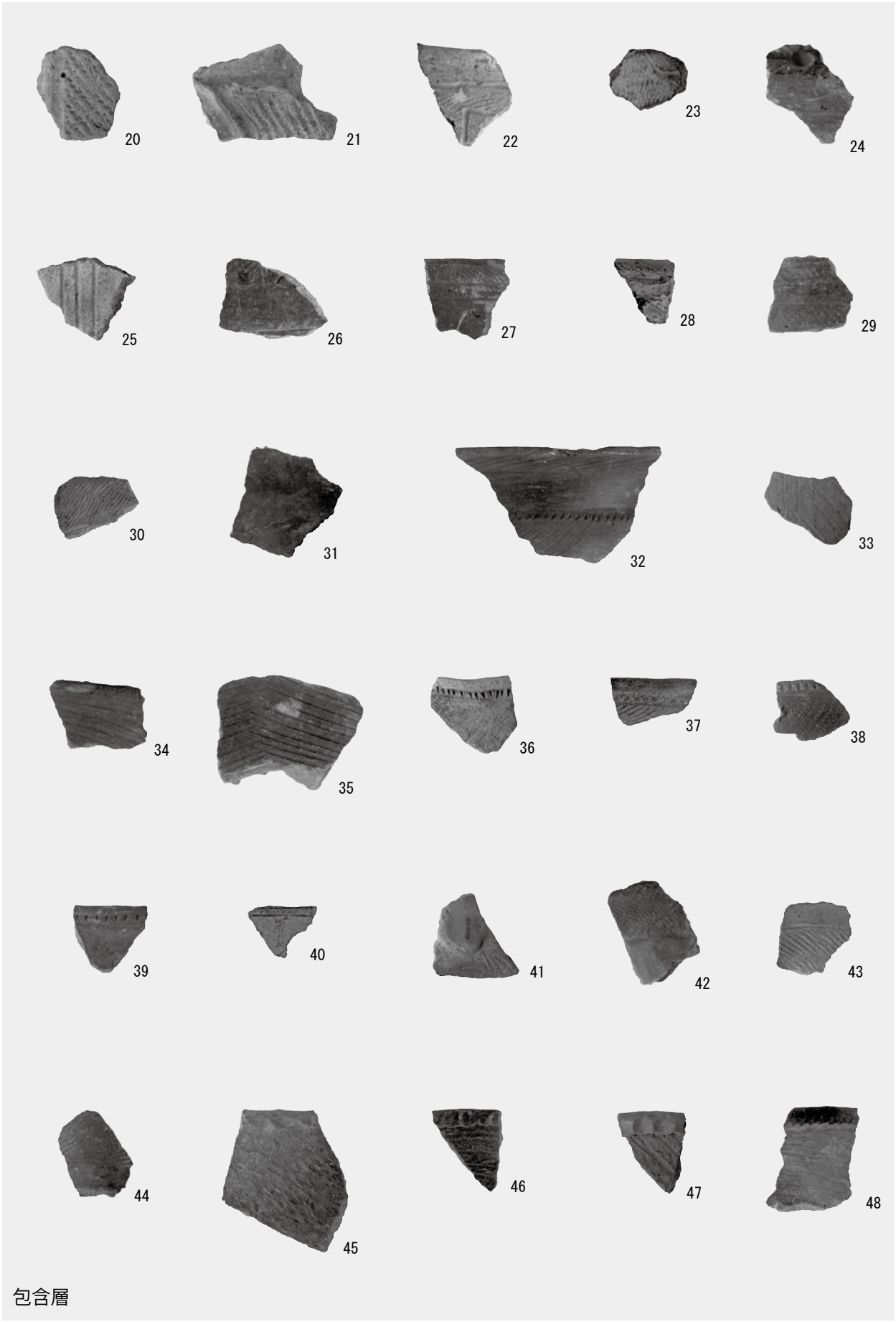


SK01 人骨出土状況（西から）

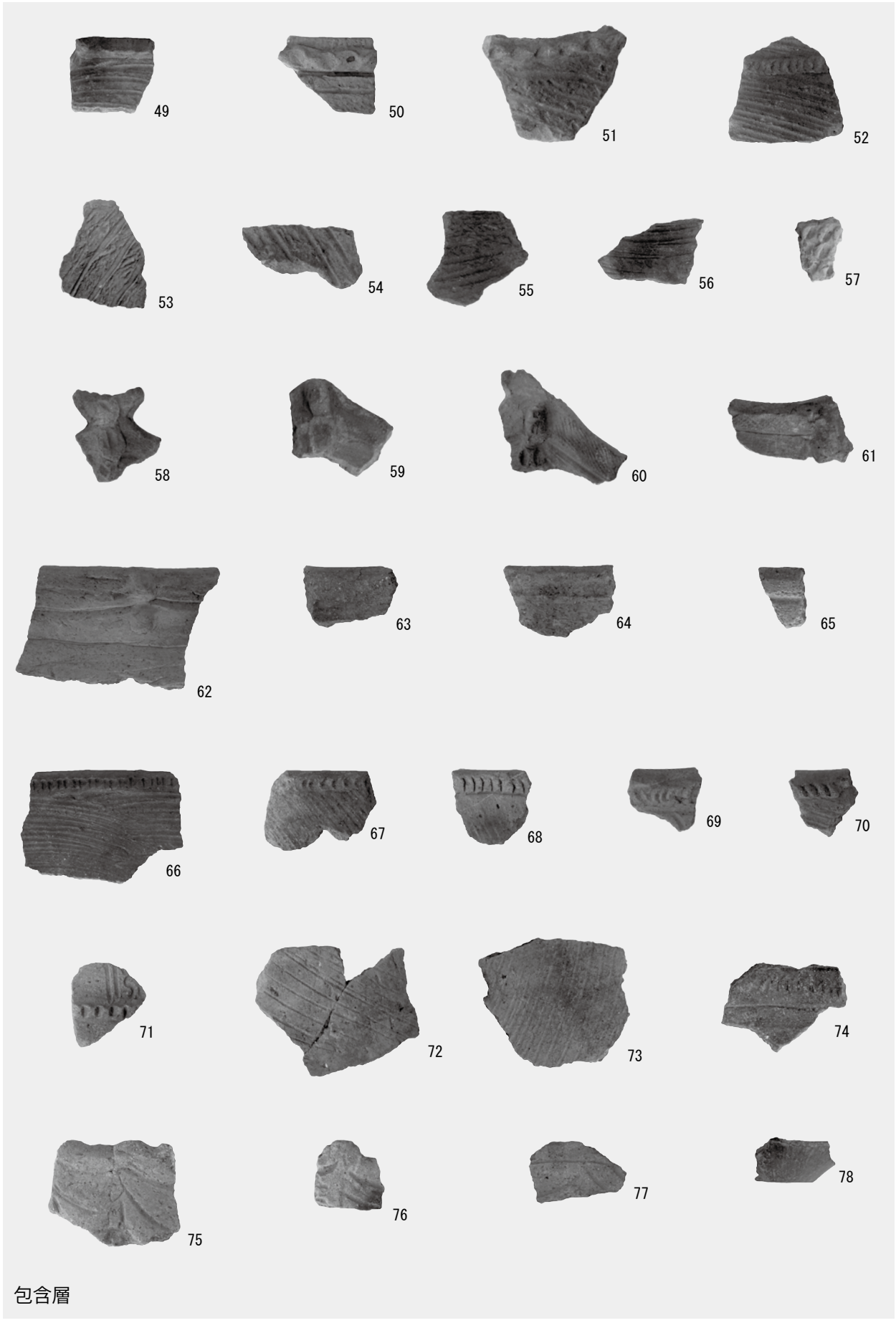
図版 1　西ヶ原 3-12-23 地点



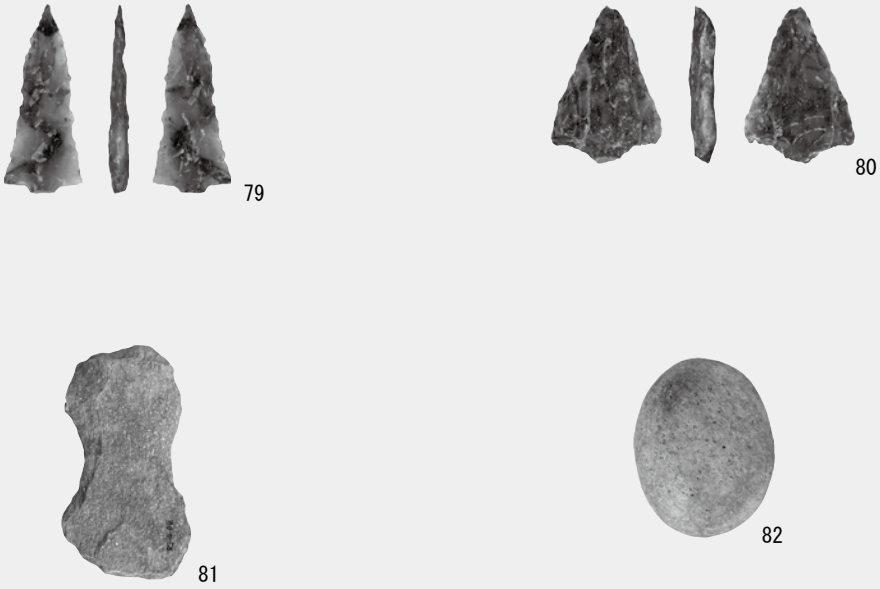
図版 2　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物（1）



図版３　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物（２）

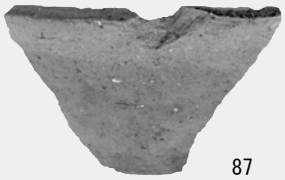


図版４　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物（３）



包含層

試掘・第 2 トレンチ



その他

図版 5　西ヶ原 3-12-23 地点　出土遺物（4）

報告書抄録

ふりがな	とうきょうときたく　れいわさんねんどはっくつちょうさ　にしがはらかいづか
書　　名	東京都北区　令和３年度発掘調査　西ヶ原貝塚
副 書 名	－西ヶ原３‐12‐23 地点－
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	牛山英昭　高坂勇佑　宅間清公
編集機関	東京都北区教育委員会事務局　教育振興部　飛鳥山博物館
所 在 地	〒 114‐0002　東京都北区王子１‐１‐３　　℡ 03(3916)1133
発行年月日	令和５年（2023）３月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″	（発掘調査）	面積	
西ヶ原貝塚（にしがはらかいづか）	東京都北区（とうきょうときたく）西ヶ原（にしがはら）3-12-23	13117	27	35° 44′ 35″	139° 45′ 34″	令和３年（2021）７月 26 日 ～ 同年８月５日	33.2 ㎡	分譲住宅

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西ヶ原貝塚	集落	縄文時代	貝塚 土坑	縄文土器（後期から晩期） 石器（石鏃・叩き石）	

要約	本調査地点は、酒詰仲男により想定された馬蹄形貝塚の開口部に位置する。 調査では土坑１基と貝層ブロックが検出された。土坑からは屈葬位で埋葬されたと考えられる人骨が見つかっている。また貝層ブロックからは、縄文時代後期中葉の加曽利Ｂ式を主体とする縄文土器が出土している。

資料の保管機関	東京都北区教育委員会事務局　教育振興部　飛鳥山博物館 〒 114‐0002　東京都北区王子１‐１‐３ TEL 03（3916）1133　FAX 03（3916）5900

北区埋蔵文化財調査年報
－令和3年度－

令和5年3月 25 日　印刷
令和5年3月 31 日　発行

刊行物登録番号
4－1－135

編集　北区飛鳥山博物館
〒 114-0002　東京都北区王子 1-1-3
電話　03-3916-1133
発行　東京都北区教育委員会
〒 114-8546　東京都北区滝野川 2-52-10
印刷　文明堂印刷株式会社
〒 114-0032　東京都北区中十条 2-15-12
電話　03-3908-3466